

東北大学生の生活と意識 に関する調査

2020 年度行動科学基礎実習報告書

目次

はじめに

(小川和孝) 1

「東北大生の SNS 利用について」

(安彦七海・吉岡祥菜・米澤勇輝) 2

「オンライン授業の特性とその影響」

(上田真司・岡本祐伍・齋藤裕哉・山田理彩子) 17

「大学生のコロナ禍の生活——生活時間の変化と学生の不安感」

(近江葉奈・大岡里彩・伊藤利恵) 28

「東北大生の社会政治関心」

(白田慎成・樋口創太・山崎莉子) 45

「大学生の健康——スマホ依存度と所属団体の観点から」

(立原瑞季・本田千理) 57

調査票 70

基礎集計表 105

はじめに

小川和孝

本報告書は、2020 年度前期に東北大学文学部行動科学専修において開講された「行動科学基礎実習」の受講者による論文をまとめたものである。この授業では社会調査の企画、設計、実査、分析、報告までの一連のプロセスを学生が経験することで、社会調査を実施する知識・技能を習得することを目的としている。

今年度の調査では、東北大学の文学部、教育学部、法学部、経済学部の 4 学部において開講された授業を対象に、授業担当の先生を通じて履修している学生への調査協力を依頼した。今年度は新型コロナウイルスの世界的な流行により、この授業を含むほぼすべての前期の授業はオンラインによって実施されることになった。そのため調査についても Google フォームを利用したウェブ調査という形で行った。一斉オンライン授業への対応のために大学の推奨する Google Classroom を使用されている先生が多く、それを通じて授業を履修する学生へ調査フォームを転送していただくケースも多くなった。

調査項目は学生の立てたりサーチ・クエスチョンを反映したものになっている。詳しくは巻末の調査票を参照されたい。有効回答数は 349 件であった。こちらでも詳しくは巻末の基礎集計表を参照いただきたいが、回答者の属性では男女がおおよそ半数ずつ、学年では 1 年生が約 30%、2 年生が約 40%を占めている。

受講者には関心の近さによって、合計 5 つの班にわかれて報告書を執筆してもらった。その内容としても、オンライン授業の評価や、自粛生活の影響など、新型コロナウイルスの影響を反映しているものもある。いずれも貴重なデータを使用した、ユニークな視点が入り込められている。

調査に協力をいただいた学生の皆様と、対象授業の担当の先生方には心から御礼を申し上げたい。今年度はオンライン授業への対応などで例年にも増して多忙をきわめる先生方が多く、調査の依頼をしてもよいかどうか不安もあったものの、協力にご快諾をいただいた先生方が多かったのには感謝をしてもしきれないほどである。

また行動科学研究室博士課程の下窪拓也さんにはティーチング・アシスタントとして、授業準備や学生の分析に関するアドバイスなどを担当していただいた。今年度からこの授業の担当となった筆者の拙い授業運営を大いにサポートしていただいたことに、記して感謝申し上げる。

東北大生の SNS 利用について

安彦七海・吉岡祥菜・米澤勇輝

1. 研究関心の設定とリサーチクエスチョンの設定について

大学生活で、コミュニケーションや情報収集のツールとして SNS（ソーシャルネットワークワーキングサービス）の利用が欠かせないものになってきている。SNS には種類によって不特定多数の人に向けたコミュニケーションである“投稿”と特定の個人とコミュニケーションをとる“メッセージ”の二つの面があり、より広く交流を持つためにも、仲を深めるためにも SNS の使用は有効な手段である。

しかし便利な一方で問題もある。投稿の面に着目したとき、SNS への投稿へは承認欲求との関連が指摘される。両者の関係については、新聞やネットニュースなどでしばしば取り上げられ議論されている。また、それとつながる形で、精神的苦痛の原因となってしまうケースも少なくない。直接的に悪口を言われたり無視をされたりすること以外にも、他者同士の口論を目にしたり他者の投稿によって劣等感を感じることもストレスに繋がるのではないかと考える。

一方で、メッセージ機能は対象が主に既存の友人関係であることが多いため、友情を深める手段の一つとして、友人関係に良好な影響を持つと考えられる。特に、2020 年 7 月現在、コロナウイルスの影響下にあり、非接触でできるコミュニケーションの手段として SNS は注目されている。

以上を踏まえ、東北大生がどのような SNS ツールを使いどのように影響しているかを調べることで、SNS の利用価値を知り、東北大生の精神の健康や良好な友人関係の構築に役立てられると考える。

2. 先行研究と仮説

2.1 先行研究

正木（2018）より、マズローの欲求 5 段階説では、人間の欲求は低次のものから「生理的欲求」「安全の欲求」、「所属と愛の欲求」、「承認の欲求」、「自己実現の欲求」の 5 つに分類され順に求めていくものとされている。ここで注目したいのは、「所属と愛の欲求」（以下所属欲求）である。所属欲求は、家族や友人をはじめ周囲の人々に受け入れられている、自分がある集団の一員であると感じることで満たされる。しかし、現代では核家族化や地域社会のつながりの衰退、キャラ化による表面的なコミュニケーションなどにより所属の欲求を満たせるような集団やアイデンティティ、集団におけるコミュニケーションが希薄化している。承認欲求は所属欲求の上位にあるが本質的なところは似ている。所

属によって満たされなかった欲求を SNS の発展により、“投稿”の機能を使うことで簡単に求められるようになった承認欲求を多く求めることで代替している可能性が考えられる。

欲求解消のための SNS 利用という観点で見た時、正木（2018:42）によると承認欲求は賞賛獲得欲求と拒否回避欲求から成り、また、「もし～ができたなら愛してあげる」という「条件付きの承認」の特徴がみられる現代の親子関係に対して SNS では親子ではない他人から、無条件に承認される可能性がある、と述べている。その中で、SNS で承認されるということを「常に誰かに設定された承認の条件に向かって動き続けなければならないという意味でもある。しかし承認の根拠があいまいなまま『ありのまま』を受け入れてもらうよりも、与えられた明確な条件のもと、それを追いかけていけばよいという安心感の方を今のひとは選んだのではないか」としている。

岡本（2016）では、SNS の利用目的がストレスの内容に影響を与え、利用時間はさほど影響しないということが明らかにされている。（例：友人関係維持や欲求解消が目的である場合ストレスが高く、暇つぶしが目的の場合ストレスが低い、など）また、岡本（2016）では SNS 利用者が持つ欲求の内容については明らかになっていない。個人が持つ承認欲求の度合いや性質を明らかにすることで正木が述べるような欲求解消のための SNS 利用に伴うストレスを具体的に理解することができると考える。

一方、SNS の利用と友人関係満足度の関係性については次のような研究がある。河合（2014）によると、ソーシャルメディアをよく閲覧することが孤独感を高め、よく投稿することが友人関係満足度を低くする可能性を示唆している。また、叶（2019）によると、Twitter を頻用すると、人が他人と多くの社会的比較を行うため、その結果友人関係満足度が下がるということを示している。しかし、両者の研究では、LINE のような、友人間でメッセージをやり取りすることによる友人満足度の影響については述べられていない。

SNS でのメッセージのやり取りに関しては大学新入生の LINE によるネットワークと友人満足度、および精神的健康との関連について調査した黒川・吉田（2016）の研究がある。その結果、5 月においては 1 日の LINE の平均アクセス回数と友人関係満足度に正の相関がみられたのに対し 7 月においては関連がなかった。これは、5 月は友人関係の形成時期であるから量的な変数が重要になり 7 月になると関係が安定し、関係の質的な側面が満足感に影響するからだと推測されている。

しかし、本調査を行った 2020 年 6 月の時点では、年明けより流行した新型コロナウイルス感染防止による外出自粛が続いており、対面でのコミュニケーションが制限されているため、友人間のやり取りが SNS に限定されていた。よって友人関係が安定した後においても SNS でのメッセージをやり取りすることの価値に変化が起きていると考えられるため、この点を踏まえなければならない。

2.2 仮説

以上を踏まえ、3つの仮説を立てた。

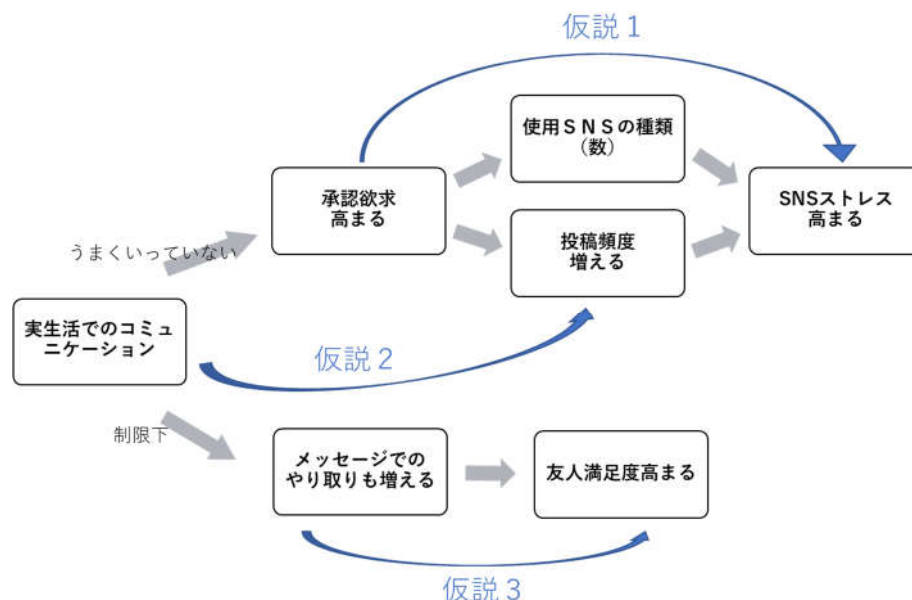
仮説1：承認欲求が高い人ほどSNSでストレスを感じている

仮説2：普段家族や友人と積極的にコミュニケーションをとっていない(所属欲求が満たされていない)人ほど、SNSの投稿頻度が高い

仮説3：対面コミュニケーションが制限されている状況下においては、SNSでのメッセージやり取りの頻度が高いほど、友人関係満足度が上がる。

以下に関係を図式化した。

図1 仮説の関連を示す図



3. 変数の説明

承認欲求スコア

Q59_1「自分が注目されていないと、つい人の気を引きたくなる。」と Q59_2「みなから注目され愛される有名人になりたいと思うことがある」において「あてはまる」から「あてはまらない」までの五件法で尋ねた。この承認欲求尺度に対する回答について信頼性係数を求めるために Cronbach の α 係数を計算したところ、 $\alpha = 0.706$ となったため、2つの設問は単一の構成概念を測定していると判断した。Q59_1 と Q59_2 の回答を反転しその平均をとり承認欲求スコアを作成した。

ストレスに関するダミー変数

Q37_1「SNS を見ていると、他人が自分よりも幸せそうだと感じる。」と Q37_2「何か良い投稿をしなければと、無理に背伸びをしてしまう。」のそれぞれにおいて「あてはまる」から「あてはまらない」までの五件法で尋ねた。さらに「あてはまる」「ど

ちらかといえはあてはまる」の人を 1 としたダミー変数を作成した（ストレスを感じていると回答した人が少なかったため）。Q37_1 を劣等ストレス、Q37_2 を背伸びストレスとした。

利用 SNS 数

Q31「あなたが普段利用している SNS について、あてはまるものすべてを選んでください。(Twitter・LINE・Instagram・Facebook・SNS は利用していない・その他 より選択)」をもとに利用している SNS の数を示す変数を作成した。

実生活コミュニケーション

Q60_1「普段、友達と積極的に会話しているか」、q60_2「普段、親と積極的に会話しているか」の回答を反転して親・友達それぞれとのコミュニケーション頻度を示す変数を作成した。

投稿頻度

Q32「どのくらいの頻度で、SNS に投稿を行いますか (LINE や Twitter の DM やリプライといった個別のメッセージは除く)」を「ほぼ毎日」「1 週間に 4～5 日程度」「1 週間に 2～3 日程度」「1 週間に 1 日程度」「2 週間に 1 日程度」「それ未満」の六件法で尋ね、得た回答を反転させ変数を作成した。カテゴリカル変数としてとらえる。

SNS メッセージやり取り時間

Q33「あなたは、今セメスターに入ってから、平均で一日どのくらいの時間友人と SNS でメッセージのやり取り (LINE や Twitter の DM やリプライ) をしていますか」の回答について以下のように値を直した。

5 分未満→5

5～15 分未満→10

15～30 分未満→22.5

30 分～1 時間未満→45

1 時間～2 時間未満→90

2 時間以上→120

最も多いメッセージやり取り内容

Q34「今セメスターに入ってから、友人との SNS でのメッセージのやり取り (LINE や Twitter の DM やリプライ) において、もっとも多い会話の内容は以下のうちどれですか。」の回答(「事務連絡」、「遊びや飲み会の約束」、「愚痴や悩みごとの相談」、「近況報告」、「その他」)について、近況報告を基準カテゴリとしたダミー変数を作成。「その他」については NA とした。

友人満足度

Q62「今の自分の友人関係に満足している。」「今の友人関係は、自分が 望んでいる

ものと違うと思う。」「今の友人付き合いが本当 はつらい時がある。」の 3 つの回答 (「あてはまる」、「少し当てはまる」、「どちらともいえない」、「あまりあてはまらない」、「あてはまらない」)を使用した。なお、質問「今の自分の友人関係に満足している。」については回答の値を反転させた。3 つの回答について Cronbach の信頼性係数を確認したところ、 $\alpha = 0.739$ であったため、内的整合性があると判断し、3 つに質問項目を足し合わせ友人満足度尺度を作成した。

4. 分析結果

4.1 記述統計

以下に記述統計を示す。

4.1.1 東北大生の SNS 利用状況

図 4.1.1. Q31 利用している SNS (複数回答可)

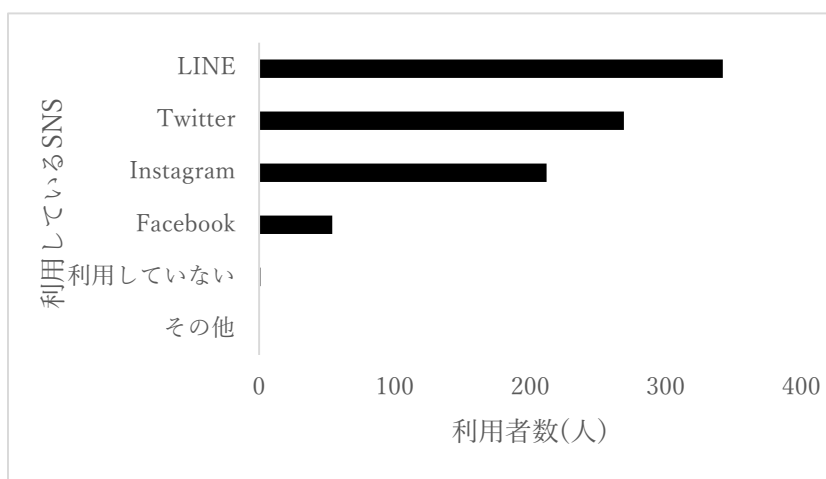


図 4.1.2. Q32 SNS への投稿頻度

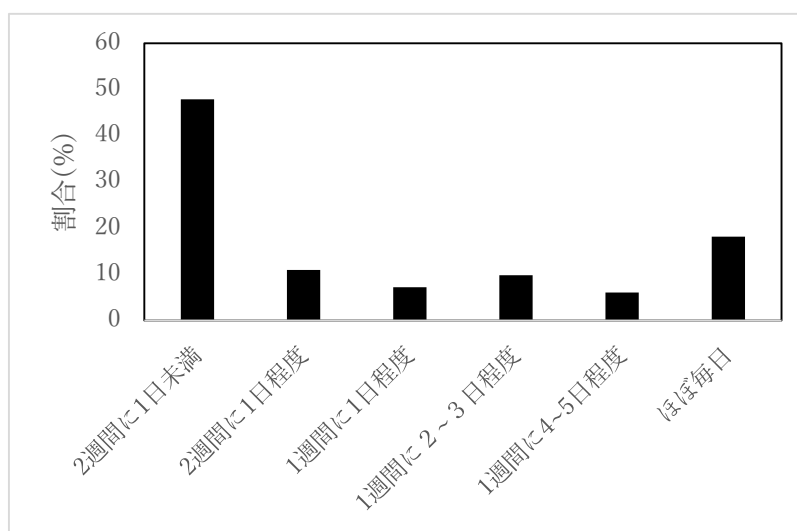
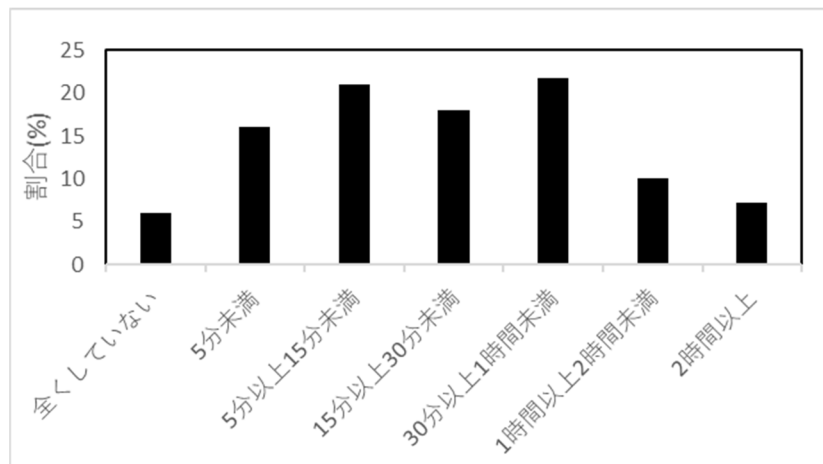


図 4.1.3. 今semesterにおける1日の平均SNSメッセージやり取り時間



東北大生の利用している SNS で最も多かったのは LINE であり、次いで Twitter、Instagram、Facebook の順に利用者が多かった。SNS の利用頻度について、投稿は半数近くの人が2週間に1度程度にとどまり、友人との SNS メッセージのやり取り時間は過半数が1時間未満であった。

4.1.2 東北大生のコミュニケーション頻度

図 4.1.4 普段友人と積極的にコミュニケーションをとっている

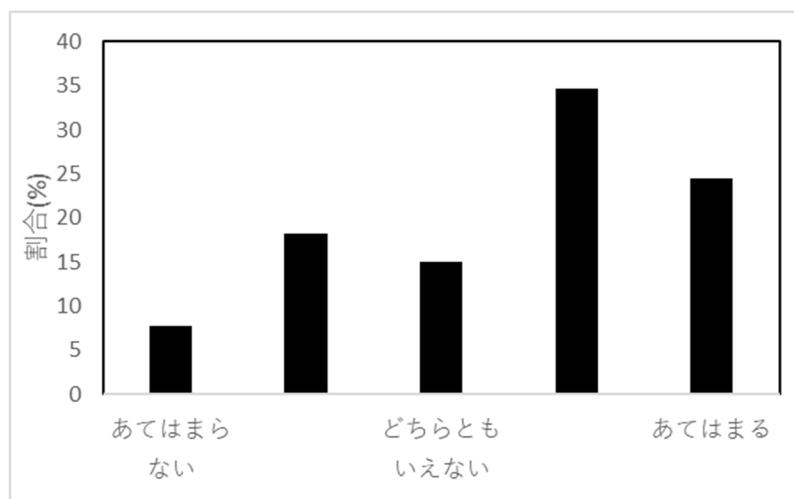
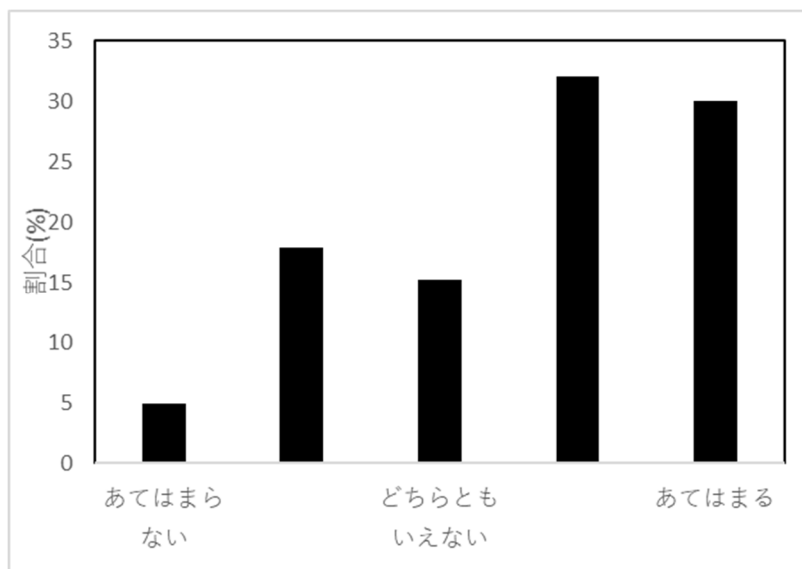


図 4.1.5 普段親と積極的にコミュニケーションをとっている



東北大生のコミュニケーション頻度について上記のグラフのような結果が得られた。友人や親と積極的にコミュニケーションをとっている人が過半数であった。積極的にコミュニケーションをとっていないと答えた人も 2 割強と想像していたよりも多いという印象であった。

4.1.4 東北大生の SNS ストレス

図 4.1.6 SNS を見ていると、他人が自分よりも幸せそうだと感じる。(劣等ストレス)

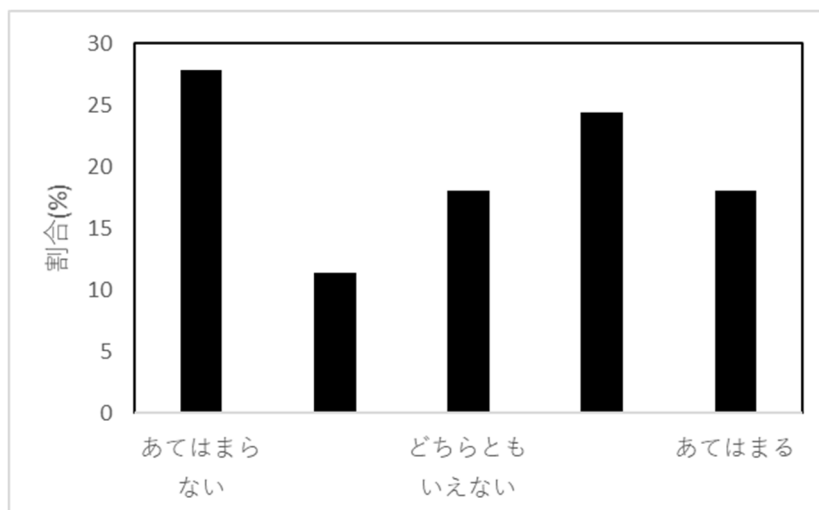
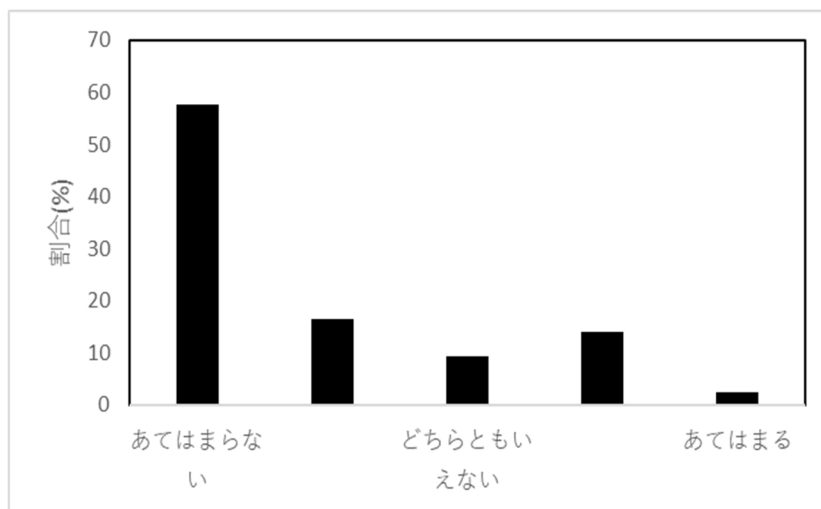


図 4.1.7 何か良い投稿をしなげればと、無理に背伸びをしてしまう。(背伸びストレス)



東北大生が SNS を通して感じているストレスについて上記のグラフのような結果が得られた。劣等ストレス、背伸びストレスどちらにおいてもストレスを感じている人の割合は少なかった。劣等ストレスの方が、背伸びストレスよりも多くの人が感じている、という結果になった。

4.2 回帰分析

4.2.1 仮説 1

まず、従属変数を劣等ストレス、独立変数を承認欲求スコアとして二項ロジスティック回帰分析を行った結果を表 4.2.1 に示す。

表 4.2.1.劣等ストレスに関する二項ロジスティック回帰分析

	B	S.E
切片	0.101	0.066
承認欲求スコア	0.124 **	0.023
Nagelkerke R2	0.160	
N=348	**p<0.01	

劣等ストレスという観点において承認欲求の影響が 1%水準で有意に認められた。次に従属変数を背伸びストレス、独立変数を承認欲求スコアとして二項ロジスティック回帰分析を行った結果を表 4.2.2 に示す。

表 4.2.2.背伸びストレスに関する二項ロジスティック回帰分析

	B	S.E
切片	-0.085	0.049
承認欲求スコア	0.095 **	0.017
Nagelkerke R2	0.160	
N=348	**p<0.01	

背伸びストレスにおいても承認欲求の影響が 1%水準で有意に認められた。利用 SNS 数や投稿頻度がストレスの有無に影響を与える可能性を考慮し、それらを統制変数に加えた分析を以下に示す。表 4.2.3 は劣等ストレスに対する承認欲求スコアの影響を統制変数も含めて二項ロジスティック回帰分析を行った結果である。

表 4.2.3.劣等ストレスに関する二項ロジスティック回帰分析

	B	S.E
切片	-0.030	0.092
承認欲求スコア	0.112 **	0.024
利用SNS数	0.047	0.031
SNS投稿頻度	0.017	0.014
Nagelkerke R2	0.127	
N=348	**p<0.01	

同様に、背伸びストレスにおいても統制変数に利用 SNS 数と投稿頻度を加えて二項ロジスティック回帰分析を行った結果を表 4.2.4 に示す。

表 4.2.4 背伸びストレスに関する二項ロジスティック回帰分析

	B	S.E
切片	-0.166 *	0.068
承認欲求スコア	0.084 **	0.018
利用SNS数	0.018	0.023
SNS投稿頻度	0.023 *	0.010
Nagelkerke R2	0.193	
N=348	**p<0.01 *p<0.05	

統制変数を入れても、ストレスに対する承認欲求の影響が 1%水準で有意に認められた。このことから、劣等ストレスと背伸びストレス両者において承認欲求がそ

の一因となっていることが明らかとなり、仮説が支持される結果となった。また、背伸びストレスよりも劣等ストレスの方が係数が大きく、より強く承認欲求の影響を受けているということが分かった。

4.2.2 仮説 2

仮説 2 では欠損値を除いたサンプル数は 345 であった。

○2 変数の関連について

まず、独立変数を友達とのコミュニケーション、従属変数を投稿頻度として順序ロジスティック回帰分析を行った結果を表 4.2.5 に示す。

表 4.2.5 投稿頻度に関する順序ロジスティック回帰分析

	B	S.E
切片1	-0.719 *	0.306
切片2	-1.174 **	0.310
切片3	-1.489 **	0.314
切片4	-1.975 **	0.322
切片5	-2.343 **	0.329
友人とのコミュニケーション	0.232 **	0.081
Nagelkerke R2	0.025	
N=345	**p<0.01 *p<0.05	

次に、独立変数を親とのコミュニケーション、従属変数を投稿頻度として順序ロジスティック回帰分析を行った結果を表 4.2.6 に示す。

表 4.2.6 投稿頻度に関する順序ロジスティック回帰分析

	B	S.E
切片1	-0.533	0.322
切片2	-0.981 **	0.325
切片3	-1.293 **	0.328
切片4	-1.776 **	0.334
切片5	-2.145 **	0.341
親とのコミュニケーション	0.175 *	0.083
Nagelkerke R2	0.014	
N=345	**p<0.01 *p<0.05	

親とのコミュニケーションでは5%水準、友達とのコミュニケーションどちらにおいても投稿頻度との間では1%水準で有意な正の関係が見られた。つまり、友人、家族に関わらず積極的にコミュニケーションしている人ほど投稿頻度が高いという結果になり、仮説は支持されなかった。

仮説は証明されなかったが、実生活コミュニケーションと投稿頻度の間に承認欲求を介した何らかの関係があるのかについて検討してみた。

独立変数を友達とのコミュニケーション、従属変数を投稿頻度、統制変数として承認欲求スコアを加えて順序ロジスティック回帰分析を行った結果を表4.2.7に示す。

表 4.2.7 統制変数込みの順序ロジスティック回帰分析①

	B	S.E
切片1	-1.661 **	0.394
切片2	-2.134 **	0.400
切片3	-2.460 **	0.406
切片4	-2.957 **	0.415
切片5	-3.333 **	0.422
友人とのコミュニケーション	0.235 **	0.082
承認欲求スコア	0.357 **	0.094
Nagelkerke R2	0.068	
N=345	**p<0.01	

統制変数として承認欲求を加えても友達とのコミュニケーションについては1%水準で有意な正の関係が見られた。承認欲求についても1%水準で有意な正の関係が見られた。統制変数を含める前後で友達とのコミュニケーションの係数はわずかに増えた。また、個別に見ると、友達とのコミュニケーションは承認欲求に対し統計的に有意な効果はなく、承認欲求と投稿頻度に統計的に有意な正の差が見られた。

次に、独立変数を親とのコミュニケーション、従属変数を投稿頻度、統制変数として承認欲求スコアを加えて順序ロジスティック回帰分析を行った結果を表4.2.8に示す。

表 4.2.8 統制変数込みの順序ロジスティック回帰分析②

	B	S.E
切片1	-1.457**	0.402
切片2	-1.922**	0.407
切片3	-2.245**	0.412
切片4	-2.739**	0.420
切片5	-3.114**	0.428
親とのコミュニケーション	0.174*	0.084
承認欲求スコア	0.355**	0.094
Nagelkerke R2	0.056	
N=345	**p<0.01, *p<0.05	

統制変数として承認欲求を加えても、親のコミュニケーションについては5%水準、承認欲求については1%水準で有意な正の関係が見られた。統制変数を含める前後で親とのコミュニケーションの係数はほんのわずかに減ったが、個別に見ると、親とのコミュニケーションは承認欲求に対し統計的に有意な効果はなく、承認欲求と投稿頻度に統計的に有意な正の差が見られた。

以上より、承認欲求は投稿頻度に個別の効果を持つのみで、承認欲求を介した実生活コミュニケーションと投稿頻度との関係は認められなかった。

4.2.3 仮説3

仮説3では、調査を行った2020年6月の時点において、大学内への立ち入りが限られていたため、友人関係の形成が十分にできないと判断し、学部生のデータに限定し、1年生を分析から除外した。欠損値を除いた上記のサンプル数は217であった。

○2 変数の関連について

まず、独立変数を今semesterでのSNSメッセージやり取り時間、従属変数を友人満足度として単回帰分析を行った結果を表4.2.9に示す。

表 4.2.9 友人満足度に関する単回帰分析

	B	S.E
切片	3.593 **	0.09
メッセージやり取り時間	0.004 *	0.002
調整済みR2	0.023	
N=217	**p<0.01 *p<0.05	

今セメスターでの SNS メッセージやり取り時間と友人満足度について正の効果が見られ、5%水準で有意であった。つまり、今セメスターにおいて、SNS メッセージやり取り時間が長い人ほど友人満足度が上がるということが分かった。

単回帰分析では、メッセージやり取り時間と友人満足度に有意な効果が見られたが、純粹に SNS メッセージのやり取り時間が友人満足度に直接影響しているのかを調べるため、普段の友人との積極的なコミュニケーション頻度と、メッセージの内容を統制変数として加えて重回帰分析を行い、結果を表 4.2.10 に示した。なお、メッセージの内容については「近況報告」を基準カテゴリとしている。

表 4.2.10 友人満足度に関する重回帰分析

	B	S.E
切片	2.51 **	0.212
メッセージやり取り時間	0.002	0.001
友人コミュニケーション	0.321 **	0.054
近況報告(ref.)		
愚痴悩み	-0.026	0.194
事務連絡	0.037	0.147
約束	0.251	0.314
調整済みR2	0.174	
N=202	**p<0.01	

今セメスターにおけるメッセージやり取り時間と友人満足度に有意な差は見られなかった。しかし、普段友人と積極的にコミュニケーションをとっている人ほど友人満足度が高くなり、これは1%水準で有意であった。

また、友人との積極的なコミュニケーション頻度とメッセージやり取り時間の関係を調べるために、前者を独立変数、後者を従属変数として回帰分析を行った。そ

の結果を下の表に示す。

表 4.2.11 今セメスターSNS やり取り時間に関する単回帰分析

	B	S.E
切片	8.307	7.241
友人コミュニケーション	8.125 **	1.929
調整済みR2	0.072	
N=217	**p<0.01	

分析の結果、普段友人と積極的にコミュニケーションをとる人ほど、今セメスターにおける SNS メッセージやり取り時間が多くなり、これは 1%水準で有意であった。よって、今セメスターのメッセージやり取り時間と友人満足度の関連性は見られないが、友人満足度とメッセージやり取り時間はどちらも積極的な友人コミュニケーションの影響を受けることが分かった。

5. 考察と結論

まず仮説 1 の承認欲求と SNS ストレスの関係について、統制変数の有無にかかわらず承認欲求と SNS ストレスに相関が認められたことから、承認欲求が高いほど SNS でストレスを感じている、という仮説が成立した。また、ストレスの内容として「他人の方が幸せそうだと思う」という劣等ストレスと「何かいいことを投稿しなければと思う」という背伸びストレスに分けると、劣等ストレスの方が承認欲求の影響を強く受けていた。これは承認欲求の中の拒否回避欲求によって、「周囲と同じになりたい」という感情が「周囲のことをより知りたい」→「周囲と自分との違いが気になる」ということに繋がり、ストレスに繋がっていると考えられる。先行研究で明らかになっていなかった「どのような欲求が SNS でのストレスに影響しているのか」ということについて、承認欲求が特に上記のような劣等ストレスに影響を与える一因であるということが分かった。

仮説 2 について、家族や友人とのコミュニケーションの SNS での投稿頻度についての直接効果は、友達、家族どちらにおいても正の効果が見られた。これについては、コミュニケーションが多い人は、元々人に情報を提供することが好きだったり、つながりを感じていたいという気持ちが強かったりという個性を持っているから投稿が増える可能性があると考えられる。さらにそもそもアカウントを公開している範囲が実際の友人や家族までで、投稿も実生活上の知人に向けての内容である人が多かった可能性も挙げられる。また、承認欲求は投稿頻度に個別の効果を持つのみで、承認欲求を介した実生活コミュニケーションと投稿頻度との関係は認められなかった。ここで

は、Q60 が所属欲求を測る尺度としてふさわしかったかを検討する必要があるといえる。今回は所属欲求への不満を承認欲求で満たそうとするゆえに投稿頻度が増える、ということは証明できなかった

最後に仮説 3 のメッセージのやり取りと友人関係満足度については、積極的コミュニケーション頻度を統制しない場合、メッセージやり取り時間と友人満足度には有意な効果が見られたが、積極的コミュニケーション頻度を統制したところ、メッセージやり取り時間による友人満足度への効果は認められなかった。また、積極的に友人とコミュニケーションをとる人ほど、メッセージやり取り時間が多く、友人満足度も高くなることからメッセージやり取り時間と友人満足度の関係は擬似相関であると考えられる。このことから、対面コミュニケーションが制限されている状況下でも、SNS メッセージのやり取り時間の友人満足度への直接的影響はなく、仮説は完全には支持されなかった。

3 つの分析を考慮すると、実生活のコミュニケーションが個別のメッセージと全体への投稿を含めた SNS 利用全体に影響を与え、友人関係の維持にも役立ってはいるもののそれがストレスの原因となることも明らかとなった。

今回の調査において、東北大生の普段の生活でのコミュニケーションや感じていることが SNS にどのように反映され、SNS によりどのような影響を受けるかを分析することができた。今後の展望としては東北大生の生活満足度等を加味した分析によって、さらに東北大生の SNS との関わり方を明らかにすることができると考える。

引用文献

- 河井大介, 2014, 「ソーシャルメディア・パラドクス——ソーシャルメディア利用は友人関係を抑制し精神的健康を悪化させるか」『社会情報学』 3(1): 31-46.
- 黒川雅幸, 吉田俊和, 2016, 「大学新入生における LINE ネットワークと友人満足感および精神的健康との関連」『実験社会心理学研究』 56(1): 1-13.
- 正木大貴, 2018, 「承認欲求についての心理学的考察——現代の若者と SNS との関連から」『現代社会研究科論集——京都女子大学大学院現代社会研究科紀要』 12: 3-15.
- 岡本卓也, 2016, 「SNS ストレス尺度の作成と SNS 利用動機の違いによる SNS ストレス」『信州大学人文科学論集』 113-131.
- 叶少瑜, 2019, 「大学生の Twitter 使用, 社会的比較と友人関係満足度との関係」『社会情報学』 8(2): 111-124.

オンライン授業の特性とその影響

上田真司・岡本祐伍・齋藤裕哉・山田理彩子

1. リサーチクエスチョン

近年の情報化の流れは教育の在り方に対して徐々に影響を与えてきた。通信教育のように郵送された教材に取り組んだり映像を見て学習したりするだけでなく、ビデオ通話形式でコミュニケーションをとって行う教育形式も増えている。情報化によって、どこにいても学習ができるという環境が実現しつつある。時代の進歩につれ、オンラインでの教育が対面での教育に取って代わる日もそう遠くないかもしれない。文部科学省が令和2年6月に発表した、新型コロナウイルス感染症対策に伴う子どもたちの「学びの保証」に関する施策のなかに、情報通信技術活用によるオンライン学習の確立を挙げており、今後はオンラインでの教育を中心にしていく動きがうかがえる。新型コロナウイルス感染症の影響が、教育のオンライン化の流れに拍車をかけている、といえる(文部科学省 2020a)。

また、新型コロナウイルス感染症の影響で対面授業の実施が難しくなっている。文部科学省の2020年5月12日時点の調査によると、国内の大学などの高等教育機関1046校のうち、96.9%が遠隔授業を実施または実施を検討していると回答した(文部科学 2020b)。東北大学でも今semesterではオンライン授業が実施された。オンライン授業になったことで、授業形式にも変化が見られ、教授も学生も新しいやり方に適合しながらの授業となった。オンライン授業だと、それまで対面でできていたような、その場でのコミュニケーションをとることも難しい。結果的に教授から学生へ一方的に情報を与えるだけ、というような授業になってしまうこともある。学生が自分の好きな時に教材にアクセスするというオンデマンド形式であれば教授にとっても学生にとっても時間的制約がなくなるが、それは同時に堕落を助長することにもつながる。自由を与えられた学生が学習以外に意欲を傾け、学習意欲を低下させるおそれもある。授業の環境がオンラインになったことが授業の理解度や学習意欲に影響を与えるのではないか。

今研究は、全て対面で行われていた授業がオンライン形式へと移行していく動きが加速していることを受け、オンライン授業の特性やその影響に目をつけたものとなっている。

2. 先行研究

まず、授業理解度の規定要因に関して、星野・牟田(2005)は、学生の授業に対する積極的動機がない場合は、教授と学生のコミュニケーションが、学生の努力に影響を与え、授業理解度の向上に影響を与えるとしている。また、学生の授業に対する積極的動機の有無にかかわらず、授業に対する教授側の努力が、学生の授業理解度の向上に影響を与えることを示している。

さらに、木野(2009)は、授業中の学生と教授やティーチングアシスタント等との意見交換など、学生との直接的な対話は授業理解度や「成長役立ち度」に対して効果的であり、コミュニケーションペーパーを用いる場合、学生へのフィードバックが十分にされていれば効果的、不十分であれば効果が少ないということを示している。

以上から、授業において、学生と教授間での双方向性のある取り組みが、授業理解度に対して影響を与えると考えられるだろう。

しかし、こういった研究は対面での授業を想定した研究であり、オンラインでの授業に限った場合の授業理解度の規定要因を検討する研究はなされていない。オンライン授業では、対面式の授業とは学習環境が異なるため、オンデマンド授業という形式をとっていると即時的なコミュニケーションをとることが困難、といったような、対面式の授業にはない特徴をもつと考えられる。そのため、オンライン授業に限った場合での検討にも意義があると考ええる。

一方で、大学の授業において出席を管理して、教員と学生とのコミュニケーションを密にとることで、学生の自己管理能力を高めることができ、学生の学習意欲も増加することが明らかになっている(小山 2015)。また、大学生の生活習慣と学習能力には関連があり、生活習慣が悪い学生は計画的に学習する、自分の学習計画を調整するといった能力に乏しいことが明らかになっている(餅田ほか,2013)。

今 semester のオンライン授業では、対面での授業よりも密なコミュニケーションをとることが困難であるため学生の学習意欲は低下すると考えられる。対面授業では強制的に時間を管理されていた一方で、オンライン授業ではその限りではない。学生のうち、生活習慣が劣悪な学生ほどより大きく学習意欲を落とすのではないかと考えた。

以上を踏まえて二つの仮説を立てた。

3. 仮説

仮説 1:「オンライン授業の理解度に対して双方向性の効果がある。」

仮説 2:「自己管理能力が低い学生はオンライン授業になると学習意欲が低くなる。」

4. 分析に用いる変数

回答者には調査を依頼した授業についてのみの評価を回答してもらった。

4.1 分析に用いる変数(仮説 1)

〈従属変数〉

・「授業の理解度」: 調査を依頼された授業の評価に関して、質問文「授業の内容をよく理解できている」に対する 5 件法の回答「1. そう思う」～「5. そう思わない」の値を逆転させ、値が大きいほど双方向性が強くなるように設定した

＜独立変数＞

・「双方向性」:質問文「課題の返却・事後指導が適切に行われている」に対する 5 件法の回答「1. そう思う」～「5. そう思わない」の値を逆転させ、値が大きいほど双方向性が強くなるように設定した

＜統制変数＞

- ・「授業形式」:本アンケートが依頼された授業の形式。「リアルタイム授業」または「オンデマンド授業」
- ・「学習意欲」:質問文「授業には意欲的に参加している」、「授業を熱心に聞いている」、「自分は学習意欲が高い方だと思う」、「実際に自分は積極的に学習していたと思う」、「勉強が好きである」
- ・「履修要因 1」:質問文「必修だったから」
- ・「履修要因 2」:質問文「内容に興味があったから」
- ・「履修要因 3」:質問文「将来役立つと思ったから」
- ・「教員側の要因」:質問文「教員の熱意を感じる」、「教材・資料は適切である」、「教員の声は明瞭で聞き取りやすい」
- ・「授業の難度・速度」:質問文「授業を進めるペースが適切である」、「授業の難度は適切である」
- ・「授業の満足度」:質問文「総合的に満足している」
- ・「性別」

「学習意欲」、「教員側の要因」、「授業の難度・速度」、「授業の満足度」は、5 件法の回答

「1. そう思う」～「5. そう思わない」の値を逆転させ、値が大きいほど双方向性が強くなるように設定し、Cronbach の α 係数を用いて「授業の満足度」を除いて合算平均得点を作成した。信頼性係数はそれぞれ、「学習意欲」が 0.851、「教員側の要因」が 0.709、「授業の難度・速度」が 0.729 である。また、「授業形式」は 2 件法の「リアルタイム授業」「オンデマンド授業」を使用し、リアルタイム授業を基準カテゴリとした。「履修要因 1」、「履修要因 2」、「履修要因 3」は 2 件法の「選択」、「非選択」を使用し、非選択を基準カテゴリにした。また、「性別」は「3. その他」という回答を除外し、男性を基準カテゴリとした。

4.2 分析に用いる変数(仮説 2)

＜従属変数＞

「学習意欲」:質問文「授業には意欲的に参加している。」「授業を熱心に聞いている。」「自分は学習意欲が高い方だと思う。」「実際に自分は積極的に学習していると思う。」「勉強が好きである。」に対する 5 件法の回答「1.そう思う」～「5.そう思わない」の逆転項目の平均を使用した。

対面授業であった前セメスターのものとオンライン授業であった今セメスターのものを比較する。また、誰かと一緒に生活している場合、人に起こしてもらい、朝食を作ってもらい等のあることがあがる、その場合自己管理とはいえない。そのため、対象は一人暮らしをしている二年生以上とする。Cronbach の α 係数はそれぞれ、今セメスターのものは 0.891、前セメスターのものは 0.863 である。

<独立変数>

「自己管理能力」とし、自己管理能力を測る項目として「目的意識」「時間管理」「健康管理」の 3 つを用意した。

・「目的意識」:質問文「現実から逃避するためにスマホを使うことがある。」「他にしなければならぬことがあるのに、スマホをしてしまうことがある。」「スマホのせいで、夜更かしをしてしまったり、寝不足になったりすることがある」に対する 5 件法の回答「1. そう思う」～「5. そう思わない」を逆転項目の平均を使用した。Cronbach の α 係数は 0.757 である。

・「時間管理」:「大学新入生の生活習慣に関する研究」(藤塚ほか,2002)では、朝 8 時以降に起床する人を「起床時間が遅い者」としており、朝 8 時を基準として生活習慣を測定していた。これを参考にし、「あなたは普段何時に起きていますか」という質問に対する回答「～ 5 : 59」「6 : 00～6 : 59」「7 : 00～7 : 59」と回答した人を 0、「8 : 00～8 : 59」「9 : 00～9 : 59」「10 : 00～」と回答した人を 1 とするダミー変数を作成し、使用した。

・「健康管理」:「あなたはいま、1 週間に何日くらい朝食を食べていますか」という質問に対する回答「ほとんど毎日食べる」と回答した人を 0、「だいたい毎日食べる(1 週間に 4～5 日くらい)」「ときどき食べる(1 週間に 2～3 日くらい)」「たいてい食べない」と回答した人を 1 とするダミー変数を作成し、使用した。

5. 分析結果

5.1 分析方法(仮説1)

従属変数が順序尺度であるため、順序ロジスティック回帰を用いる。まず、用いる変数の記述統計量を確認する。次に、主要な独立変数である双方向性の変数について確認する。最後に、授業の理解度に対する双方向性単体の効果を確認し、その効果が統制変数を考慮することによってどの程度減少するのか、また、統制後も双方向性の効果が残るのかを調べる。

5.2 記述統計量(仮説1)

記述統計量の表は以下の通り。調査対象となった授業はオンデマンド授業が過半数である。

表 1. 用いる変数の記述統計量

	最小値	平均	標準偏差	最大値
双方向性	1.00	3.61	1.23	5.00
授業の理解度	1.00	3.81	0.96	5.00
授業形式	1.00	1.83	0.38	2.00
学習意欲	1.00	3.41	0.83	5.00
履修要因 1(必修だったから)	0.00	0.61	0.49	1.00
履修要因 2(内容に興味があったから)	0.00	0.57	0.50	1.00
履修要因 3(将来役立つと思ったから)	0.00	0.29	0.45	1.00
教員側の要因	2.00	4.28	0.70	5.00
授業の難度・速度	1.00	4.12	0.78	5.00
女性ダミー	0.00	0.49	0.50	1.00

N=349

5.3 分析結果(仮説1)

表 2 より、オンライン授業の理解度に対する双方向性の効果のみを確認した場合、その効果は 0.522 であり、1%水準で統計的に有意な効果がある。この場合の Nagelkerke R² 乗値は 0.113 である。そして、表 3 より授業形式、学習意欲、履修要因 1、履修要因 2、履修要因 3、教員側の要因、授業の難度・速度、性別、授業の満足度を統制した上で、授業の理解度に対する双方向性の効

果を確認すると、その効果は 0.272 であり、5%水準で統計的に有意な効果がある。この場合の Nagelkerke R² 乗値は 0.463 である。

以上の結果より、オンライン授業の理解度に対する双方向性の効果は、統制前では 1%水準で統計的に有意な効果があるものの、統制後では 5%水準で統計的に有意な効果となる。よって、オンライン授業の理解度に対する双方向性の効果は、単体で見ると有意な効果があり、その効果は他の変数を統制した後も 5%水準で残る。また、授業形式の違いは、授業理解度に対して統計的に有意な効果がなかった。さらに、他の統制変数を比べると、例えば授業の難度・速度のように、双方向性よりも授業も理解度をより良く説明できる変数が存在することが分かる。

表 2. 授業満足度の順序ロジスティック回帰分析

	B	S.E.
切片 1	1.668***	0.428
切片 2	0.463	0.349
切片 3	-0.913**	0.340
切片 4	-3.162***	0.387
双方向性	0.522***	0.092
G2	32.648***	
Nagelkerke R ²	0.113	

N=296, ***p<0.001, **p<0.01

表 3. 授業満足度の順序ロジスティック回帰分析

	B	S.E.
切片 1	-7.031***	1.245

切片 2	-8.572***	1.221
切片 3	-10.833***	1.281
切片 4	-14.076***	1.425
双方向性	0.272*	0.126
リアルタイム授業(ref.)		
オンデマンド授業	0.214	0.321
学習意欲	0.561**	0.173
履修要因 1(必修だったから)	0.530	0.318
履修要因 2(内容に興味があったから)	0.500	0.334
履修要因 3(将来役立つと思ったから)	0.128	0.317
教員側の要因	0.683**	0.250
授業の難度・速度	0.887***	0.215
男性(ref.)		
女性	0.431	0.2827
授業の満足度	0.513*	0.207
G2	137.14***	
Nagalkerke R2	0.463	

N=249, ***p<0.001, **p<0.01, *p<0.05

5.4 分析方法(仮説2)

重回帰分析を用いる。まず、用いる変数の記述統計量を確認する。次に、今セメスターと前セメスターの結果を比較し、それぞれ統計的に有意な結果が出るか検証する。

5.5 記述統計量(仮説2)

記述統計量の表は以下の通り。

表 4. 用いる変数の記述統計量

	最小値	平均	標準偏差	最大値
目的意識	1.000	2.676	1.158	5.000
時間管理	0.000	0.345	0.477	1.000
健康管理	0.000	0.441	0.498	1.000
学習意欲(今セメスター)	1.000	3.370	0.852	5.000
学習意欲(前セメスター)	1.000	3.250	0.978	5.000

5.6 分析結果(仮説 2)

今セメスターの各変数の効果を確認すると、目的意識の効果は 0.166 であり、1%水準で統計的に有意な効果があったが、その他の変数は統計的に有意な効果がなかった。一方で、前セメスターの各変数の効果を確認すると、健康管理の効果は 0.375 であり、5%水準で統計的に有意な効果があったが、その他の変数は統計的に有意な効果がなかった。

表 5. 学習意欲の重回帰分析

	今セメスター			前セメスター		
	B	S.E	β	B	S.E	β
切片	2.673	0.163***		2.914	0.231***	
目的意識	0.166	0.054**	0.247	0.054	0.074	0.063
時間管理	0.275	0.142	0.167	0.023	0.191	0.011
健康管理	0.223	0.134	0.142	0.375	0.181*	0.191
調査済み R2	0.122			0.020		
乗						

N = 133 , *** $p < 0.001$, ** $p < 0.01$, * $p < 0.05$

6.考察と結論

<仮説が支持されたか>

仮説 1:「オンライン授業の理解度に対して双方向性の効果がある。」

仮説 2:「自己管理能力が低い学生はオンライン授業になると学習意欲が低くなる。」

仮説 1 に関して、統制変数を加えた上での順序ロジスティック回帰分析の結果より、オンライン授業での理解度に対する双方向性の効果は 5%水準で統計的に有意であった。以上より、仮説 1 は支持されたとと言える。

仮説 2 に関して、重回帰分析の結果より、対面授業では学習意欲に対する健康管理の効果が 5%水準で有意であったが、オンライン授業では健康管理の効果が統計的に認められず、一方で目的意識の効果が 1%水準で統計的に有意であると認められた。以上より、仮説 2 は部分的に支持されたといえる。

<仮説 1 に関して>

先行研究では対面の授業における双方向性と理解度の関連に関して、学生との直接的なコミュニケーションが授業理解度に対して効果的であり、コミュニケーションペーパーなどを通じた間接的なコミュニケーションであっても学生へのフィードバックが十分にされていれば効果的であるということを示している。今回の研究では双方向性を測る質問として「課題の返却・事後指導が適切に行われているか」を用いていることから、オンライン授業においても教授と学生間の直接的あるいは間接的なコミュニケーションが理解度の向上に影響を与えたと考えられる。オンライン授業は、対面式の授業と比較すると、直接性と同時性において劣ることから、教授と学生の間でコミュニケーションをとることが困難だと考えられる。だが、以上の結果から、それでも何らかの形で教授と学生の間に双方向的な取り組みを取り入れることが、学生の理解度を高めるうえで重要であるといえるだろう。

他方、授業理解度の規定要因に関しては、双方向性よりも「教員側の要因」や「授業の難度・速度」の方が、授業理解度をよりよく説明できる変数であることがわかる。これに関しては、オンライン授業になり、授業で用いる資料や教授の声の聞こえ方などが授業環境に大きく影響を与えていることから、オンライン授業では対面授業に比べてより教員側の努力が必要になると考えられる。また、授業の難度・速度もオンライン授業は対面授業と比べて即時的なコミュニケーションが取りにくいことから、各授業後にアンケートをとるなど、オンライン授業にあわせて難度・速度に対する学生の意見を把握し、調整していく必要がある。

<仮説 2 に関して>

対面授業では健康管理が学習意欲を左右する一方で、オンライン授業になると目的意識が学習意欲を左右することになる。学生にとって、コロナウイルス流行前は「毎日大学に行き授業を受けること」が生活サイクルの一つとして長年の間習慣化されており、オンライン授業のように「毎日家のパソコン前でオンライン授業を受ける」習慣はなかった。授業を受けること自体に大きな差が生まれない対面授業であれば、授業を受ける際の体調が学生の学習環境を左右するものとなる。一方で、オンライン授業になると同時に学習環境も変化する。ここで学生はそれまで習慣化されていないオンライン形式の授業に対応しなければならなくなった。学生に「自分が何をしたい、すべき、しなければならないのか」といった目的意識がなければ、環境の変化に対応できずに学習意欲が下がってしまうと考えられる。

<リサーチクエスチョン対して>

今セメスターでは、新型コロナウイルス感染症の影響で突然オンライン授業が取り入れられることになった。教授側は、オンラインであるからこそ学生への対応や授業形態をあらためて考え直す必要がある。一方で、学生は一層目的意識を持ち、主体的に学習しようとするのが授業の理解に直

結する。学習環境の変化に合わせて、教授側、学生側双方からの歩み寄りが必要であるといえるだろう。

＜今後の課題＞

調査協力を依頼した授業がすべて文系の学部授業であるため、調査対象となっている学生の大半が文系であることが予想される。文系の学生とは異なる講義の性質があると考えられる理系の学生がサンプルに含まれていないことから、本研究の結果の一般化可能性には一定の限界がある。

仮説 1 では、「理解度」の概念は、学生の主観的な自己評価の変数を用いて解釈しているが、他にも、テストの得点や成績の評定など、客観的な他者評価による解釈の可能性も考えられる。

仮説 2 について、「自己管理能力」というやや抽象的な語を網羅的に測れているかという点で疑問である。「感情のコントロール」「意欲の維持」といった項目も測れていれば多少説得力が増したのかもしれない。また、仮説 2 では前セメスターと今セメスターの比較を行った。前セメスターの項目については「思い出して回答する」という形式のため結果に影響を及ぼしている可能性がある。

引用文献

木野茂,2009,「教員と学生による双方向型授業——多人数講義系授業のパラダイム転換を求めて」『京都大学高等教育研究』15: 1-12.

小山知子, 2015,「動機づけと自己効力感の変化が大学生の学習意欲に与える影響」『多摩大学グローバルスタディーズ学部グローバルスタディーズ学科紀要』7: 63-74.

星野敦子・牟田博光, 2005,「大学の授業における諸要因の相互作用と授業満足度の因果関係」『日本教育工学会論文誌』29(4): 463-473.

餅田敬司・長谷部ゆかり・小倉之子・畠中易子, 2013,「看護系大学生の健康度・生活習慣と自己調整学習方略の関係の検討」『聖泉看護学研究』2: 83-88.

文部科学省, 2020a,「新型コロナウイルス感染症対策に伴う児童生徒の『学びの保障』総合対策パッケージ」.

文部科学省, 2020b,「新型コロナウイルス感染症対策に関する大学等の対応状況について」.

大学生のコロナ禍の生活

——生活時間の変化と学生の不安感——

近江葉奈・大岡里彩・伊藤利恵

1. 研究関心とリサーチクエスチョン

2020 年度の東北大生の学生生活は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく緊急事態宣言が発令されることからスタートした。この緊急事態宣言の発令に伴い、大学ではキャンパス入構制限措置を取り、併せて大学生に対しアルバイトの自粛や課外活動の活動休止等を強く要請した。これを受けて大学生は、大学への登校やアルバイト活動の制限、サークル活動の休止により、1 カ月以上の自宅での自粛生活を送ることとなった。

大学生の生活といえば、「学生生活の3領域」で表現されるように「大学での授業」、「サークル活動」、「アルバイト」によって生活時間が構成されている(渡辺 2015:172)。しかし、コロナ禍においては、この3領域は自粛または活動停止の状況におかれ、大学生は友達や仲間とのかかわりや社会的なつながりを一時的に抑制され、自宅での自粛生活を強いられることになった。

平素、大学生は親元を離れたことや時間割の自由度などから生活リズムが不規則になりやすく、特に、睡眠時間は削られやすい要素であると考えられる。しかしコロナ禍によるオンライン授業下で通学時間が無くなるなど、大学生から睡眠時間を奪うように思われる外的要因は減少した。同様に、自宅外での活動を抑制されたことにより、学生の本分である学習に割ける時間も増えるように思われる。普段の学生生活とコロナ禍の学生生活を比較することで、睡眠時間や学習時間といった大学生活にとって重要な要素を阻害する要因について新たな知見が得られるのではないだろうか。

また、このような非常事態において、通常の生活時以上に不安を抱えている大学生が増加しているのではないかと考えた。加えて、大学からの自粛要請には、県境を越えることや実家への帰省についても自粛するよう要請があったため、一人暮らしの学生ほど孤立しがちで不安感を強く持つのではないかというリサーチクエスチョンを立てた。

2. 先行研究と仮説

2.1 大学生の生活の場について

「学生生活の3領域」(「学業」、「アルバイト」、「サークル活動」のことである)について各領域の比較から学生生活の実態とアルバイトとの関連については、渡辺裕子によると、アルバイト時間の長短と勉強時間の長短には関連がみられないが、アルバイト時間の長短と

サークル活動の可否には関連があり、それからサークル活動をある程度積極的に行っている学生は勉強時間が長くなる。さらにアルバイトの週当たりの時間数別に時間帯ごとの大学キャンパス滞在時間を調査している。これによるとアルバイトをしていない大学生に対しアルバイトをしている大学生は大学キャンパス滞在時間数が減少する傾向にあるものの、どちらの大学生も高い割合で大学キャンパスに長時間滞在していることが明らかにされた(渡辺 2015:178-179)。この渡辺の報告をもとに滞在時間の長さから「大学生の生活の場」の中心は「大学キャンパス」「アルバイト先」「自宅(自宅・アパート等)」の3か所にわけることができ、大学生は自宅以外の場所である「大学キャンパス」または「アルバイト先」のどちらかで生活時間の大半を過ごしているのではないかと推測することができる。

2.2 大学生の生活時間について

大学生はアルバイト時間や通学時間が睡眠時間の低下を引き起こすことが示唆されている(富田 1985、高本・古村 2018)。しかし、これらの研究はあくまでも調査を行った一時点で異なるサンプル間を比較したものである。大学生の同一人物において諸活動時間の減少が睡眠の増加に結びつくかを調べた先行研究はない。また、アルバイトが生活の諸要素に与える影響に関する先行研究の中で「労働時間が「授業中に眠くなる」ことに影響していることが認められた」(山本・江口ほか 2018 : 131)との記述もあるが、こういった差異を計量的な観点で検証した先行研究は見受けられない。

2.3 大学生の生活不安について

大学生の生活実態調査である、全国大学生生活教育協働組合連合会「学生生活実態調査」によると、「日常生活で気にかかっていること」に対する上位回答は、「生活費やお金のこと」が43.1%、「授業・レポート等勉学上のこと」41.0%、「就職のこと」36.7%が特に高い傾向があり、最近増加傾向にあるものとして「生きがいや夢中になれることが見つからないこと」がある。また、悩んでいることを最も相談しやすいと思っている相手は、「友人」41.8%、「親」21.2%の順となっており、居住形態や性別で傾向が違う(全国大学生生活教育協働組合連合会 2020)。

2.4 仮説

仮説①

以上のことから、大学生活において多くの時間がアルバイトに割かれていることがわかる。また、アルバイト労働は、学習面に少なからず影響を及ぼすと考えられている。そこで、「前セメスターに比べてアルバイト時間が減った人は、授業外学習時間が増える」という仮説を立てた。

仮説②

コロナウイルス流行前と流行後それぞれの各活動時間・睡眠時間について調査し、流行前と流行後を比較することで、各活動時間の減少が睡眠時間の増加に結びつくかを確かめた。よって

仮説①「通学時間の変化が睡眠時間の変化に負の相関がある」

仮説②「学友会・サークル活動時間の変化が睡眠時間の変化に負の相関がある」

仮説③「アルバイト時間の変化が睡眠時間の変化に負の相関がある」という仮説を立てる。

仮説③

大学生が日常の大半を過ごしている「大学構内」及び「アルバイト先」での活動時間が減少もしくはなくなることにより、友人や仲間等とのかかわりが減少し、一人暮らしの学生においては、一人で過ごす時間が大半を占めることになっていると考えられる。相談相手についても「友人」や「親」が多いことから一人暮らしの学生は相談したいときに相談相手が身近にいない状況となっているのではないかと考えられた。これらのことから、「コロナ禍において一人暮らしの学生ほど不安を抱えやすい」という仮説を立てた。

3. 使用変数

3.1 使用変数の説明

以下に今回の分析に使用する変数の説明を記述する。

全ての変数において無回答、その他、と回答した人は欠損値としている。

・性別

「あなたは男性ですか、女性ですか。」という質問に対し、男性、女性、その他、の3カテゴリで調査した。サンプルには、「男性」と「女性」を選択した回答を用いることにし、その他を選択した回答はサンプルから除外した。分析では「男性」「女性」の2つを変数として用いた。女性を基準カテゴリとし、「男性ダミー」という変数を作成した。

・学年

「あなたは現在、何年生ですか。」という質問に対し、「学部1年」、「学部2年」、「学部3年」、「学部4年」、「大学院生」、「研究生」、「その他」、の7カテゴリで調査した。分析では、「学部2年生」「学部3年生」「学部4年生」の3つを変数として用いた。「学部1年生」、「大学院生」、「研究生」と回答した人は欠損値とした。

・居住形態

「あなたは現在、どのように生活していますか。」という質問に対し、両親と一緒に生活、両親以外の家族と生活、寮などで生活、1人暮らし、その他の5カテゴリで調査した。分析

では、純粹に一人で生活している者のみを「1人暮らしカテゴリ」とし、それ以外をまとめて「家族や仲間と生活カテゴリ」とし、この2つを変数として用いた。前者を基準カテゴリとし、「居住形態ダミー」という変数を作成した。

・前セメスターの月平均アルバイト時間

「前セメスターの月の平均アルバイト時間は何時間ですか。」という質問に対し、なし、10時間未満、10時間以上30時間未満、30時間以上50時間未満、50時間以上70時間未満、70時間以上90時間未満、90時間以上の7カテゴリで調査した。分析では、これらを連続変数として、0時間、10時間、20時間、40時間、60時間、80時間、90時間の7つにリコードしたものを使用した。

・今年4月のアルバイト時間

「今年4月のアルバイト時間は何時間ですか。」という質問に対し、なし、10時間未満、10時間以上30時間未満、30時間以上50時間未満、50時間以上70時間未満、70時間以上90時間未満、90時間以上の7カテゴリで調査した。分析では、これらを連続変数として、0時間、10時間、20時間、40時間、60時間、80時間、90時間の7つにリコードしたものを使用した。

・アルバイト時間の変化

「今年4月のアルバイト時間」から「前セメスターの月平均のアルバイト時間」の差を取り、アルバイト時間の変化量を出した。変化量は-80時間、-70時間、-60時間、-50時間、-40時間、-30時間、-20時間、-10時間、変化なし、+10時間、+20時間、+30時間、+40時間、+50時間、+60時間の15項目を算出することができた。

・現在の不安感

「あなたが現在不安に感じていることについて、あてはまるものすべてを選んでください。」という質問に対し、経済状況に対する不安、学習に対する不安、生活への不安、健康への不安、人間関係への不安、就職活動への不安、あてはまるものはない、その他の8カテゴリで調査した。分析では、「経済状況に対する不安」、「学習に対する不安」、「生活への不安」、「健康への不安」、「人間関係への不安」、「就職活動への不安」、の6つを変数として用いた。

・学業意欲の変化

「(今セメスター/前セメスターについて)自分は学習意欲が高い方だと思う。」という質問に対する5件法の回答(「1.そう思う」～「5.そう思わない」の逆転項目)
(今セメスターの値)-(前セメスターの値)を変化として用いる。

・授業熱心さ

「(今セメスター/前セメスターについて)授業を熱心に聞いている。」という質問に対する 5 件法の回答(「1.そう思う」～「5.そう思わない」の逆転項目)
(今セメスターの値)－(前セメスターの値)を変化として用いる。

・睡眠時間

「前セメスター/今年 4 月に、あなたは普段何時間寝ていましたか。」という質問に対し、5 時間未満、5~6 時間未満、6~7 時間未満、7~8 時間未満、8~9 時間未満、9 時間以上の 6 カテゴリーで調査した。分析ではこれらを 5 時間、5.5 時間、6.5 時間、7.5 時間、8.5 時間、9 時間にリコードしたものを使用した。

・通学時間

「前セメスター/今年 4 月に、前セメスターに、あなたは普段どれくらいの時間を片道の通学に使っていましたか。」という質問に対し、10 分未満、10~20 分未満、20~30 分未満、30~40 分未満、40~50 分未満、50~60 分未満、60 分以上の 7 カテゴリーで調査した。分析では往復の通学時間で考えるため、20 分、30 分、50 分、70 分、90 分、110 分、120 分にリコードしたものを使用した。

・学友会・サークル活動の時間

「前セメスター/今年 4 月に、今年 4 月に、あなたは普段どれくらいの時間を学友会、部活動、サークル活動に使っていましたか。1 週間あたりの合計時間をお答えください。」という質問に対し、なし、5 時間未満、5~10 時間未満、10~15 時間未満、15~20 時間未満、20~25 時間未満、25~30 時間未満、30 時間以上の 8 カテゴリーで調査した。分析ではこれらを 0 時間、5 時間、7.5 時間、12.5 時間、17.5 時間、22.5 時間、27.5 時間、30 時間にリコードしたものを使用した。

・自主学習時間

「前セメスター/今年 4 月に、あなたは普段どれくらいの時間を自主学習(ここでは、授業・専門等に関連しない読書と TOEFL など資格試験に向けた学習を指します)の時間に使っていましたか。1 週間あたりの合計時間をお答えください。」という質問に対し、1 時間未満、1~3 時間未満、3~5 時間未満、5~7 時間未満、7~9 時間未満、9~11 時間未満、11 時間以上の 7 カテゴリーで調査した。分析ではこれらを 1 時間、2 時間、4 時間、6 時間、8 時間、10 時

間、11 時間にリコードして調査した。

- ・授業外学習時間

「前セメスター/今年 4 月に、あなたは普段どれくらいの時間を授業外学習(ここでは、課題などを含む授業や専門に関連する学習と専門書などの講読を指します)の時間に使っていましたか。1 週間あたりの合計時間をお答えください。」という質問に対し、自主学習時間と同じ 7 カテゴリーを使用し調査した。分析も自主学習時間と同様にリコードした。

- ・授業コマ数

「あなたが前セメスター/今セメスターに、実際に受講した授業のコマ数を教えてください。」という質問を使用した。

- ・各時間の変化について

時間の項目はそれぞれ(今年 4 月の各時間)－(前セメスターの各時間)を計算し、変化とした。

3.2 各分析に使用する変数

分析①

<独立変数>

アルバイト時間の変化

<従属変数>

授業外学習時間の変化

<統制変数>

課外活動時間の変化、自主学習時間の変化、性別、学年、学習意欲、授業熱心さ

分析②

<独立変数>

アルバイト時間の変化、バイト時間の変化、学友会・サークル活動時間の変化

<従属変数>

睡眠時間の変化

<統制変数>

自主学習時間の変化、授業外学習時間の変化、授業コマ数の変化、性別、学年

分析③

<独立変数>

居住形態

<従属変数>

不安感

(「経済状況に対する不安」、「学習に対する不安」、「生活への不安」、「健康への不安」、「人間関係への不安」、「就職活動への不安」)

<統制変数>

アルバイト時間の変化(今年の4月と前セメスターの月平均時間の変化)、性別、学年

4. 記述統計

以下にそれぞれの記述統計を記す。

表 1. 性別

	度数	%
男	125	54.1%
女	106	45.9%
合計	231	100.0%

男性が 54.1%、女性が 45.9%であり、8.2%ポイント男性が多い結果となった。

表2. 学年

	度数	%
学部 2 年	147	63.1%
学部 3 年	61	26.2%
学部 4 年	25	10.7%
合計	233	100.0%

学部 2 年生が 63.1%、学部 3 年生が 26.2%、学部 4 年生が 10.7%であり、学部 2 年生が 6 割以上を占める結果となった。

表3-1. 1日あたりの睡眠時間(リコード後)					表3-2. 1日あたりの睡眠時間の変化		
	前セメスター	%	今年4月	%	変化	度数	%
5時間	12	5.2%	2	0.9%	-1時間	15	6.4%
5.5時間	53	22.7%	21	9.0%	-0.5時間	1	0.4%
6.5時間	97	41.6%	53	22.7%	変化なし	79	33.9%
7.5時間	61	26.2%	94	40.3%	+0.5時間	4	1.7%
8.5時間	8	3.4%	39	16.7%	+1時間	73	31.3%
9時間	2	0.9%	24	10.3%	+1.5時間	10	4.3%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	+2時間	30	12.9%
計	233	100.0%	233	100.0%	+2.5時間	10	4.3%
					+3時間	3	1.3%
					+3.5時間	7	3.0%
					+4時間	1	0.4%
					計	233	100.0%

最頻値が 6.5 時間から 7.5 時間へと移動しており、コロナ禍によって全体的に睡眠時間が伸びたことが伺える。

表4-1 1週間あたりの学友会・部活動・サークル活動時間(リコード後)					表4-2 1週間あたりの学友会・部活動・サークル活動時間の分布		
	前セメスター	%	今年4月	%	変化	度数	%
なし	41	17.6%	161	69.1%	-30時間	7	3.0%
5時間	63	27.0%	44	18.9%	-27.5時間	4	1.7%
7.5時間	38	16.3%	15	6.4%	-22.5時間	12	5.2%
12.5時間	32	13.7%	6	2.6%	-17.5時間	20	8.7%
17.5時間	27	11.6%	3	1.3%	-15時間	2	0.9%
22.5時間	15	6.4%	1	0.4%	-12.5時間	23	10.0%
27.5時間	6	2.6%	0	0.0%	-10時間	4	1.7%
30時間	10	4.3%	2	0.9%	-7.5時間	33	14.3%
無回答	1	0.4%	1	0.4%	-5時間	45	19.5%
計	233	100.0%	233	100.0%	-2.5時間	7	3.0%
					変化なし	65	28.1%
					+2.5時間	3	1.3%
					+5時間	3	1.3%
					+7.5時間	0	0.0%
					+10時間	1	0.4%
					+12.5時間	1	0.4%
					+15時間	0	0.0%
					+17.5時間	1	0.4%
					計	231	100%

「なし」と答えた学生が 17.6%から 69.1%へと変化し、多くの学生がコロナ禍により課外活動を制限されていることが伺える。一方で、完全に課外活動が無くなったわけではなく、新しく課外活動を始めた人もいることがわかる。

表5. 往復通学時間の分布(リコード後)		
	前セメスター	%
20分	26	11.2%
30分	107	45.9%
50分	49	21.0%
70分	17	7.3%
90分	11	4.7%
110分	7	3.0%
120分	16	6.9%
無回答	0	0.0%
計	233	100.0%

7 割以上の学生が片道通学時間が 30 分未満であった。

表6-1. 1週間あたりの自主学習時間(リコード後)					表6-2. 1週間当たりの自主学習時間の変化		
	前セメスター	%	今年4月	%	変化	度数	%
1時間	113	48.5%	95	40.8%	-9時間	1	0.4%
2時間	59	25.3%	57	24.5%	-8時間	0	0.0%
4時間	26	11.2%	23	9.9%	-7時間	0	0.0%
6時間	18	7.7%	20	8.6%	-6時間	1	0.4%
8時間	2	0.9%	13	5.6%	-4時間	3	1.3%
10時間	2	0.9%	4	1.7%	-3時間	2	0.9%
11時間	11	4.7%	20	8.6%	-2時間	9	3.9%
無回答	2	0.9%	1	0.4%	-1時間	10	4.3%
計	233	100.0%	233	100.0%	変化なし	132	57.4%
					+1時間	17	7.4%
					+2時間	16	7.0%
					+3時間	11	4.8%
					+4時間	11	4.8%
					+5時間	4	1.7%
					+6時間	4	1.7%
					+7時間	3	1.3%
					+8時間	1	0.4%
					+9時間	3	1.3%
					+10時間	2	0.9%
					計	230	100.0%

勉強時間が増加した人は減少した人より多いが、57.4%の人が学習時間に変化がなかった。

表7-1. 1週間あたりの授業外学習時間の分布					表7-2. 1週間あたりの授業外学習時間の分布		
	前セメスター	%	今年4月	%	変化	度数	%
1時間	34	14.6%	31	13.3%	-8時間	2	0.9%
2時間	52	22.3%	52	22.3%	-7時間	0	0.0%
4時間	63	27.0%	39	16.7%	-6時間	2	0.9%
6時間	40	17.2%	42	18.0%	-5時間	2	0.9%
8時間	22	9.4%	24	10.3%	-4時間	9	3.9%
10時間	11	4.7%	16	6.9%	-3時間	6	2.6%
11時間	10	4.3%	29	12.4%	-2時間	29	12.5%
無回答	1	0.4%	0	0.0%	-1時間	7	3.0%
計	233	100.0%	233	100.0%	変化なし	76	32.8%
					+1時間	13	5.6%
					+2時間	33	14.2%
					+3時間	7	3.0%
					+4時間	24	10.3%
					+5時間	5	2.2%
					+6時間	5	2.2%
					+7時間	8	3.4%
					+8時間	1	0.4%
					+9時間	1	0.4%
					+10時間	2	0.9%
					計	232	100.0%

11 時間と回答した人が 4.3%から 12.4%に増えており、長時間学習する人が増えた。

表8. 授業コマ数の分布

前セメスター			今セメスター		
授業コマ数	度数	%	授業コマ数	度数	%
0~5	4	1.8%	0~5	8	4.0%
6~10	31	14.2%	6~10	44	22.2%
11~15	152	69.4%	11~15	110	55.6%
16~20	21	9.6%	16~20	31	15.7%
20~25	11	5.0%	20~25	5	2.5%
計	219	100.0%	計	198	100.0%

11~15 コマと回答した人が大きく減少し、6~10 コマ、16~20 コマと回答した人が大きく増加した。

表9. 居住形態

	度数	%
両親と一緒に生活している	53	23.6%
両親以外の家族（きょうだいや親戚など）と一緒に生活している	6	2.7%
学校などの寮で生活している	20	8.9%
アパート・マンションを借りて一人で生活している	146	64.9%
合計	225	100.0%

居住形態は、両親と一緒に生活しているが 23.6%、両親以外の家族と一緒に生活しているが 2.7%、学校などの寮で生活しているが 8.9%、アパート・マンションを借りて一人で生活しているが 64.9%であった。一人暮らしが 6 割以上を占めていた。寮で生活している学生については、身近にかかわる人(寮生や寮の管理者等)がいるため一人暮らしと同じカテゴリには分類しなかった。家族や寮でのかかわりがある学生は 3 割を超える程度であった。

表10-1. 1か月あたりのアルバイト時間（リコード後）

	前セメスター		今年4月	
	度数	%	度数	%
なし	53	22.8%	146	62.7%
10時間未満	19	8.2%	34	14.6%
20時間	54	23.3%	27	11.6%
40時間	54	23.3%	12	5.2%
60時間	33	14.2%	7	3.0%
80時間	17	7.3%	5	2.1%
90時間	2	0.9%	2	0.9%
合計	232	100.0%	233	100.0%

表10-2. アルバイト時間の変化

	度数	%
-80時間	9	3.9%
-70時間	1	0.4%
-60時間	17	7.3%
-50時間	8	3.4%
-40時間	29	12.5%
-30時間	8	3.4%
-20時間	50	21.6%
-10時間	28	12.1%
変化なし	69	29.7%
+10時間	3	1.3%
+20時間	8	3.4%
+30時間	0	0.0%
+40時間	0	0.0%
+50時間	1	0.4%
+60時間	1	0.4%
合計	232	100.0%

表 10-1 が示すように、前セメスターにおいては、アルバイト時間がなしは 22.8%であるが、今年の 4 月には 62.7%と 39.9%ポイントも増加していた。また、前セメスターでは、20 時間が 23.3%、40 時間も 23.3%と並び最も多かったが、今年の 4 月はアルバイト時間がなしが最も多く次に 10 時間未満が 14.6%、その次に 20 時間が 11.6%と続き、アルバイト時間が減少していたことを示している。これは、新型コロナウイルスに対する感染防止策のためにアルバイト先及び学生自身が自粛を行ったためにアルバイト時間が減少したと推測することができる。

表 10-2 が示すように、アルバイト時間の変化では—10 時間から—80 時間までの 8 段階の累計%が 64.7%でアルバイト時間が減少していた。変化なしは 29.7%であり、+10 時間から +60 時間までの 6 段階の累計%が 5.6%でアルバイト時間が増加していた。アルバイト時間に変化のなかった人と少数ではあるもののアルバイト時間に増加があった人が確認できるものの、多くはアルバイト時間が減少していたことを示している。

表12. 現在感じている不安 多項選択 (N=233)

	回答数	%
経済状況に対する不安	70	30.0%
学習に対する不安	131	56.2%
生活への不安	56	24.0%
健康への不安	43	18.5%
人間関係への不安	55	23.6%
就職活動への不安	192	82.4%

表 12 が示すように、現在感じている不安では、「就職活動への不安」が 82.4%と最も多く、次に「学習に対する不安」が 56.2%であり、その次に「経済状況に対する不安」30.0%であった。アルバイト時間が減少していることで、経済的不安が多いのではないかと予測していたが、それよりも、学習への不安や就職への不安など学生としての活動が制限されているところに不安を強く感じている結果となった。

表13 学習意欲

	前セメスター	%	今セメスター	%
そう思わない	14	6.1	17	7.5
どちらかといえばそう思わない	61	26.8	31	13.6
どちらともいえない	60	26.3	39	17.1
どちらかといえばそう思う	69	30.3	104	45.6
そう思う	28	12.3	37	16.2
計	232	100	228	100

表 13 が示すように、前セメスターに比べ今セメスターでは「自分の学習意欲は高いと思うか」という質問に対し「どちらかといえばそう思う」「そう思う」と回答した割合がそれぞれ増加し、「どちらかといえばそう思わない」「どちらともいえない」と回答した割合は減少した。このことから、学生の学習意欲は全体として高まっている。

表14 授業熱心さ

	前セメスター	%	今セメスター	%
そう思わない	19	8.3	5	2.2
どちらかといえばそう思わない	29	12.7	31	13.4
どちらともいえない	49	21.5	55	23.8
どちらかといえばそう思う	107	46.9	110	47.6
そう思う	24	10.5	30	13.0
計	228	99.9	231	100

前セメスターは対面、今セメスターはオンラインで授業が行われたが、「自分は授業熱心だと思うか」という問いに対する回答に関して大きな変化はなく、前セメスター、今セメスターともに「どちらかといえばそう思う」が約半数を占めた。

5. 重回帰分析

5.1 仮説1

授業外学習時間の変化に対する規定要因について重回帰分析を行った。

表15 授業外学習時間の変化の規定要因

	B	S.E.
(切片)	0.233	0.812
アルバイト時間の変化	0.018*	0.008
課外活動時間の変化	0.006	0.025
自主学習時間の変化	0.230**	0.086
学年	0.141	0.290
男性ダミー	0.334	0.390
やる気の変化	-0.169	0.175
授業熱心さの変化	0.423*	0.188
調整済みR2	0.082*	

N=211 p**<0.01 p*<0.05

授業外学習時間の変化に対するアルバイト時間の差の効果について、課外活動に費やした時間の差、自主学習時間の差、学年、男性ダミー、学習意欲を統制したうえで検証したところ、アルバイト時間の差の効果は5%水準で有意であったが、仮定とは真逆の効果が

表れた。また、加えた統制変数のなかでは、自主学習時間の差の効果と授業に対する熱心さが統計的に有意であった。

さらに、生活時間に関する変数を追加して再び重回帰分析を行った。

表16 授業外学習の変化に対する各生活時間の効果

	B	S.E.
(切片)	0.408	0.846
SNS時間	0.001	0.004
アルバイト時間差	0.017*	0.008
課外活動時間差	0.007	0.026
自主学習時間差	0.197*	0.092
睡眠時間差	-0.096	0.199
学年	0.153	0.295
男性ダミー	0.365	0.416
調整済みR2	0.042	

N=198 p**<0.01 p*<0.05

授業外学習時間の変化に対する生活時間の効果について、学年と男性ダミーを統制して分析した。用いた独立変数の中では、アルバイト時間の変化と自主学習時間の変化の効果のみが有意であり、新たな関連は見られない結果になった。

5.2 仮説2

表17. 睡眠時間の変化の重回帰分析結果

	B	S.E.
(切片)	0.563†	0.323
バイト変化	-0.005†	0.003
サークル変化	-0.030**	0.009
通学時間変化	-0.241	0.159
授業外学習時間変化	0.023	0.026
自主学習時間変化	0.058	0.037
コマ数変化	-0.047†	0.024
男性ダミー	-0.419**	0.152
学年	-0.223†	0.115
調整済みR2乗		0.116

N=183, **p<0.01, †p<0.1

睡眠時間の変化に対する各活動時間の変化の効果について、サークル活動時間、男性ダミーが 1%水準で統計的に有意、アルバイト時間、授業コマ数、学年が 10%水準で統計的に有意であった。調整済みR² 乗は 0.116 であった。男性ダミーの効果が大きいことがわかる。

5.3 仮説3

「経済状況に対する不安」、「学習に対する不安」、「生活への不安」、「健康への不安」、「人間関係への不安」、「就職活動への不安」、の6つをそれぞれ従属変数として用いて、それぞれ重回帰分析を行った。独立変数は、「居住形態ダミー」とし、統制変数は「アルバイト時間の変化」、「男性ダミー」、「学年」を用いた。詳しい内容は以下に記述する。

表18. 現在感じている不安の規定要因

表10. 現住感している不安の規定要因												
	経済状況への不安感		学習に対する不安		生活への不安		健康への不安		人間関係への不安		就職活動への不安	
	B	S.E.	B	S.E.	B	S.E.	B	S.E.	B	S.E.	B	S.E.
(切片)	0.091	0.133	0.640***	0.145	0.265*	0.127	0.193	0.115	0.445***	0.126	0.587***	0.109
居住形態ダミー	0.085	0.065	-0.069	0.001	0.036	0.062	0.002	0.056	-0.028	0.062	0.043	0.054
アルバイト時間差	-0.004**	0.001	0.003*	0.087	0.001	0.001	-0.001	0.001	0.001	0.001	-0.000	0.001
男性ダミー	0.122	0.062	0.037	0.068	0.008	0.060	0.065	0.054	-0.007	0.059	0.130*	0.051
学年	0.013	0.046	0.006	0.050	-0.016	0.044	-0.023	0.040	-0.067	0.044	0.062	0.038
調整済みR2	0.051		0.007		-0.015		-0.005		-0.004		0.021	
N=222	*p<0.05 **p<0.01 ***p<0.001											

まずそれぞれの分析結果に関して順に見ていく。

「経済状況に対する不安」に関して統計的に有意であったのは、アルバイト時間の変化のみであり、値は-0.004 で、1%水準で有意で、負の相関が見られた。つまりアルバイト時間がより減った人ほど経済状況への不安を持つ傾向があることがわかる。

「学習に対する不安」に関して統計的に有意であったのは、アルバイト時間の変化のみであり、値は 0.003 で、5%水準で有意で、正の相関が見られた。これはアルバイト時間がより増えた人ほど学習に対する不安を持つ傾向があることがわかる。

「生活への不安」、「健康への不安に対する」、「人間関係への不安」は統計的に有意な変数はなかった。

「就職活動への不安」に関して統計的に有意であったのは、男性ダミーのみであり、値は 0.130 で 5%水準で有意であり、正の相関がみられた。性別が就職活動への不安の持ち方に影響を与えていることがわかる。

居住形態の違いはどの不安感に対しても影響を与えていないことがわかった。

6. 考察と結論

考察として仮説の検証から始める。

分析①については、仮説として立てていた「アルバイト時間が減少した人は授業外学習にかける時間が増加する」という説とは全く逆の効果が見られた。すなわち、アルバイト時間と授業外学習時間は同一方向に変化する。効果量まで見ると、アルバイト時間が月に1時間減少すると授業外学習時間が週に約1分程度減少するというわずかな差であるが、ここから考えられることとして、アルバイトの自粛で空いた時間を今回質問紙で尋ねなかった趣味時間や家事に費やしたのではないかとということが挙げられる。つまり、アルバイト時間が減ることで増えた未知の変数が存在し、それにより授業外学習時間までもが阻害されてしまったのではないだろうか。

分析②については、仮説の「学友会・サークル活動時間の変化が睡眠時間の変化に負の相関がある」を採用できると言えるだろう。「アルバイト時間の変化についてはやや弱い相関があると言える。通学時間の変化は統計的に有意な相関は見られなかった。ただし、各時間の変化の効果はわずかなものであり、睡眠時間を大きく変えるような効果は性別の効果以外は見られなかった。

分析③については、仮説「コロナ禍において一人暮らしの学生ほど不安を抱えやすい」は、居住形態の違いは不安感の持ち方に影響を与えないことがわかったため、仮説を支持することはできなかった。しかし、「経済状況に対する不安」と「学習に対する不安」に対してアルバイト時間の変化が影響を与えていることがわかった。アルバイト時間の変化は、アルバイト時間がより減少すると経済状況に対する不安へ繋がり、アルバイト時間がより増加すると学習に対する不安へつながる傾向があることがわかった。

今回の分析ではコロナ禍における生活時間の変化や不安を可視化することができた。さらに外での活動時間の減少が睡眠時間を増加させる可能性を示唆できた。しかし、家事や趣味や運動など、睡眠と学習以外の時間の変化について尋ねていないため、さらなる分析の余地がある。

分析②ではアルバイト時間の減少が睡眠時間の増加と関連があったが、分析③ではアルバイト時間が減少した人は経済的不安を抱えていることもわかった。睡眠時間は一般的に長い方が健康には良いとされるが、アルバイトの減少による経済的不安や睡眠時間のとりすぎなどから睡眠の質が落ちている可能性もあり、心身共に健康的な生活を送ることができているかには疑問が残る。実際に不安については様々な回答が得られていたが、健康に対する不安についての回答はさほど多くなく、身体的な健康と精神的な健康のバランスに不均衡があったのではないかと推測することができる。

また、分析③では「アルバイト時間の減少が学習に対する不安を軽減する」という効果が見られたのに対し、分析①ではアルバイト時間は授業外学習時間に対して負の効果は持っていなかった。このように、一見すると分析間で整合性がとれない結果となった。この矛盾の解消も今後の課題と言えるだろう。

引用文献

高本真寛・古村健太郎，2018，『大学生におけるアルバイト就労と精神的健康および修学との関連』『教育心理学研究』66: 14-27.

富田絹子，1985，『学生の生活時間に及ぼす通学時間の影響』『生活衛生』29: 157-162.

渡辺裕子，2015，「学生におけるアルバイトの実態と位置づけ：駿河台大学学生生活基本調査から」『駿河台大学論集』50: 169-187.

山本幸子・江口恵里・楊玉華・甲斐美智代・佐藤正昭・白蓋真弥・山崎学・吉村耕一・増田公香・人見英里，2018，『大学生のアルバイトが健康、学習、意識変容に及ぼす影響』『山口県立大学学術情報』11: 127-134.

全国大学生生活教育協働組合連合会，2020.『第55回学生生活実態調査の概要報告』（<https://www.univcoop.or.jp/press/life/report.html> 最終アクセス：2020年7月13日）.

東北大生の社会政治関心

白田慎成・樋口創太・山崎莉子

1. 研究背景とリサーチクエスチョンについて

日本において、若者の政治的無関心が指摘されるようになって久しい。それは主に、国内で行われる選挙において若者の投票率が低いことが原因だと考えられる。実際に平成 29 年に行われた衆議院議員総選挙では、10 代の投票率は 40.49%、20 代の投票率は 33.85%とワースト二位を若者が占めていた。また令和元年に行われた参議院議員通常選挙でも、10 代の投票率は 32.28%、20 代の投票率は 30.96%と極めて低い投票率であった（総務省 2019）。

こうした日本の状況とは対照的に、海外の若者はむしろ政治や社会に対して高い関心を示している。平成 30 年度に内閣府が行った各国の若者の特徴に関する調査では、「今の自国の政治にどれくらい関心があるか」という質問に対して、「非常に関心がある」、「どちらかといえば関心がある」と答えた人は、韓国で 53.8%、アメリカで 64.9%、イギリスで 58.9%、ドイツで 70.6%、フランスで 57.5%、スウェーデンで 57.1%であった。一方で日本は、43.5%と半数を割っており、調査した国々の中では最低の数値であった（内閣府 2018）。

しかし私たち大学生の目線からすれば、普段大学で講義を受けている大学生は他の一般の若者に比べて、日常的に政治や社会の話題に触れる機会が多いはずである。そのため、大学での学びが社会や政治に対する関心を刺激することで、関心が高まるということも十分考えられるが、なぜ日本の若者はここまで政治や社会に対する関心が低く、選挙での投票などの政治行動にも積極的ではないのだろうか。

今回は東北大生に対する調査ということで、大学生の政治や社会に対する関心はどのようになっているのかを分析する。具体的には、社会政治関心を従属変数とし、大学での専攻内容や生活満足度などの変数を独立変数として分析する。その上で、大学生の政治や社会に対する関心を上げていくにはどのような施策が有効なのかを検討していきたい。さらに、どうすれば大学生の政治参加を促進できるかについても合わせて考えていきたい。

2. 先行研究

まず、特に若者世代において日本の投票率が低下している要因として、政治への関心の低下がある（三船 2005）。田口（2017）は「政治問題に対する関心」や「政治情報に対する関心」は、投票に参加しなかった人よりも、参加した人の方が高いと述べている。当然ながら政治的関心と実際の投票行動とは関連があり、若者の投票率を上げるには若者の政治的関心を高める必要があると考えられる。それに加えて、田口は「身近な事柄として政治に対し関心を持たせることができれば、10 代有権者の投票行動は促進される」とも記述している

(田口 2017: 96)。実際に、父親と政治の話を普段からしている人は、自分は政治に対し影響力を行使できるという内的政治有効性感覚が高まり、それによって投票参加が促進される効果があることが示されている(大高・唐沢 2011)。今回は東北大生を対象にした調査であるため、身近な出来事を学生が所属する学部や研究室として考えていく。また大学生の政治的関心に着目した研究として井田(2009)の研究がある。彼によるとほとんどが政治に対して関心があると答えている一方、自らの生活と政治との関わりについて強い意識を持っている学生は少ないことが明らかになっている。

若者の政治離れの要因として、「豊かな社会」の実現というのも従来挙げられている。井田(2009)によって、生活満足度と政治満足度には弱いながらも正の関連が見られた一方、生活満足度と政治関心度の相関関係は認められていないことが明らかになっている。

3. 仮説

まず始めに、この報告書内で述べる「社会政治関心」について確認する。社会問題が自身に直接影響しているか否かは関係なく、現代社会におけるあらゆる社会問題・現象、あるいは政治体制に関する問題点や事象について興味がある、と想定した。

先行研究から、社会や政治に対する関心が高い人や家族と政治に関する話をするなど普段の生活から政治や社会の出来事に触れている人ほど、結果として投票に参加していることが分かっている。このことから、政治や社会的なこと、つまり現代の政治状況やそれに至るまでの歴史、また私たちの生活や社会にまつわる課題等について学んでいる法学部や経済学部の学生は、文学部や教育学部の学生よりも社会政治関心が高いと考えられる。これらを踏まえ以下の仮説を立てる。

仮説1：大学で政治や社会について学んでいる人ほど社会政治関心が強くなる。

また、生活が充実していることが若者の政治離れを促進させているという見解も多く存在しているが、先行研究では支持されず生活の充実性と社会政治関心に関連はないと考察されている。しかし、生活満足度と政治満足度に関連があることから、今現在の生活に満足していない人は政治に対しそれほど満足していないとも考えられる。そういった人は、政治に対して不満を抱いており、より良い社会(自分自身にとって満足のいく社会)にしていくためにも投票などに行こうと考えるのではないか。そのため、自分自身の生活の満足度と社会政治関心との関係は今一度注目するべきであると考え。今回は関心の対象を政治に限らず、性別役割意識や地位達成志向などの社会的な意識まで広げることで、個人と社会との関係も見ることができるのではないか。これらのことを踏まえ、以下の仮説を今一度検証していく。

仮説2：生活満足度が低い人ほど社会政治関心が強くなる。

4. 分析に使う変数・基礎統計

4.1 分析に使う変数

本稿での分析に利用する変数についての説明を以下に示す。なお、本稿の分析で扱うデータは、文系学生のうち、学部1年生を除いた、学部2・3・4年生と大学院生・研究生に限定した。所属する専攻を変数として利用するが、文学部の1年生は専攻が決定していないためである。

4.1.1 社会政治関心

両方の仮説で「社会や政治にそれだけ関心があるか」を従属変数として扱うが、以下の8つの質問に対する回答から新たに変数を作成した。

- ①「現在の日本の政治に対して、どれくらい関心がありますか。」
- ②「政治問題や政治にまつわることについて、友人や家族など周囲の人と会話・意見交換する。」
- ③「自分と同じくらいの年齢の人に比べて、自分は政治に関する知識が豊かであると思う。」
- ④「選挙で誰が当選しても結局のところ、今の政治の在り方は変わることは無い。」
- ⑤「皆が積極的に意見を出し合っていけば、やがて暮らしやすい世の中になる。」
- ⑥「どの政党が政権を担っても、自分には関係ない。」
- ⑦「政治の問題を扱う番組やインターネット・新聞の記事を見る・読むのが好きだ。」
- ⑧「日本の経済全般に対して、どれくらい関心がありますか。」

①と⑧は「1. とても関心がある」から「5. 全く関心が無い」までの五件法である。②から⑦は「1. あてはまる」から「5. あてはまらない」までの五件法である。これらのうち、① ② ③ ⑤ ⑦ ⑧ の6つの点数を反転させた8つの点数を単純に加算したときの平均を「社会政治関心」として作成した。クロンバックの α 係数は0.781であった。

4.1.2 専攻

「社会や政治のことを学んでいるか」の指標については、各回答者の学部および専攻を基準にした。文学部は学部内でも研究内容が多岐にわたり、それに応じて専攻が細かく分かれていることから、ここでも文学部においては専攻ごとに独自に分類した。分類は以下の通りである。

①文学部／言語系

(日本語学、日本語教育学、日本文学、中国文学、英文学、英語学、ドイツ文学、フラン

ス文学)

②文学部／文化・歴史系

(現代日本学、日本思想史、日本史、考古学、文化人類学、宗教学、インド学仏教史、中国思想、東洋史、西洋史、哲学、倫理学、東洋日本美術史、美学西洋美術史)

③文学部／社会科学系

(心理学、言語学、社会学、行動科学)

④経済学部

⑤法学部

⑥教育学部

なお、分類した度数（人数）は以下の通りである。

表 1 専攻・学部ごとの人数

	度数(人数)
①言語系	25
②文化・歴史系	36
③社会科学系	15
④経済学部	101
⑤法学部	34
⑥教育学部	25
合計	236

4.1.3 生活満足度

「あなたは現在の生活に満足していますか」という質問に対する、「1.満足している」から「5.大いに不満である」までの5つの選択肢による回答を反転させた形で、生活満足度を表す変数を作成した。

4.1.4 性別役割意識

「あなたは『夫は外で働き、妻は家庭を守るべき』という考え方について、賛成ですか、反対ですか」という質問に対する、「1.賛成」「2.どちらかといえば賛成」「3.どちらかといえば反対」「4.反対」の4つの選択肢による回答を反転させたものを、性別役割意識を表す指標とした。この指標の点数が高いほど、性別役割意識が強いということを意味する。

4.1.5 地位達成志向

「東北大学を受験する際、(それぞれのカテゴリーについて)どれほど重視したか」という質問に対する回答を、地位達成志向の指標として、これに基づいた変数を作成した。質問は以下の3つである。

- ①就職に有利であること
- ②就職後、多くの収入・給与を得られること
- ③高い社会的地位を得られること

3つの回答方法は全て「1. あてはまる」から「5. あてはまらない」までの五件法である。それぞれ回答の点数を反転させ、単純に加算したときの平均を「地位達成志向」として作成した。クロンバックの α 係数は0.874であった。

4.1.6 勉強熱意

「前セメスターの普段の学習活動について、自分の直感にもっとも合う選択肢を回答してください。」という質問に対する回答を、大学での勉強に対する意欲の度合いの指標として、これに基づいた変数を作成した。変数に組み込んだ質問は以下の5つである。

- ①「授業には意欲的に参加していた。」
- ②「授業を熱心に聞いていた。」
- ③「自分は学習意欲が高い方だと思う。」
- ④「実際に自分は積極的に学習していたと思う。」
- ⑤「勉強が好きである。」

5つの回答方法は全て「1. とても関心がある」から「5. 全く関心が無い」までの五件法である。「該当しない」という回答を省いたこれらの点数を反転させ、単純に加算したときの平均を「勉強熱意」として作成した。クロンバックの α 係数は0.892であった。

4.1.7 学年

4-1. でも述べたように、学部1年生を除いた形で変数間の関連を検討する。

4.1.6 勉強熱意

「2019年7月21日に行われた第25回参議院議員選挙で投票に参加したか」という質問に対する回答のうち「選挙権を有していなかったため投票していない」という回答と無回答を除いた、「投票した」と「選挙権を有していたが投票しなかった」の2つに分類される変数を作成した。なお、「投票した」人数は78人、「選挙権を有していたが投票しなかった」人数は142人であった。

4.2 基礎統計

それぞれの変数の記述統計は以下の通りである。

表 2 変数の記述統計量

	度数	平均	標準偏差	最小値	最大値
社会政治関心	236	3.126	0.736	1.125	4.875
勉強熱意	223	3.301	0.978	1.000	5.000
生活満足度	236	3.831	0.925	1.000	5.000
性別役割意識	236	1.750	0.815	1.000	4.000
地位達成志向	235	3.116	1.229	1.000	5.000

5. 分析・結果

5.1 社会政治関心と投票行動との関連

まず、全体の分析の前提として、「投票行動」と、ここで主に扱う「社会政治関心」との間の関連について確認する。

表 3 投票行動別の社会政治関心の点数の平均等

	度数	平均	標準偏差	最小値	最大値
選挙参加	78	3.385	0.708	1.750	4.875
選挙不参加	142	3.043	0.710	1.125	4.750
合計	220	3.126	0.736	1.125	4.875
Welch t = -3.417***					
***p<0.001					

表 4 社会政治関心と投票行動との相関係数

	投票行動
社会政治関心	0.225 ***
N = 218, ***p<0.001	

平均の差についてウェルチの t 検定を行ったところ、投票をした群としなかった群とで、社会政治関心について 0.1%水準で有意な差があった。「社会政治関心」を独立変数、「投票行動」を従属変数とした相関分析においても、0.1%水準で有意な関連が見られた。このように、社会政治関心が高い人は積極的に投票に参加していると言えることができる。

5.2 仮説 1 についての検討

仮説 1 は以下のようなものである。

仮説 1：大学で政治や社会について学んでいる人ほど社会政治関心が強くなる。

独立変数を「専攻」、従属変数を「社会政治関心」とし、重回帰分析を行った。法学部や経済学部の学生の方が、文学部や教育学部よりも政治や社会的なことを学ぶ機会が多いと考え、特に法学部の学生において社会政治関心の点数が他のカテゴリーよりも高いと予想したため、「⑤法学部」を基準カテゴリーとして分析した。

表 5 専攻と社会政治関心についての重回帰分析

	B	S.E.
切片	3.562 ***	0.121
①言語系	-0.542 **	0.189
②文化・歴史系	-0.590 ***	0.169
③社会科学系	-0.629 **	0.219
④経済学部	-0.420 **	0.140
⑤法学部 (ref.)		
⑥教育学部	-0.578 **	0.187
調整済みR二乗値 = 0.050		
N = 235, ***p<0.001, **p<0.01		

法学部以外のカテゴリーは全てマイナス値を取り、いずれも法学部との差は 0.1%もしくは 1%水準で有意であるという結果が得られた。また、「回帰係数の値が小さいほど、法学部の学生との乖離が大きい」とすると、数値の大きい順に「④経済学部 > ①言語系 > ⑥教育学部 > ②文化・歴史系 > ③社会科学系」となる。なお調整済み R 二乗値は 0.050 という低い値だった。

5.3 仮説 2 についての検討

仮説 2 は以下のようなものである。

仮説 2：生活満足度が低い人ほど社会政治関心が強くなる。

独立変数を「生活満足度」、従属変数を「社会政治関心」として相関分析を行った。その結果、5%水準で有意に関連があるという結果が得られた。

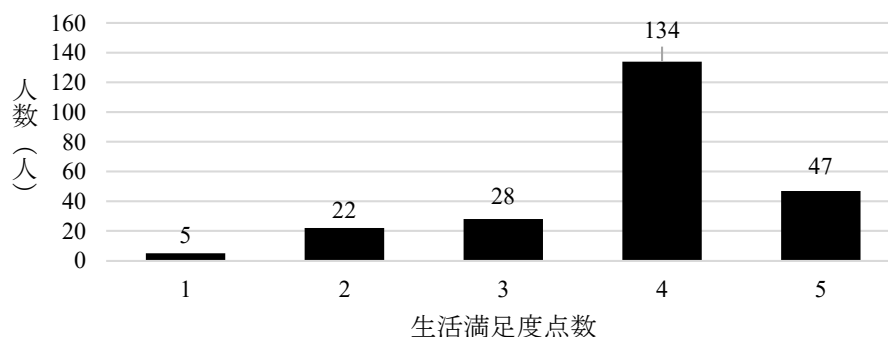
表 6 生活満足度と社会政治関心との相関係数

	社会政治関心
生活満足度	0.153 *
N = 236, *p<0.05	

なお、生活満足度の点数については「4」に該当する人が突出して多かったため、相関関

係を適切に分析できていない可能性がある。

図1 生活満足度の分布



5.4 重回帰分析

「専攻」と「生活満足度」に加えて「勉強熱意」と「学年」を変数として加えて、社会政治関心との関係について重回帰分析を行った。なお、ここでの「学年」については、学部2年生を基準とし、学部3・4年との差について検討した。

表7 社会政治関心を従属変数とした重回帰分析

	B	S.E.
切片	2.818 ***	0.294
専攻 ①言語系	-0.620 **	0.194
②文化・歴史系	-0.643 ***	0.174
③社会科学系	-0.626 **	0.221
④経済学部	-0.431 **	0.148
⑤法学部 (ref.)		
⑥教育学部	-0.571 **	0.200
生活満足度	0.079	0.054
勉強熱意	0.125 *	0.051
学年 学部2年生 (ref.)		
学部3年生	0.125	0.110
学部4年生	0.034	0.167
調整済みR二乗値 = 0.089		
N = 220, ***p<0.001, **p<0.01, *p<0.05		

重回帰分析の結果、専攻については「⑥法学部」とその他のカテゴリーとの間に有意な差が依然見られた。その一方で「生活満足度」については、重回帰分析において社会政治関心との間で有意な関連が見られなかったことから、単体としては社会政治関心の形成に影響を与え得るが、他の変数を統制するとその効果は減少すると判断できる。他の変数の例とし

ては、この結果でも有意な関連が示されているように「勉強熱意」が挙げられる。また、学年については学部2・3・4年生の間に差は見られなかった。なお調整済みR二乗値は0.089であった。

5.5 社会政治関心と性別役割意識・地位達成志向との関連について

社会政治関心が強い人の、現実的・具体的な行動や価値観として「性別役割意識」と「地位達成志向」があり、社会政治関心とこれらとの間には関連があるだろうという予測を立てたうえで、相関分析を行った。結果は以下の表の通りであり、いずれも社会政治関心との間に有意な関連は認められなかった。

表8 社会政治関心と性別役割意識との相関係数

	性別役割意識
社会政治関心	0.033
N = 234	

表9 社会政治関心と地位達成志向との相関係数

	地位達成志向
社会政治関心	0.056
N = 233	

6. 考察と結論

分析結果を踏まえ、以下のように解釈できる。

仮説1：大学で社会について勉強している人は、社会政治関心が高まる。

仮説2：生活満足度は社会政治関心の形成に、強く影響を与えない。

まず、前者について確認したい。分析の結果、専攻と社会政治関心には関連があることがわかり、中でも法学部生は社会政治関心が強いことがわかった。つまり、普段から社会や政治のことに深く学んでいると思われる人ほど、社会政治関心が強いのである。

加えて、社会政治関心が強い人の、社会に対する実際の考えはどのようになっているのかについても分析した。具体的には、性別役割意識や地位達成志向についてである。政治や社会問題に対する関心事・事例の一つとして、性別役割意識の問題が挙げられる。私たちは、社会政治関心と性別役割意識の間には関連があると考えたが、分析の結果、両者に関連は無いとわかった。この結果の理由としては、社会や政治に関心があつたとしても、大学生の間では性別役割意識のトピックは個人の考えの問題であつて、社会の問題ではないと認知されている可能性などが考えられる。同様に、社会政治関心と地位達成志向の間にも関連

は見られなかった。将来の自分の収入や地位を向上していきたいと考えている大学生ほど、普段から社会情勢や政治のあり様を注視しているだろうと予想していたが、そのようなことは積極的には認められない結果となった。性別役割意識と同様に、自らの地位の向上については個人の問題であり、社会の問題とは区別しているという認知がなされている可能性が考えられる。

後者の結果に関しては、従来主張されてきた「豊かな社会の実現が若者の政治離れを生んだ」という論理を、必ずしも積極的には肯定できない形になった。重回帰分析の結果から推測できるように、少なくとも東北大生の社会政治関心に対しては、生活満足度は強く影響を与えておらず、その他の要因がより強く関係しているのだと考えられる。

以上の結果の解釈を踏まえ、社会政治関心の形成に関して、私たちの中で以下のような新たな仮説が生まれた。

(1) 大学入学以前の段階で、すでに社会政治関心は形成されている。

(2) 大学で社会や政治に関して学んだために、関心が高まった。

前者の考察は、大学教育は社会政治関心にさほど影響を与えておらず、実は大学に入学する以前に既に社会政治関心が出来上がっている、という個人の特性に着目した仮説である。つまり、そもそも元から社会政治関心の強い人が、法学部のような、直接的に社会や政治を学ぶことができる学部に進学したことで、専攻と社会政治関心に関連が見られたということになる。

対して後者の考察は、大学で社会や政治について学んだことがトリガーとなり、社会や政治に関して改めて関心を持つようになった、という本人を取り巻く環境に着目した仮説である。この仮説に関しては、例えば学年ごとに社会政治関心の違いを追っていき、学年が上がるにつれてそうした関心が強くなるということが認められれば、大学教育が社会政治関心を高める場になっていると認めることができる。また、授業への熱心度と社会政治関心との間に関連が見られれば、後者の仮説を補強できると考える。

これらの考察に対する分析結果はどのようなようになった。

表 10 学年と社会政治関心についての重回帰分析

	B	S.E.
切片	3.101 ***	0.060
学部2年 (ref.)		
学部3年	0.145	0.111
学部4年	-0.036	0.158
調整済みR二乗値 = -0.000		
N= 232		
***p<0.001		

表 11 勉強熱意と社会政治関心との相関係数

	社会政治関心
勉強熱意	0.184 *
N = 218, *p<0.05	

重回帰分析での結果と同じように、学年によって社会政治関心が変わるという結果は得られず、一方で勉強熱意については 5%水準で社会政治関心との間に関連が見られた。このことから、政治や社会について学ぶ機会の単純な累積ではなく、大学での学習に熱心に取り組むことが、社会政治関心の形成に影響を与えることが示唆され得る。

しかし、この結果は、学生が熱心に取り組めるような教育機会が提供されることで関心が高められる可能性を示唆することができる一方で、元々勉強に対して熱心である学生が、大学でも態度を変えていないだけであるという可能性も示すものともなる。

以上の結果と考察を踏まえ、リサーチクエスチョンである「大学生の政治や社会に対する関心を上げていくにはどのような施策が有効なのか」、さらに「どうすれば大学生の政治参加を促進できるのか」について考えたい。まず仮説(1)のように、大学入学以前の段階で、すでに社会政治関心が形成されていると仮定するならば、大学教育以前の初等教育から高等教育の段階における政治教育の充実が上げられる。中でも特に義務教育を重視したい。全ての日本国民がうける義務教育の段階で、政治や社会に対する関心を喚起することができれば、その後の進路に影響を与えるだけでなく、日々そうした関心を周りの人と共有していけるような、政治が日常に溶け込んだ感覚を養うことができるからである。

または仮説(2)のように、大学で政治や社会について学んだことによってそうした関心が高まると仮定するならば、本人を取り巻く環境次第で若者の関心を高めることができると考えられる。具体的には、法学部以外の他学部の大学生に対しても、法学部で学ぶことができるような内容の講義を開講することなどが考えられる。1年生の教養科目として、他の数学や語学の講義と同じように、政治などが学べる履修科目の候補を増やすことで、1年生の段階から政治や社会に対して関心を喚起することができるかもしれない。

いずれにせよ、大学生の政治や社会に対する関心の形成に関して、今回の調査によって、新たな仮説のうちどちらがより支持され得るかを厳密に検証することはできなかった。より有効な打ち手を講じていくためには、さらなる調査と詳細な分析が必要になるだろう。また今回は若者という属性の中の大学生という属性の、さらに東北大生という極めて限られた母集団に対する調査だったので、以上まで上げた考察は他の大学生には当てはまらない可能性がある。加えて、今回の調査では、社会政治関心と投票行動との間の関連性について指摘することができたが、「関心はあるけれども実際に選挙に行くなどの行動は起こさない人」のように、社会政治関心が既にある人にとって、何がボトルネックになっているのかについて明らかにすることはできなかった。社会や政治に対する関心と実際の政治参加との間に、溝がある可能性があるため、若者の実際の政治参加を促す打ち手を提案したいならば、今後そうした観点で調査を実施する必要性もあるだろう。

引用文献

- 秦正樹, 2015, 「若年層の政治関心と投票参加——日本型政治的社会化の構造の機能に着目して」『神戸法学雑誌』 65(2): 263-285.
- 井田正道, 2009, 「大学生の政治観に関する分析」明治大学政治経済学部.
- 三船毅, 2005, 「投票参加の低下：90年代における衆議院議員投票率低下の分析」『日本政治学会年報政治学』日本政治学会.
- 内閣府, 2018, 「特集 1 日本の若者意識の現状——国際比較から見えてくるもの」
https://www8.cao.go.jp/youth/whitepaper/r01honpen/s0_1.html (参照：2020年8月8日).
- 大高瑞郁・唐沢かおり, 2011, 「父親との政治的会話と子の内的政治的有効性感覚の関連」『山梨学院大学法学論集 68 巻』.
- 総務省, 2019, 「国政選挙における年代別投票率について」,
https://www.soumu.go.jp/senkyo/senkyo_s/news/sonota/nendaibetu/ (参照：2020年8月8日)
- 田口雅徳, 2017, 「10代大学生の投票行動と政治的関心・政治有効性感覚との関連——2016年参議院選挙での調査結果に基づく検討——」『学習開発学研究第10号』広島大学大学院教育学研究科学習開発学講座.
- 横山智哉・稲葉哲朗, 2016, 「政治的会話の橋渡し：政治的会話が政治参加を促進するメカニズム」『社会心理学研究第32巻第2号』日本社会心理学会

大学生の健康

——スマホ依存度と所属団体の観点から——

立原瑞季・本田千理

1. 研究関心

今回、私たちは、大学生の健康について興味をもち、スマホ依存度と、所属団体という2つの観点から調べた。

2. 大学生のスマホ依存度と精神的健康の関連について

2.1 リサーチクエスションの設定について

現在、私たちの生活に、スマートフォンは切り離せない存在となっている。スマートフォンは、大学生にとっては、単なる連絡手段ではなくっており、SNSを利用したり、ネットショッピングしたり、動画を見たり、さまざまな場面で利用している。今回、コロナの影響により家にいる時間が増えたことで、スマートフォンの利用時間が増えた人もいるだろう。

そのような現状において、スマホ依存という問題がある。スマホ依存とは、東邦大学医療センターは、「スマートフォンの使用を続けることで昼夜逆転する、成績が著しく下がるなど様々な問題が起きているにも関わらず、使用がやめられず、スマートフォンが使用できない状況が続くと、イライラし落ち着かなくなるなど精神的に依存してしまう状態」のことだと定義している。(東邦大学医療病院メンタルヘルスセンター 2020)

また、大学生は、高校生以下に比べ、一人暮らしの人が多。東北大学では、平成31年度の入学者の中で、宮城県出身者が15.6%であり、8割以上は一人暮らしであることが予想できる。また、大学生は、高校生以下に比べ、一人暮らしの人が多。このことは、スマートフォンの使用時間や使用場面について、親など、注意してくれる存在がいないので、スマホ依存に陥りやすいのではないかと考える。また、社会人に比べると、時間的拘束が少ないので、スマートフォンの使用時間が大学生は長くなると考えられる。このことから、大学生のスマホ依存度について調べる意義があると感じた。

スマホ依存の問題は、東北大学生にもあてはまることなのか、また、大学生の健康とスマートフォンの使用の関連はどの程度あるのか調べる必要があると感じ、今回調べてみることにした。

2.2 先行研究

女子大学生の健康や生活習慣に対する自己管理能力をはかる指標に、スマートフォンの使用場面数を用いて研究が行なわれており、スマホの使用場面数が多いほど自己管理能力の低さにつながっているという結果が出た。(井上ほか 2019) このことから、スマホの使

用と大学生の健康は、関連があることが予測されるが、実際にスマホ依存度と大学生の精神的健康度を関連付けて調べた研究はなされていなかった。

しかし、大学生のインターネット依存傾向と健康度および生活習慣との関連性を調べた研究（片山ほか 2016）では、ネット依存傾向がある者は全体の 58%を占めた。また、インターネット依存傾向がみられた人々は、不安感、抑うつ感、イライラがつのっているという結果が出た。

スマートフォンは、SNS やインターネットを利用することができる機器なので、スマホ依存の問題は、SNS 依存やインターネット依存の問題とも深く結びついていると考えられる。つまり、上記のインターネット依存傾向と健康度の関連性での結果と類似した結果が得られることが予想される。

2.3 仮説

精神的に不健康な学生ほど、スマホ依存度が高い傾向がある

2.4 分析に用いる変数

精神的な不健康度

独立変数を精神的な不健康度とし、質問文「小さなことでもイライラしてしまう。」「なにごとにもやる気が出ない日がある。」「疲れを感じるが多い。」それぞれに対する 5 件法の回答「1. あてはまる」～「5. あてはまらない」の値を逆転させ、値が大きいほど不健康度が高くなるように設定し、精神的な不健康度の合成変数を作成した。

スマホ依存度

スマホ依存に関する質問項目は、「新しいスマートフォン依存尺度の開発」（戸田ほか、2015）を参考に、「ネットコミュニケーションへの没頭」を調べる質問として、「スマホをしている最中に話しかけられると、イラッとすることがある。」「現実から逃避するためにスマホを使うことがある。」の二つを、スマホの優先と長時間使用を調べる質問として、「他にしなければならないことがあるのに、スマホをしてしまうことがある。」「スマホのせいで、夜更かしをしてしまったり、寝不足になったりすることがある。」の二つを作成した。

従属変数は、スマホ依存度とし、独立変数の精神的な不健康度と同様に、質問文それぞれに対する 5 件法の回答「1. あてはまる」～「5. あてはまらない」の値を逆転させ、値が大きいほどスマホ依存度が高くなるように設定しスマホ依存度の合成変数を作成した。

それぞれの質問項目が単一の構成概念を測定しているかどうかの信頼性係数として幅広く用いられている Cronbach のアルファを測定したところ、精神的な不健康度のアルファは 0.67、スマホ依存度のアルファは 0.66 となった。内的整合性がある（単一の構成概念を測定している）と判断するためには、おおむね 0.7 を超えていることが推奨されるが、どちらの

値も 0.7 に近い値ではあるため、今回の研究では使用変数として用いることとする。

睡眠時間

睡眠時間の長さと精神的健康は関連が考えられるため、質問文 43 の睡眠時間を統制変数として用いた。

性別

質問文 1 の「あなたは男性ですか、女性ですか。」という質問に対し、男性、女性、その他の 3 カテゴリで調査した。分析では、「男性」「女性」の 2 つを変数として用いた。女性を基準カテゴリとし、「男性ダミー」という変数を作成した。無回答、その他と回答した人は欠損値とした。

2.5 分析結果

重回帰分析を用いる。まず、用いる変数の記述統計量を確認する。次に、主要な独立変数である精神的不健康度の変数について確認する。

以下に用いる変数の記述統計量を示す。

表 1・記述統計量

	最小値	平均	標準偏差	最大値
精神的不健康度	1.00	3.53	0.92	5.00
スマホ依存度	1.00	3.06	0.93	5.00
睡眠時間	1.00	3.84	1.08	6.00
男性ダミー	0.00	0.49	0.50	1.00

また、精神的健康に関する質問の結果は以下である。

表 2・精神的健康に関する質問の度数分布表 (%)

	あてはまる	どちらかといえば あてはまる	どちらとも いえない	どちらかといえば あてはまらない	あてはまらない
小さなことでも イライラしてしまう	8.8	31.4	19.4	24.0	16.4
なにごとに やる気が出ない日がある	43.1	37.0	6.2	9.1	4.6
疲れを感じる人が多い	25.3	36.7	17.6	13.8	6.6

次に、スマホ依存度に関する質問の結果は以下である。

表 3・スマホ依存に関する質問の度数分布表 (%)

	あてはまる	どちらかといえば あてはまる	どちらとも いえない	どちらかといえば あてはまらない	あてはまらない
スマホをしている最中に 話しかけられると、 イラッとすることがある	2.9	7.9	13.5	19.4	56.3
現実から逃避するために スマホを使うことがある	21.8	33.7	10.6	11.5	22.4
他にしなければならない ことがあるのに、 スマホをしてしまうこと がある	34.2	42.1	7.9	8.2	7.6
スマホのせいで、夜更か しをしてしまったり、 寝不足になったりするこ とがある	25.6	31.2	8.7	17.1	17.4

次に、スマホ依存度に関する重回帰分析の結果は以下である。

表４・スマホ依存度に関する重回帰分析

	B	S.E
切片	1.069**	0.249
精神的不健康度	0.494**	0.049
性別	0.173*	0.091
睡眠時間	0.038	0.042
調整済みR2乗	0.238	

N=327 **p<0.01 *p<0.05

この結果から、精神的不健康度は１％水準で有意、性別は、５％水準で有意に正の効果が確認された。

2.6 考察と結論

スマホ依存度についての重回帰分析の結果より、仮説は支持され、精神的に不健康な人ほどスマホ依存度が高いといえる。

また、精神的健康に関する質問の結果を見ると、「なにごとにもやる気がでない」についてあてはまると回答した人がとても多く、全体の約８割である。これは、精神的健康に関する他の質問項目の結果と比べると、非常に高い割合である。この質問は、抑うつ性を測るための項目である。この結果が出た理由を考察すると、コロナウイルスの影響で、自粛期間が続き、家で授業を受けたり、課題をやったり、外に出ず家に引きこもる日々が続いていることが要因の一つではないかと考える。

また、精神的不健康度の平均値は 3.53 で、スマホ依存度の平均値は 3.06 であったので、東北大学生は、平均的には、精神的不健康度は若干不健康よりではあるものの、スマホ依存の傾向はみられなかった。しかし、スマホ依存度に関する質問項目の中で「他にしなければならぬことがあるのに、スマホをしてしまうことがある。」と「スマホのせいで、夜更かしをしてしまったり、寝不足になったりすることがある。」に関して、あてはまると答えた人の割合がかなり高くなっている。これは、スマホ依存度の、《スマホの優先と長時間使用》を測る項目であり、残りの 2 つの質問は、《ネットコミュニケーションへの没頭》を測る項目であった。この結果から、東北大学生は、ネットコミュニケーションへの没頭の傾向は見られないが、スマホを使用している時間が長い傾向があるといえる。

今後の課題としては、スマホ依存度や精神的不健康度が、コロナの影響により、オンライン授業や部活動停止になっており、人と会わないことなどで、平常時より上がっていることも考えられるので、平常時の値と比べてみる必要があるだろう。

3. 大学生の所属団体と大学適応について

3.1 リサーチクエスチョンの設定

大学とは本来、学業に励む場であるが、現在の東北大学（以下、東北大）には学友会やサークルというものが存在し、東北大の令和元年度の学生生活調査においては、学部生の約 8 割が、学友会やサークルなどに所属している、または所属していたが引退したと回答している（東北大学 「令和元年度【東北大学学生生活調査】のまとめ 東北大学生の生活」）。特に、この学友会というのは、学問以外の自発的な活動のための全学的な組織のことで、他大学における部活のような役割を果たしている。そしてその中には全国・世界で活躍する団体も数多く存在しており、そこに所属する人の中には、大学の学業と同等、またはそれ以上にそこでの活動に重きを置く人も多くいる。

これは一見大学の本来の目的には沿わないように感じられる。しかし、そこでの取り組みの中では、責任感や仲間とのつながり、成功体験など、多くのものが得られる。そしてこれらは、大学での適応感や満足度、友人関係に正の影響を与える可能性があるのではないかと考えた。もしそうなのであれば、退学や休学の減少や授業意欲にも影響を及ぼし、結果として学業という面でも正の影響を与える可能性があると考えられる。

したがって、所属団体における活動が学業や大学生活に対してどのような影響を及ぼすのかということについて調べることで、その結果次第では、課外活動というものの存在意義の再確認ができ、今後の新入生の課外活動の選択において指標になると考えられる。また、それぞれのサークルやボランティア団体などと比較し、それぞれの利点が分かれば、これも今後の新入生の選択の指標になると考えられる。

3.2 先行研究

迫・荒井（2002）は部活やサークルに所属している場合は大学生生活の全体的な評価として満足度が高く、部活などフォーマルな集団に所属しているほど満足と回答する者が多いことを示している。ここでいう部活というものは、東北大学では学友会に置き換えられていると考えられる。

また、樋口（2007）では、部活動・サークル活動に対する意識が、大学に対する満足感にポジティブに関連していたことを示している。

安達・杉山（2019）においては、サークルに所属しているが活動に対する意識が低い者は部活あるいはサークルに所属していて活動に対する意識が高い者に比べて孤独を強く感じる傾向にあったということも示している。

このことから、既存研究でわかっていないこととして、以下のことが挙げられる。

- ・スポーツ特待の無い東北大においてはどうか（先行研究では調査した大学名は明示されておらず、スポーツ特待などがある大学とない大学では結果にも差があると感じたため。）
- ・学友会、サークル、その他での活動が学校適応感に与える影響の有無
- ・学友会、サークル、その他での活動が友人関係満足度に与える影響の有無

3.3 仮説

以上を踏まえて、以下二つの仮説を立てた。

仮説1：学友会で活動している人のほうが、ほかの団体で活動する人よりもその活動に対する意欲が高くなり、大学生生活に対して充実感を覚えるために、大学適応感が高くなる

仮説2：学友会で活動している人のほうが、ほかの団体で活動する人よりも活動頻度が高く、学友会の中での関係が濃くなるために、友人関係に対して満足している。

しかし、これらの仮説に関して、3-2でも上げたように、サークルに所属しているが活動に対する意識が低い者は部活あるいはサークルに所属していて活動に対する意識が高い者に比べて孤独を強く感じる傾向にあった（安達・杉山 2019）。というものがあるので、団体に所属しているからといって、一概に友人関係に満足しているとは言えないということも考えられる。

また、ここでは仮説を立てる上で所属団体を学友会に限定しているが、ここでの分析の対象としては学友会以外のサークルやアルバイトなどの団体への所属も含めた所属団体による大学適応感や友人関係満足度の差に着目していく。

3.4 分析に用いる変数

まず今回の分析では、所属団体と大学生活に関する事柄を対象としているため、所属団体が決まっていないことや、決まっても活動は活発に行っていない場合が多いと考えられる1年生は変数から除き、2～4年生を対象にしたうえで分析を行った。

分析には以下の変数を使用する。

所属団体

まず所属の有無についての回答を求めたのちに、所属ありと回答した人に対して、所属団体の種類について、複数回答可での回答を求めた。

まず「その他」、「あてはまるものがない」と回答した人は3人であったためこれらの選択をした人をサンプルから除外した。そのうえで、複数回答なども踏まえて、「所属無し」、「サークル/ボランティアのみ」、「バイトのみ」、「学友会のみ」、「学友会とその他の団体」、「その他の団体兼部」の合計6つのカテゴリカル変数を作成した。ここでは、ボランティアのみに回答したのが1人であったため、「サークル/ボランティアのみ」とまとめた。

活動時間 (q72)

前セメスターの1週間での活動時間について自由記述方式での回答を求めた。今回の研究ではこの変数を連続尺度として扱った。

活動意欲 (q73)

所属団体における活動意欲を問う質問で、「1. そう思う」「2. どちらかといえばそう思う」「3. どちらともいえない」「4. どちらかといえばそう思わない」「5. そう思わない」の5件法で回答を求めた今回の研究ではこの変数を連続尺度として扱った。

大学適応感 (q68)、大学満足度 (q69)

大学適応感に関する4つの質問項目(大久保 2005)と大学満足度に関する質問を用いて、Cronbach のアルファを測定したところ、大学適応感尺度は 0.61 となり、本来はこの値は 0.7 を超えることが推奨されるが、今回はそれに近い値であるため、内的整合性があると判断し、今回の研究では使用変数として用いることとする。またこの変数は連続尺度として扱った。

友人関係満足度 (q68)

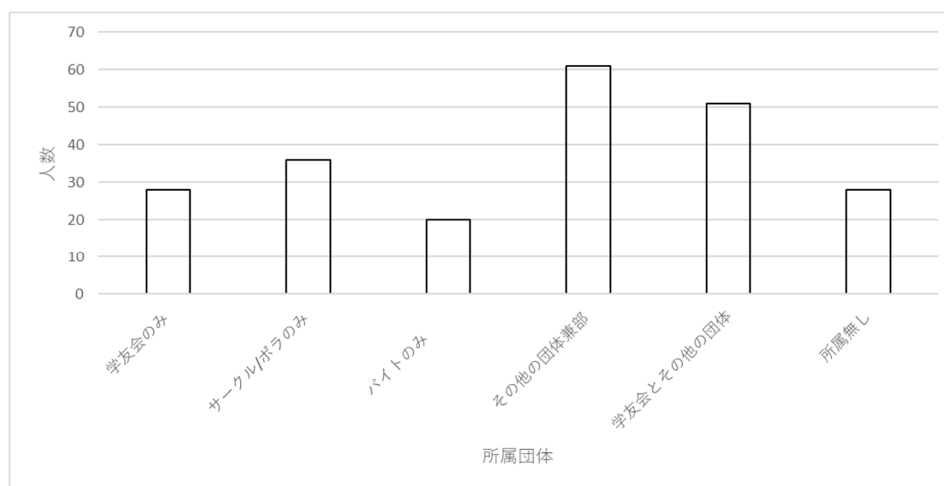
友人関係に関する質問項目3つを用いて、Cronbach のアルファを測定したところ、友人満足度は 0.754 となり、同様に内的整合性があると判断し、今回の研究では使用変数として用いることとする。またこの変数は連続尺度として扱った。

3.5 結果

3.5.1 記述統計量

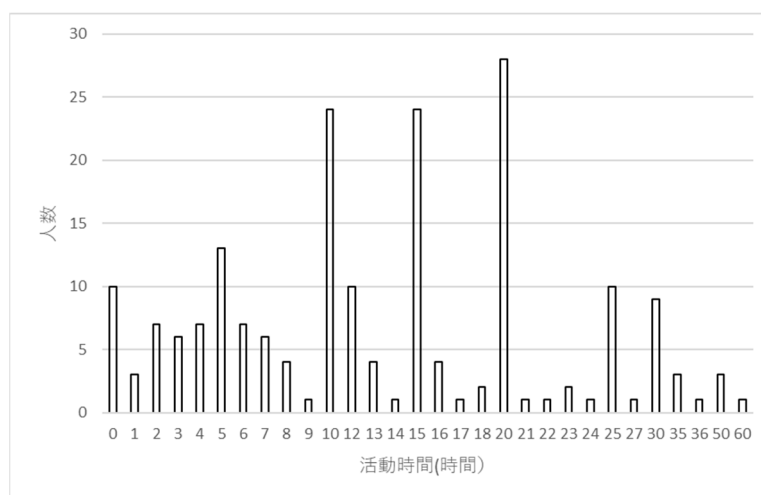
まず、分析に使用する変数の記述統計量を確認する。

図 3-1 所属団体の分布



まず、所属団体の分布について、図 3-1 から、最も多いのが「その他の団体兼部」で 61 人、次に多いのが「学友会とその他の団体」51 人となっており、一つの団体のみではなく、いくつかの団体に所属している人が多くなっていた。

図 3-2 活動時間の分布



活動時間の分布は図 3-2 のようになっている。

表 3-1 活動意欲に関する度数分布表

	そう 思う	どちらかとい えばそう 思う	どちらとも いえない	どちらかといえ ばそう 思わない	そう 思わない
所属団体の活動に意欲的に取り組 んでいるか	43%	37%	7%	7%	6%

活動意欲の分布については表 3-1 のようになっている。これは、そう思う、どちらかとい
えばそう思うのポジティブな回答をした人数が過半数以上を占めた。

表 3-2 大学適応感に関する質問の度数分布表

	そう 思う	どちらかとい えばそう 思う	どちらとも いえない	どちらかといえ ばそう 思わない	そう 思わない
周りに溶け込んでいると感じる	12%	39%	19%	20%	9%
周りから頼られていると感じる	8%	27%	30%	21%	15%
周りに迷惑を かけていると感じる	8%	15%	29%	33%	16%
将来役口つこと が学べる	24%	43%	20%	9%	3%
課外活動を含めた総合的な口で 口学口活に満口し ているか	25%	50%	14%	8%	4%

大学適応感の分布に関しては、表 3-2 のようになり、全体としてポジティブな回答が多く
なっていた。

表 3-3 友人関係満足度に関する質問の度数分布表

	そう 思う	どちらかとい えばそう 思う	どちらとも いえない	どちらかといえ ばそう 思わない	そう 思わない
今の口分の友口関係に満 口している	35%	36%	19%	8%	2%
今の友口関係は、口分が 望んでい るものと違うと 思う。	5%	15%	19%	40%	21%
今の友口付き 合いが本当 はつらい 時がある。	4%	15%	20%	29%	32%

友人関係満足度の分布は表 3-3 のようになり、こちらも大学適応感同様にポジティブな
回答が多くなっていた。

3.5.2 分析結果

まず初めに団体に所属しているか否かでそれぞれの効果を見たところ、有意な差は生じ
なかった。

1) 大学適応感

表 3-4 から、「大学適応感」に対して、「活動意欲」が 0.1%水準で有意な効果を持ってい
た。また、「バイトのみ」を基準カテゴリにしたときのみ、「学友会とその他の団体」、「その

他の団体兼部」が5%水準で有意な効果を持っていた。

表 3-4 大学適応感を従属変数とした重回帰分析

	B	S.E.
切片	2.240 ***	0.235
サークル/ボランティアのみ	0.111	0.184
学友会とその他の団体	0.399 *	0.179
その他の団体兼部	0.337 *	0.170
学友会のみ	0.175	0.195
活動意欲	0.213 ***	0.044
活動時間	-0.003	0.005
調整済みR2	0.111	
N	185	

† p<0.1,*p<0.05,**p<0.01,***p<0.001

2) 友人関係満足度

表 3-5 から、「友人関係満足度」に関しては所属団体や「活動時間」による差は生じなかったものの、「活動意欲」が「友人関係満足度」に対して 0.1%水準で有意な効果を持っていた。

表 3-5 友人関係満足度を従属変数とした重回帰分析

	B	S. E.
切片	2.893 ***	0.320
サークル/ボランティアのみ	0.251	0.245
学友会とその他の団体	0.012	0.253
その他の団体兼部	0.130	0.264
学友会のみ	0.077	0.232
活動意欲	0.209 ***	0.060
活動時間	-0.006	0.007
調整済みR2	0.040	
N	185	

† p<0.1,*p<0.05,**p<0.01,***p<0.001

3) 活動意欲に対する効果

表 3-6 から、「活動意欲」に対する「活動時間」の効果を調べたところ、0.1%水準で有意な効果を持っており、「バイトのみ」を基準カテゴリとしたとき、「その他の団体兼部」が5%水準で有意な効果を持っていた。また、「学友会とその他の団体」が10%水準で有意な効果を持っていた。

表 3-6 活動意欲を従属変数とした重回帰分析

	B	S. E.
切片	4.042 ***	0.258
サークル/ボランティアのみ	-0.286	0.307
学友会とその他の団体	-0.510 †	0.297
その他の団体兼部	-0.582 *	0.281
学友会のみ	-0.109	0.323
活動時間	0.030 ***	0.008
調整済みR2	0.067	
N	185	

† p<0.1,*p<0.05,**p<0.01,***p<0.001

4) 活動時間に対する効果

また、表 3-7 から、「活動時間」に対する所属団体の効果について、「学友会とその他の団体」を基準カテゴリとしたとき、「その他の団体兼部」、「バイトのみ」、「サークル/ボランティアのみ」が 0.1%水準で、「学友会のみ」が 5%水準で有意な負の効果を持っていた。

したがって、「学友会とその他の団体」と比較して、1 週間で 5～10 時間ほど各団体の活動時間は少ない傾向があることが分かる。また、「学友会のみ」を基準カテゴリとしたとき、「サークル/ボランティアのみ」が有意な負の効果を持っており、サークル/ボランティアのみに所属している人よりも活動時間が長い傾向にあることが分かった。

表 3-7 活動時間を従属変数とした重回帰分析

	B	S.E.
切片	10.803 ***	2.800
サークル/ボランティアのみ	-10.319 ***	2.054
バイトのみ	-9.838 ***	2.450
その他の団体兼部	-5.934 ***	1.766
学友会のみ	-5.528 *	2.212
活動意欲	2.157 ***	0.603
調整済みR2	0.172	
N	185	

† p<0.1,*p<0.05,**p<0.01,***p<0.001

以上の結果から、大学適応感や友人関係満足度への効果というのは特定の所属団体を比較した場合には生じるものの全体としては大きな相関があるとは言えないことが分かった。

しかし、所属団体は活動時間に対して有意な効果を持ち、活動時間は活動意欲に、そして活動意欲が大学適応感に有意な効果を持つことから、直接的ではないものの、所属団体によ

る大学適応感への影響も少なからずあるということが分かった。特に、「学友会とその他の団体」、「その他の団体兼部」といった、複数の団体に所属する者は活動時間や活動意欲が高い傾向にあることが分かった。

3.6 考察と結論

まず、考察として仮説の検証を始める。仮説1「学友会での活動の活動に対する意欲が高いほど大学生活に対して充実感を覚えるために、大学適応感が高くなる」は3.5.2の結果から学友会と限定している部分があるためここでは棄却されたとする。しかし、仮説のとおり、所属団体の活動に対して意欲的に取り組んでいる人は、大学適応感が高くなる傾向があることが分かった。これは、意欲的な人は所属団体の活動に充実感を覚えるため、大学での生活に対しても満足している人が多いということであると考ええる。

また、学友会に限らず複数の団体に所属するものほど活動時間や活動意欲の高い傾向にあるというのは、複数の団体に所属する者は、それぞれの団体に対して意欲的であるということ、多く時間を取られていても、どちらかを辞めるという決断をせずに続けることができるということが考えられる。

次に、仮説2「学友会で活動している人のほうが、ほかの団体で活動する人よりも活動頻度が高く、学友会の中での関係が濃くなるために、友人関係に対して満足している。」に関しては、時間と友人関係満足度の相関は見られなかったため、棄却されたとする。ここにおいて、活動意欲が友人関係に対して有意な効果を持っており、これは、活動意欲の高いものは所属団体の中でも周りを引っ張ることや互いに高めあうことから、周囲の人間との関係性も良好になり、友人関係に満足するものが多いのではないかと考えた。

以上のことから、仮説はどちらも棄却されたものの、所属団体が少なからず大学適応感に影響を及ぼし、また団体に関わらず、活動意欲が高いと適応感にも良い影響を持つということが分かったため、はじめに挙げたような、今後の新入生の課外活動の選択において指標になるという部分において、本研究の意義はあったと考える。

今回の研究の問題点としては、研究対象を2,3,4年生に絞って研究を行う必要があったため、サンプルサイズが小さくなってしまったことが挙げられる。その中で、大学適応感や友人満足度、活動意欲の質問において、ポジティブな回答が全体として過半数を占めており、ネガティブな回答をした人数が少数であったことから、効果が出にくくなってしまった可能性もあると考えた。

また、今後の課題として、今回の研究では大学適応感に対する課外活動の効果というもののはっきりとは出ず、活動意欲が常に効果を持っていたため、この活動意欲に着目して、活動意欲に大きく関わると考えられる、やりがいや、充実感、役職などについても調べる必要があると感じた。そうすることで、課外活動の活動意欲というものがどのように大学適応感に対して効果を持つかということがよりわかり、課外活動をどのように取り組めば大学生

活が豊かになるのかという指標をより具体的に調べることができると感じた。

4 まとめ

今回の研究の結果、大学生の健康と、スマホ依存度・所属団体は関連があることがわかった。このことから、今後のスマホの使用や課外活動の選択という部分において、大学生の精神的、身体的に健康な生活に貢献できるような結果が得られたと言える。

5. 引用文献

東邦大学医療病院メンタルヘルスセンター

https://www.lab.toho-u.ac.jp/med/omori/mentalhealth/mental/smartphone_dependence/index.html

(最終閲覧日 2020/08/05)

井上久美子・小林三智子・長澤伸江, 2019, 「女子大学生における使用場面数を指標としたスマートフォンの使用状況と健康状態や生活行動に対する自己管理能力との関連」『日本健康教育学会誌』 27(2): 164-172.

https://www.jstage.jst.go.jp/article/kenkokyoiku/27/2/27_164/_pdf/-char/ja

片山友子・水野由子, 2016, 「大学生のインターネット依存傾向と健康度および生活習慣との関連性を調べた研究」『総合健診』 43(6): 657-664

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jhep/43/6/43_657/_pdf/-char/ja

大久保智生, 2005, 「青年の学校への適応感とその規定要因 -青年用適応感尺度の作成と学校別の検討」『教育心理学研究』 53: 307-319

安達悠子・杉山紗希, 2019, 「大学生の部活・サークルへの所属と活動に対する意識が 学校生活満足度に与える影響」『東海学院大学研究年報』 4: 83-89

樋口康彦, 2007, 「大学生の適応に影響を与える要因に関する考察——ソーシャルスキル, 交友関係などの観点から」『国際教養学部紀要』 3: 97-102.

迫俊道・荒井貞光, 2002, 「大学生のクラブ・サークル活動に関する研究」『広島体育学研究』 28: 11-20.

東北大学「令和元年度【東北大学学生生活調査】のまとめ 東北大学生の生活」

https://www.tohoku.ac.jp/japanese/img_all/202000608_Stu_JandE.pdf

東北大学生の生活と意識に関する調査

この調査は、東北大学の学生の皆様の現在の生活の様子や意識について、おうかがいするものです。東北大学の文系学部（文・教育・法・経）の専門科目授業をシラバスから無作為に抽出し、選ばれた授業を受講していらっしゃる学生の皆様にご協力をお願いしております。

この調査は、文学部の授業「行動科学基礎実習」の一環として実施しております。できるだけ多くの方のご意見を反映した調査を目指しておりますので、ご協力いただければ幸いに存じます。

●調査の中で、回答者の皆様の名前やメールアドレスなどの個人情報収集いたしません。回答はすべてコンピュータで集計して処理するため、どなたの回答かわかるようなことは決してありません。またご回答いただいた内容は、授業における学生教育以外の目的には使用いたしません。

●回答に要する時間は、おおむね15～20分程度です。

●各質問には、あなたのご意見にもっとも近い回答をお選びください。

●どうしても答えたくない質問には、無理にご回答いただく必要はございません。空欄のまま、次の質問にお進みください。

●この調査に対するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

東北大学文学部行動科学研究室

准教授 小川和孝

TEL : 022-795-6038

E-mail : katsunori.ogawa.b1@tohoku.ac.jp

はじめに、あなたご自身のことについてうかがいます。

1. あなたは男性ですか、女性ですか。

1つだけマークしてください。

☐ 男性

☐ 女性

☐ その他: _____

2. あなたの現在の年齢はおいくつですか。

20歳ならば、「20」と数字（半角）のみ回答してください。

3。 あなたは現在、何年生ですか。

1つだけマークしてください。

☐ 学部1年

☐ 学部2年

☐ 学部3年

☐ 学部4年

☐ 大学院生

☐ 研究生

☐ その他: _____

4。 あなたは留学生ですか。

1つだけマークしてください。

☐ はい

☐ いいえ

5。 あなたの所属学部を教えてください。

1つだけマークしてください。

☐ 文学部

☐ 教育学部 質問 7 にスキップします

☐ 法学部 質問 7 にスキップします

☐ 経済学部 質問 7 にスキップします

☐ その他: _____

6。 あなたの所属研究室を教えてください。

1つだけマークしてください。

- ☐ 現代日本学
- ☐ 日本思想史
- ☐ 日本語学
- ☐ 日本語教育学
- ☐ 日本文学
- ☐ 日本史
- ☐ 考古学
- ☐ 文化人類学
- ☐ 宗教学
- ☐ インド学仏教史
- ☐ 中国文学
- ☐ 中国思想
- ☐ 東洋史
- ☐ 英文学
- ☐ 英語学
- ☐ ドイツ文学
- ☐ フランス文学
- ☐ 西洋史
- ☐ 哲学
- ☐ 倫理学
- ☐ 東洋・日本美術史
- ☐ 美学・西洋美術史
- ☐ 心理学
- ☐ 言語学
- ☐ 社会学
- ☐ 行動科学

次に、あなたの今セメスターの学習活動についてうかがいます。

7. あなたが今セメスターに、実際に受講している授業のコマ数を教えてください。
10コマならば、「10」と数字（半角）のみ回答してください。

8. 今セメスターの、あなたの普段の学習活動について自分の直感にもっとも合う選択肢を回答してください。

1行につき1つだけマークしてください。

	そう 思 う	どちらか とい えばそう 思 う	どちら とも いえな い	どちらか とい えばそう 思 わ ない	そう 思 わ ない
レポートや課題はただこなしている。	☐	☐	☐	☐	☐
レポートや課題は最小限の努力で取り組む。	☐	☐	☐	☐	☐
授業には意欲的に参加している。	☐	☐	☐	☐	☐
単位さえ取ればよいと考えて授業に参加している。	☐	☐	☐	☐	☐
授業を熱心に聞いている。	☐	☐	☐	☐	☐
自分は学習意欲が高い方だと思う。	☐	☐	☐	☐	☐
実際に自分は積極的に学習していると思う。	☐	☐	☐	☐	☐
勉強が好きである。	☐	☐	☐	☐	☐
自分は大学の勉強についていけていると思う。	☐	☐	☐	☐	☐

9. あなたの学問的な専門性について、自分の直感にもっとも合う選択肢を選んでください。

学年や学部等の関係で質問にあてはまらない場合は「該当しない」を選択してください。

1行につき1つだけマークしてください。

	そう 思 う	どちらか といえ ば そう 思 う	どちら とも い え な い	どちらか といえ ば そ う 思 わ な い	そう 思 わ な い	該当 し な い
現在は1年生の時よりも自分の専門分野について勉強することが出来ていると思う。	☐	☐	☐	☐	☐	☐
専修の授業では他の授業よりも予習や復習、課題、テスト勉強に力を入れている。	☐	☐	☐	☐	☐	☐
授業外でも自分の専門分野を中心に専門書や新書を読むなどして勉強している。	☐	☐	☐	☐	☐	☐
授業外では自分の専門分野以外の学問を中心に勉強している。	☐	☐	☐	☐	☐	☐
授業外では専修の授業かは問わず、課題やテスト勉強でしか学習を行っていない。	☐	☐	☐	☐	☐	☐
大学では自分の専門分野を中心に勉強するべきであると思う。	☐	☐	☐	☐	☐	☐
大学では自分の専門を極めるよりもいろいろな分野の学問に触れるべきであると思う。	☐	☐	☐	☐	☐	☐

次に、あなたの前セメスターの学習活動についてうかがいます。

学年や学部等の関係で質問にあてはまらない場合は「該当しない」を選択してください。

10. あなたが前セメスターに、実際に受講した授業のコマ数を教えてください。
10コマならば、「10」と数字（半角）のみ回答してください。

11. 前セメスターの、あなたの普段の学習活動について自分の直感にもっとも合う選択肢を回答してください。

1行につき1つだけマークしてください。

	そう 思 う	どちらか といえ ば そう 思 う	どちら とも い え な い	どちらか といえ ば そ う 思 わ な い	そう 思 わ な い	該当 し な い
レポートや課題 はただこなして いた。	☐	☐	☐	☐	☐	☐
レポートや課題 は最小限の努力 で取り組んでい た。	☐	☐	☐	☐	☐	☐
授業には意欲的 に参加してい た。	☐	☐	☐	☐	☐	☐
単位さえ取れれ ばよいと考えて 授業に参加して いた。	☐	☐	☐	☐	☐	☐
授業を熱心に聞 いていた。	☐	☐	☐	☐	☐	☐
自分は学習意欲 が高い方だと思 う。	☐	☐	☐	☐	☐	☐
実際に自分は積 極的に学習して いたと思う。	☐	☐	☐	☐	☐	☐
勉強が好きであ る。	☐	☐	☐	☐	☐	☐
自分は大学の勉 強についていけ ていたと思う。	☐	☐	☐	☐	☐	☐

12. 前のセメスターのあなたの成績について伺います。AA, A, B, C, Dを合計して10割とすると、あなたの成績の中のA評価以上（AA + A）の割合は何割ですか。

1つだけマークしてください。

- ☐ 3割未満
- ☐ 3割以上5割未満
- ☐ 5割以上7割未満
- ☐ 7割以上9割未満
- ☐ 9割以上
- ☐ 学年の関係などで該当しない

13. 前のセメスターの授業出席率について伺います。1限目の出席率は何割でしたか。

1つだけマークしてください。

- ☐ 3割未満
- ☐ 3割以上5割未満
- ☐ 5割以上7割未満
- ☐ 7割以上9割未満
- ☐ 9割以上
- ☐ 学年の関係などで該当しない

14. 前のセメスターの授業出席率について伺います。2限目以降の授業全体の出席率は何割でしたか。

1つだけマークしてください。

- ☐ 3割未満
- ☐ 3割以上5割未満
- ☐ 5割以上7割未満
- ☐ 7割以上9割未満
- ☐ 9割以上
- ☐ 学年の関係などで該当しない

15. 前のセメスターでの、大学へ通学する手段は何でしたか。あてはまるものを全て選択してください。

当てはまるものをすべて選択してください。

- ☐ 徒歩
- ☐ 自転車
- ☐ バイク（自動二輪車・原付き）
- ☐ 車
- ☐ バス
- ☐ 地下鉄
- ☐ 在来線
- ☐ 新幹線
- ☐ 学年の関係などで該当しない

その他: ☐ _____

16. 前セメスターで、あなたは通学によってどのくらいストレスを感じていましたか。

1つだけマークしてください。

- ☐ 通学によるストレスは感じなかった。
- ☐ 通学によるストレスは感じたが、授業には集中できた。
- ☐ 通学によるストレスで授業に集中できなかった。

このアンケートが依頼された授業についてうかがいます。

17. このアンケートを依頼された授業に関して、授業形式はどちらですか。

1つだけマークしてください。

- ☐ リアルタイム授業
- ☐ オンデマンド授業（教授が配布した動画などの資料を自分の好きなときに確認する方式）

18. あなたがこの授業を履修した理由について、あてはまるものすべてを選択してください。

当てはまるものをすべて選択してください。

- ☐ 必修だったから
- ☐ 内容に興味があったから
- ☐ 将来役に立つと思ったから
- ☐ 教員が好ましいと思ったから
- ☐ 評価方法が好ましいと思ったから
- ☐ 授業形式（リアルタイム授業やオンデマンド授業）が好ましいと思ったから
- ☐ 友達が受けているから
- ☐ あてはまるものはない

その他: ☐ _____

19. この授業の評価に関する以下のそれぞれの項目について、自分の直感にもっともあう回答を1つずつ選んでください。

1行につき1つだけマークしてください。

	そう 思 う	どちらか といえ ば そう 思 う	ど ち ら と も い え な い	ど ち ら か と い え ば そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	この授 業 に は 該 当 し な い
総合的に満足している	☐	☐	☐	☐	☐	☐
課題の返却・事後指導が適切に行われている	☐	☐	☐	☐	☐	☐
授業の内容をよく理解できている	☐	☐	☐	☐	☐	☐
さらに学習したいと思う	☐	☐	☐	☐	☐	☐
学生に発言させるように努力している	☐	☐	☐	☐	☐	☐
授業を進めるペースが適切である	☐	☐	☐	☐	☐	☐
授業の難度は適切である	☐	☐	☐	☐	☐	☐
小テストや課題を適宜取り入れている	☐	☐	☐	☐	☐	☐
教員の熱意が感じられる	☐	☐	☐	☐	☐	☐
教材・資料は適切である	☐	☐	☐	☐	☐	☐
教員の声は明瞭で聞き取りやすい	☐	☐	☐	☐	☐	☐

生活費やアルバイトについてうかがいます。

まず、前セメスターのことについてうかがいます。

20. 前セメスターの、月の平均アルバイト収入額はいくらですか。

1つだけマークしてください。

- ☐ なし
- ☐ 1万円未満
- ☐ 1万円以上3万円未満
- ☐ 3万円以上5万円未満
- ☐ 5万円以上7万円未満
- ☐ 7万円以上9万円未満
- ☐ 9万円以上

21. 前セメスターの、月の平均アルバイト時間は何時間ですか（月收入5万円、時給850円の場合、月59時間です）。

1つだけマークしてください。

- ☐ なし
- ☐ 10時間未満
- ☐ 10時間以上30時間未満
- ☐ 30時間以上50時間未満
- ☐ 50時間以上70時間未満
- ☐ 70時間以上90時間未満
- ☐ 90時間以上

22. 前セメスターの月の平均仕送り額はいくらですか。ただし家賃が含まれている場合は、差し引いて考えてください。

1つだけマークしてください。

- ☐ なし
- ☐ 1万円未満
- ☐ 1万円以上3万円未満
- ☐ 3万円以上5万円未満
- ☐ 5万円以上7万円未満
- ☐ 7万円以上9万円未満
- ☐ 9万円以上

23. 前のセメスターでは、生活費（食費、交通費、光熱費、雑費）はアルバイト代から月平均いくら出していましたか。ただし家賃は含めないでください。

1つだけマークしてください。

- ☐ なし
- ☐ 1万円未満
- ☐ 1万円以上3万円未満
- ☐ 3万円以上5万円未満
- ☐ 5万円以上7万円未満
- ☐ 7万円以上9万円未満
- ☐ 9万円以上

次に、今セメスターのことについてうかがいます。

24. 今年4月のアルバイト収入額はいくらですか。

1つだけマークしてください。

- ☐ なし
- ☐ 1万円未満
- ☐ 1万円以上3万円未満
- ☐ 3万円以上5万円未満
- ☐ 5万円以上7万円未満
- ☐ 7万円以上9万円未満
- ☐ 9万円以上

25. 今年4月のアルバイト時間は何時間ですか（月收入5万円、時給850円の場合、月59時間です）。

1つだけマークしてください。

- ☐ なし
- ☐ 10時間未満
- ☐ 10時間以上30時間未満
- ☐ 30時間以上50時間未満
- ☐ 50時間以上70時間未満
- ☐ 70時間以上90時間未満
- ☐ 90時間以上

- 26。 今年4月の仕送り額はいくらですか。ただし家賃が含まれている場合は、差し引いて考えてください。

1つだけマークしてください。

- ☐ なし
- ☐ 1万円未満
- ☐ 1万円以上3万円未満
- ☐ 3万円以上5万円未満
- ☐ 5万円以上7万円未満
- ☐ 7万円以上9万円未満
- ☐ 9万円以上

- 27。 今年4月の奨学金受給額はいくらですか。

1つだけマークしてください。

- ☐ なし
- ☐ 3万円未満
- ☐ 3万円以上5万円未満
- ☐ 5万円以上8万円未満
- ☐ 8万円以上

- 28。 今年4月時点では、学費（授業料、講座代、教科書代）はどこから出していましたか。あてはまるものすべてを選んでください。

当てはまるものをすべて選択してください。

- ☐ 家庭
- ☐ アルバイト
- ☐ 奨学金

その他: ☐ _____

- 29。 今年4月の時点では、生活費（食費、交通費、光熱費、雑費）はアルバイト代から月平均いくら出していましたか。ただし家賃は含めないでください。

1つだけマークしてください。

- ☐ なし
- ☐ 1万円未満
- ☐ 1万円以上3万円未満
- ☐ 3万円以上5万円未満
- ☐ 5万円以上7万円未満
- ☐ 7万円以上9万円未満
- ☐ 9万円以上

- 30。 今年4月時点では上記以外の出費（交際費、サークル関連費、趣味にかかる費用など）は月平均いくらでしたか。

1つだけマークしてください。

- ☐ なし
- ☐ 5千円未満
- ☐ 5千円以上1万円未満
- ☐ 1万円以上2万円未満
- ☐ 2万円以上3万円未満
- ☐ 3万円以上

あなたのSNS使用状況についてうかがいます。

31. あなたが普段利用しているSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）について、あてはまるものすべてを選んでください。

当てはまるものをすべて選択してください。

- ☐ Twitter
☐ LINE
☐ Instagram
☐ Facebook
☐ SNSは利用していない

その他: ☐ _____

32. どのくらいの頻度で、SNSに投稿を行いますか（LINEやTwitterのDMやリプライといった個別のメッセージは除く）。

1つだけマークしてください。

- ☐ ほぼ毎日
☐ 1週間に4～5日程度
☐ 1週間に2～3日程度
☐ 1週間に1日程度
☐ 2週間に1日程度
☐ それ未満

33. あなたは、今セメスターに入ってから、平均で一日どのくらいの時間友人とSNSでメッセージのやり取り（LINEやTwitterのDMやリプライ）をしていますか。

1つだけマークしてください。

- ☐ 全くしていない 質問 35 にスキップします
☐ 5分未満
☐ 5～15分未満
☐ 15～30分未満
☐ 30分～1時間未満
☐ 1時間～2時間未満
☐ 2時間以上

34. 今セメスターに入ってから、友人とのSNSでのメッセージのやり取り（LINEやTwitterのDMやリプライ）において、もっとも多い会話の内容は以下のうちどれですか。

1つだけマークしてください。

- ☐ 事務連絡
- ☐ 遊びや飲み会の約束
- ☐ 愚痴や悩みごとの相談
- ☐ 近況報告
- ☐ その他: _____

35. あなたは、前セメスターに平均で一日どのくらいの時間友人とSNSでメッセージのやり取り（LINEやTwitterのDMやリプライ）をしていましたか。

1つだけマークしてください。

- ☐ 全くしていない 質問 37 にスキップします
- ☐ 5分未満
- ☐ 5～15分未満
- ☐ 15～30分未満
- ☐ 30分～1時間未満
- ☐ 1時間～2時間未満
- ☐ 2時間以上

36. 前セメスターでの、友人とのSNSでのメッセージのやり取り（LINEやTwitterのDMやリプライ）において、もっとも多い会話の内容は以下のうちどれですか。

1つだけマークしてください。

- ☐ 事務連絡
- ☐ 遊びや飲み会の約束
- ☐ 愚痴や悩みごとの相談
- ☐ 近況報告
- ☐ その他: _____

37. 次に挙げることについて自分自身にどの程度あてはまりますか。もっとも近いものをそれぞれ1つずつ選んでください。

1行につき1つだけマークしてください。

	あては まる	どちらかとい えばあて はまる	どちら ともい えない	どちらかとい えばあてはま らない	あては まらない
SNSを見ていると、 他人が自分よりも幸 せそうだと感じる。	☐	☐	☐	☐	☐
何か良いことを投稿 しなければと、無理 に背伸びをしてしま う。	☐	☐	☐	☐	☐
スマホをしている最 中に話しかけられ ると、イラッとするこ とがある。	☐	☐	☐	☐	☐
現実から逃避するた めにスマホを使うこ とがある。	☐	☐	☐	☐	☐
他にしなければなら ないことがあるの に、スマホをしてし まうことがある。	☐	☐	☐	☐	☐
スマホのせいで、夜 更かしをしてしまっ たり、寝不足になっ たりすることがあ る。	☐	☐	☐	☐	☐

あなたの前セメスターと今セメスターの生活についてうかがいます。

まず、前セメスターの生活についてうかがいます。

38. 前セメスターに、あなたは普段何時間寝ていましたか。

1つだけマークしてください。

- ☐ 5時間未満
- ☐ 5～6時間未満
- ☐ 6～7時間未満
- ☐ 7～8時間未満
- ☐ 8～9時間未満
- ☐ 9時間以上

39. 前セメスターに、あなたは普段どれくらいの時間を片道の通学に使っていましたか。

1つだけマークしてください。

- ☐ 10分未満
- ☐ 10～20分未満
- ☐ 20～30分未満
- ☐ 30～40分未満
- ☐ 40～50分未満
- ☐ 50～60分未満
- ☐ 60分以上

- 40。 前セメスターに、あなたは普段どれくらいの時間を学友会、部活動、サークル活動に使っていましたか。1週間あたりの合計時間をお答えください。

1つだけマークしてください。

- ☐ なし
- ☐ 5時間未満
- ☐ 5～10時間未満
- ☐ 10～15時間未満
- ☐ 15～20時間未満
- ☐ 20～25時間未満
- ☐ 25～30時間未満
- ☐ 30時間以上

- 41。 前セメスターに、あなたは普段どれくらいの時間を授業外学習（ここでは、課題などを含む授業や専門に関連する学習と専門書などの講読を指します）の時間に使っていましたか。1週間あたりの合計時間をお答えください。

1つだけマークしてください。

- ☐ 1時間未満
- ☐ 1～3時間未満
- ☐ 3～5時間未満
- ☐ 5～7時間未満
- ☐ 7～9時間未満
- ☐ 9～11時間未満
- ☐ 11時間以上

- 42。 前セメスターに、あなたは普段どれくらいの時間を自主学習（ここでは、授業・専門等に関連しない読書とTOEFLなど資格試験に向けた学習を指します）の時間に使っていましたか。1週間あたりの合計時間をお答えください。

1つだけマークしてください。

- ☐ 1時間未満
- ☐ 1～3時間未満
- ☐ 3～5時間未満
- ☐ 5～7時間未満
- ☐ 7～9時間未満
- ☐ 9～11時間未満
- ☐ 11時間以上

次に、今セメスターの生活についてうかがいます。

- 43。 今年4月に、あなたは普段何時間寝ていましたか。

1つだけマークしてください。

- ☐ 5時間未満
- ☐ 5～6時間未満
- ☐ 6～7時間未満
- ☐ 7～8時間未満
- ☐ 8～9時間未満
- ☐ 9時間以上

- 44。 今年4月に、あなたは普段どれくらいの時間を学友会、部活動、サークル活動に使っていましたか。1週間あたりの合計時間をお答えください。

1つだけマークしてください。

- ☐ なし
- ☐ 5時間未満
- ☐ 5～10時間未満
- ☐ 10～15時間未満
- ☐ 15～20時間未満
- ☐ 20～25時間未満
- ☐ 25～30時間未満
- ☐ 30時間以上

- 45。 今年4月に、あなたは普段どれくらいの時間を授業外学習（ここでは、課題などを含む授業や専門に関連する学習と専門書などの講読を指します）の時間に使っていましたか。1週間あたりの合計時間をお答えください。

1つだけマークしてください。

- ☐ 1時間未満
- ☐ 1～3時間未満
- ☐ 3～5時間未満
- ☐ 5～7時間未満
- ☐ 7～9時間未満
- ☐ 9～11時間未満
- ☐ 11時間以上

46. 今年4月に、あなたは普段どれくらいの時間を自主学習（ここでは、授業・専門等に関連しない読書とTOEFLなど資格試験に向けた学習を指します）の時間に使っていましたか。1週間あたりの合計時間をお答えください。

1つだけマークしてください。

- ☐ 1時間未満
- ☐ 1～3時間未満
- ☐ 3～5時間未満
- ☐ 5～7時間未満
- ☐ 7～9時間未満
- ☐ 9～11時間未満
- ☐ 11時間以上

あなたの政治や社会に対する意識と結婚観についてうかがいます。

47. 現在の日本の政治に対して、どれくらい関心がありますか。

1つだけマークしてください。

- ☐ とても関心がある
- ☐ 関心がある
- ☐ どちらともいえない
- ☐ あまり関心はない
- ☐ 全く関心がない

48. 現在支持している政党や政治家はいますか。

1つだけマークしてください。

- ☐ はい
- ☐ いいえ

49。 現在の日本の政治について、具体的に自分の考えを言うことはできますか。

1つだけマークしてください。

☐ はい

☐ いいえ

50。 2019年7月21日に行われた第25回参议院議員選挙では、投票に参加しましたか。

1つだけマークしてください。

☐ 投票した

☐ 選挙権を有していたが投票しなかった

☐ 選挙権を有していなかったため投票していない

51. 次に挙げることについて自分自身にどの程度あてはまりますか。もっとも近いものを、それぞれ1つずつ選んでください。

1行につき1つだけマークしてください。

	あては まる	どちらかとい えばあて はまる	どちら ともい えない	どちらかとい えばあてはま らない	あては まらな い
政治問題や政治にまつわることについて、友人や家族など周囲の人と会話・意見交換する。	☐	☐	☐	☐	☐
自分と同じくらいの年齢の人に比べて、自分は政治に関する知識が豊かであると思う。	☐	☐	☐	☐	☐
選挙でだれが当選しても結局のところ今の政治の在り方は変わることは無い。	☐	☐	☐	☐	☐
皆が積極的に意見を出し合っていけば、やがて暮らしやすい世の中になる。	☐	☐	☐	☐	☐
どの政党が政権を担っても、自分には関係ない。	☐	☐	☐	☐	☐
政治の問題を扱う番組や、インターネット・新聞の記事を見る・読むのが好きだ。	☐	☐	☐	☐	☐

52. 日本の経済全般に対して、どれくらい関心がありますか。

1つだけマークしてください。

- ☐ とても関心がある
- ☐ 関心がある
- ☐ どちらともいえない
- ☐ あまり関心はない
- ☐ 全く関心がない

53. あなたは「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について、賛成ですか反対ですか。

1つだけマークしてください。

- ☐ 賛成
- ☐ どちらかといえば賛成
- ☐ どちらかといえば反対
- ☐ 反対

54. あなたは将来結婚したいと思いますか。

1つだけマークしてください。

- ☐ したい
- ☐ したくない
- ☐ すでに結婚している

55. 女性の結婚後の仕事に関してうかがいます。女性は自分自身の希望、男性はパートナーに望むことについて、あてはまるものを1つ選んでください。

前の質問で「結婚したくない」と答えた方も、仮に結婚した場合のことを踏まえてお答えください。また、現在すでに結婚している方は、実際にどうかは別として、ご自身の理想についてお答えください。

1つだけマークしてください。

- ☐ 結婚を機にやめたい（やめてほしい）
- ☐ 出産を機にやめたい（やめてほしい）
- ☐ やめずに仕事を続けたい（続けてほしい）
- ☐ 結婚・出産を機にいったんやめ、後で再就職したい（してほしい）
- ☐ その他: _____

56. あなたの結婚後の家事の分担希望についてお聞きします。1を「すべて自分でやる」、7を「すべてパートナーに任せる」としたとき、あなたのお考えに近いものを選んでください。

前の質問で、「結婚したくない」と答えた方も仮に結婚した場合のことを踏まえお答えください。また、現在すでに結婚している方は、実際にどうかは別として、ご自身の理想についてお答えください。

1つだけマークしてください。

	1	2	3	4	5	6	7	
すべて自分でやる	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	すべてパートナーに任せる

57. あなたに子どもができたときの、育児の分担希望についてお聞きします。1を「すべて自分でやる」、7を「すべてパートナーに任せる」としたとき、あなたのお考えに近いものを選んでください。

現在すでに子育てをしている方は、実際にどうかは別として、ご自身の理想についてお答えください。

1つだけマークしてください。

	1	2	3	4	5	6	7	
すべて自分でやる	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	すべてパートナーに任せる

最後に、再びあなたご自身のことについてうかがいます。

58. あなたは現在、どのように生活していますか。

1つだけマークしてください。

- ☐ 両親と一緒に生活している
- ☐ 両親以外の家族（きょうだいや親戚など）と一緒に生活している
- ☐ 学校などの寮で生活している
- ☐ アパート・マンションを借りて一人で生活している
- ☐ その他: _____

59. 次に挙げることについて自分自身にどの程度あてはまりますか。もっとも近いものを1つずつ選んでください。

1行につき1つだけマークしてください。

	あては まる	どちらかとい えばあて はまる	どちら ともい えない	どちらかとい えばあてはま らない	あては まらない
自分が注目されてい ないと、つい人の気 を引きたくなる。	☐	☐	☐	☐	☐
皆から注目され愛さ れる有名人になりた いと思うことがあ る。	☐	☐	☐	☐	☐
小さなことでもイラ イラしてしまう。	☐	☐	☐	☐	☐
なにごとにもやる気 が出ない日がある。	☐	☐	☐	☐	☐
疲れを感じることに が多い。	☐	☐	☐	☐	☐

60。 普段、友人、家族と積極的にコミュニケーションをとっていますか。

1行につき1つだけマークしてください。

	あては まる	どちらかとい えばあてはま る	どちらと もいえな い	どちらかといえ ばあてはまらな い	あては まらな い
友人とのコミュ ニケーション	☐	☐	☐	☐	☐
家族とのコミュ ニケーション	☐	☐	☐	☐	☐

- 61。 次に挙げることについて自分自身にどの程度あてはまりますか。それぞれについて、もっとも近いものを1つずつ選んでください。

1行につき1つだけマークしてください。

	あては まる	どちらかとい えばあてはま る	どちらと もいえな い	あまりあ てはまら ない	あては まらな い
周りから目立った行動 はできればしたくな い。	☐	☐	☐	☐	☐
自分に対して自信を持 っている。	☐	☐	☐	☐	☐
一人で履修する授業を 決める。	☐	☐	☐	☐	☐
一人で昼食をとる。	☐	☐	☐	☐	☐
空き時間を一人で過ご す。	☐	☐	☐	☐	☐
お互いに信頼し、心を 打ち明けることのでき る相手がいる。	☐	☐	☐	☐	☐
自分が困った時に相談 できて、相手が困った 時に相談に乗れる人間 関係がある。	☐	☐	☐	☐	☐
自分を支えてくれる相 手がいて、自分も必要 な時に相手の支えにな ることができる。	☐	☐	☐	☐	☐
人と同じ行動はしたく ない。	☐	☐	☐	☐	☐

62. 今の友人関係（SNS上を含む）についてもっとも自分の考えに近いと感じるものを選択してください。

1行につき1つだけマークしてください。

	あてはまる	少し当てはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
今の自分の友人関係に満足している。	☐	☐	☐	☐	☐
今の友人関係は、自分が望んでいるものと違うと思う。	☐	☐	☐	☐	☐
今の友人付き合いが本当はつらい時がある。	☐	☐	☐	☐	☐

63. あなたは現在の生活に満足していますか。

1つだけマークしてください。

- ☐ 満足している
- ☐ まあまあ満足している
- ☐ どちらともいえない
- ☐ 少し不満である
- ☐ 大いに不満である

64. 以下のもののうち、あなたが現在不安に感じていることについて、あてはまるものをすべて選んでください。

当てはまるものをすべて選択してください。

- ☐ 経済状況に対する不安
- ☐ 学習に対する不安
- ☐ 生活への不安
- ☐ 健康への不安
- ☐ 人間関係への不安
- ☐ 就職活動への不安
- ☐ あてはまるものはない

その他: ☐ _____

65. あなたはいま、1週間に何日くらい朝食を食べていますか。
なお、飲み物・サプリメント（栄養補助食品）のみの場合は朝食に含めません。

1つだけマークしてください。

- ☐ ほとんど毎日食べる
- ☐ だいたい毎日食べる（1週間に4～5日くらい）
- ☐ ときどき食べる（1週間に2～3日くらい）
- ☐ たいてい食べない

66. あなたは普段何時に起きていますか。

1つだけマークしてください。

- ☐ ~5:59
- ☐ 6:00～6:59
- ☐ 7:00～7:59
- ☐ 8:00～8:59
- ☐ 9:00～9:59
- ☐ 10:00～

67. あなたは東北大学を受験する際、以下のそれぞれのことをどれほど重視しましたか。あてはまるものを1つずつ選んでください。

1行につき1つだけマークしてください。

	あては まる	どちらかとい えばあて はまる	どちら ともい えない	どちらかとい えばあてはま らない	あては まらない
就職に有利であること	☐	☐	☐	☐	☐
就職後、多くの収入・給与を得られること	☐	☐	☐	☐	☐
高い社会的地位を得ること	☐	☐	☐	☐	☐

68. 現在までの大学生活（課外活動は含まない）に関する以下のことについて、あてはまるものを1つずつ選んでください。

1行につき1つだけマークしてください。

	あては まる	どちらかとい えばあてはま る	どちらと もいえな い	どちらかといえ ばあてはまらな い	あては まらな い
周りに溶け込め ていると感じる	☐	☐	☐	☐	☐
周りから頼られ ていると感じる	☐	☐	☐	☐	☐
周りに迷惑をか けていると感じ る	☐	☐	☐	☐	☐
将来役立つこと が学べる	☐	☐	☐	☐	☐

69. 課外活動（サークルやアルバイト等）を含めた総合的な面で大学生活に満足していますか。

1つだけマークしてください。

- ☐ そう思う
☐ どちらかといえばそう思う
☐ どちらともいえない
☐ どちらかといえばそう思わない
☐ そう思わない

70. あなたは現在、学友会、サークル、アルバイトなど、所属、活動している団体はありますか。

1つだけマークしてください。

- ☐ はい
☐ いいえ

所属、活動団体している団体があると回答された方にうかがいます。

71. あなたが現在所属、活動している団体について、あてはまるものをすべて選んでください。

当てはまるものをすべて選択してください。

- ☐ 学友会
☐ サークル
☐ アルバイト
☐ ボランティア活動
☐ あてはまるものはない

その他: ☐ _____

72. あなたの所属している団体について、前セメスターの1週間の活動時間は何時間ほどですか。

10時間であれば、「10」のように半角数字で回答ください。複数の団体に所属している方は、合計時間を記入してください。

73. あなたは所属している団体の活動に意欲的に取り組んでいますか。

複数の団体に所属している方は、もっとも参加頻度の高いものについてお答えください。

1つだけマークしてください。

- ☐ そう思う
☐ どちらかといえばそう思う
☐ どちらともいえない
☐ どちらかといえばそう思わない
☐ そう思わない

		全体	Q01 性別(その他・無回答, N=4)	
			男	女
セルの数値は%		N= 349	N= 175	N= 170
q02	年齢(平均)	20.00	20.10	19.90
q03	学年			
	学部1年	31.23	26.74	36.75
	学部2年	42.12	43.02	40.96
	学部3年	17.48	17.44	16.87
	学部4年	7.16	10.47	3.61
	大学院生	0.57	0.58	0.60
	研究生	0.57	0.00	1.20
	その他	0.86	1.74	0.00
	NA	0.00	0.00	0.00
q04	留学生かどうか			
	留学生	1.75	1.74	1.81
	留学生ではない	97.95	98.26	97.59
q05	所属学部			
	文学部	53.22	40.70	65.66
	教育学部	7.60	6.40	9.04
	法学部	9.06	11.63	6.63
	経済学部	29.53	40.12	18.67
	その他	0.58	1.16	0.00
q06	(文学部2年生以上の場合)所属研究室			
	現代日本学	1.46	1.16	1.81
	日本思想史	0.88	1.74	0.00
	日本語学	1.46	1.16	1.20
	日本語教育学	0.88	0.00	1.81
	日本文学	0.58	1.16	0.00
	日本史	0.00	0.00	0.00
	考古学	0.29	0.58	0.00
	文化人類学	2.92	1.74	4.22
	宗教学	0.58	0.00	1.20
	インド学仏教史	0.29	0.00	0.60
	中国文学	0.00	0.00	0.00
	中学思想	0.00	0.00	0.00
	東洋史	0.29	0.58	0.00
	英文学	1.46	0.00	3.01
	英語学	1.17	0.58	1.81
	ドイツ文学	0.58	0.00	1.20
	フランス文学	1.17	1.74	0.60
	西洋史	0.88	0.00	1.81
	哲学	0.29	0.00	0.60
	倫理学	0.29	0.58	0.00
	東洋・日本美術史	0.88	0.00	1.81
	美学・西洋美術史	0.58	0.00	1.20
	心理学	0.58	0.58	0.60
	言語学	0.58	0.00	1.20
	社会学	2.05	1.74	2.41

	行動科学	1.17	0.58	1.81
q07	今セメスターの受講コマ数(平均)	22.60	22.29	23.13
q08_1	今セメスターの普段の学習活動:レポートや課題はただこなしている			
	そう思う	26.32	33.14	19.88
	どちらかといえばそう思う	40.35	39.53	39.76
	どちらともいえない	14.62	11.63	18.07
	どちらかといえばそう思わない	13.74	10.47	17.47
	そう思わない	4.97	5.23	4.82
	NA	0.00	0.00	0.00
q08_2	今セメスターの普段の学習活動:レポートや課題は最小限の努力で取り組む			
	そう思う	15.79	19.77	11.45
	どちらかといえばそう思う	28.65	32.56	24.10
	どちらともいえない	19.30	18.02	20.48
	どちらかといえばそう思わない	26.32	19.19	34.34
	そう思わない	9.94	10.47	9.64
	NA	0.00	0.00	0.00
q08_3	今セメスターの普段の学習活動:授業には意欲的に参加している			
	そう思う	22.22	24.42	19.88
	どちらかといえばそう思う	47.08	41.28	53.01
	どちらともいえない	19.30	19.77	18.67
	どちらかといえばそう思わない	9.94	12.79	7.23
	そう思わない	1.46	1.74	1.20
	NA	0.00	0.00	0.00
q08_4	今セメスターの普段の学習活動:単位さえ取ればよいと考えて授業に参加している			
	そう思う	9.65	15.12	3.61
	どちらかといえばそう思う	19.30	19.19	19.28
	どちらともいえない	20.47	24.42	16.87
	どちらかといえばそう思わない	31.58	23.84	39.16
	そう思わない	18.71	16.86	21.08
	NA	0.29	0.58	0.00
q08_5	今セメスターの普段の学習活動:授業を熱心に聞いている			
	そう思う	14.62	15.12	13.86
	どちらかといえばそう思う	49.71	45.93	54.82
	どちらともいえない	21.35	22.09	19.88
	どちらかといえばそう思わない	11.40	12.79	10.24
	そう思わない	2.34	3.49	0.60
	NA	0.58	0.58	0.60
q08_6	今セメスターの普段の学習活動:自分は学習意欲が高い方だと思う			
	そう思う	11.99	11.63	12.65
	どちらかといえばそう思う	30.70	30.23	31.93
	どちらともいえない	26.90	27.33	26.51
	どちらかといえばそう思わない	24.27	23.26	24.70
	そう思わない	6.14	7.56	4.22
	NA	0.00	0.00	0.00
q08_7	今セメスターの普段の学習活動:実際に自分は積極的に学習していると思う			
	そう思う	11.70	11.05	12.65
	どちらかといえばそう思う	26.61	25.00	27.71
	どちらともいえない	28.95	26.16	31.93
	どちらかといえばそう思わない	25.44	30.23	21.08

	そう思わない	7.02	6.98	6.63
	NA	0.29	0.58	0.00
q08_8	今セメスターの普段の学習活動:勉強が好きである			
	そう思う	13.74	13.37	14.46
	どちらかといえばそう思う	35.96	30.81	41.57
	どちらともいえない	28.65	30.81	26.51
	どちらかといえばそう思わない	16.08	18.60	12.65
	そう思わない	5.56	6.40	4.82
	NA	0.00	0.00	0.00
q08_9	今セメスターの普段の学習活動:自分は大学の勉強についていけていると思う			
	そう思う	9.38	9.36	9.64
	どちらかといえばそう思う	34.60	41.52	28.31
	どちらともいえない	31.09	22.81	39.16
	どちらかといえばそう思わない	18.77	16.96	20.48
	そう思わない	6.16	9.36	2.41
	NA	0.00	0.00	0.00
q09_1	学問的な専門性:現在は1年生の時よりも自分の専門分野について勉強することが出来ていると思う			
	そう思う	35.96	37.21	34.94
	どちらかといえばそう思う	25.15	27.33	23.49
	どちらともいえない	4.68	5.23	3.61
	どちらかといえばそう思わない	1.46	2.33	0.60
	そう思わない	0.88	1.16	0.60
	該当しない	28.36	23.26	33.73
	NA	3.51	3.49	3.01
q09_2	学問的な専門性:専修の授業では他の授業よりも予習や復習、課題、テスト勉強に力を入れている			
	そう思う	23.10	24.42	22.29
	どちらかといえばそう思う	25.15	27.91	22.29
	どちらともいえない	12.28	13.37	10.84
	どちらかといえばそう思わない	6.73	6.40	7.23
	そう思わない	2.63	2.33	3.01
	該当しない	27.19	22.67	31.93
	NA	2.92	2.91	2.41
q09_3	学問的な専門性:授業外でも自分の専門分野を中心に専門書や新書を読むなどして勉強している			
	そう思う	8.77	11.63	6.02
	どちらかといえばそう思う	15.50	15.12	15.66
	どちらともいえない	14.91	16.86	13.25
	どちらかといえばそう思わない	18.71	19.19	18.07
	そう思わない	16.08	17.44	14.46
	該当しない	22.22	16.86	27.71
	NA	3.80	2.91	4.82
q09_4	学問的な専門性:授業外では自分の専門分野以外の学問を中心に勉強している			
	そう思う	5.56	5.23	5.42
	どちらかといえばそう思う	13.74	16.86	10.24
	どちらともいえない	17.54	20.93	14.46
	どちらかといえばそう思わない	19.30	20.35	18.07
	そう思わない	15.79	14.53	17.47
	該当しない	25.15	19.19	31.33
	NA	2.92	2.91	3.01
q09_5	学問的な専門性:授業外では専修の授業かは問わず、課題やテスト勉強でしか学習を行っていない			

	そう思う	10.53	11.63	9.64
	どちらかといえばそう思う	27.49	27.33	27.11
	どちらともいえない	13.45	13.95	13.25
	どちらかといえばそう思わない	11.40	13.37	9.64
	そう思わない	9.94	11.05	8.43
	該当しない	23.98	19.77	28.92
	NA	3.22	2.91	3.01
q09_6	学問的な専門性:大学では自分の専門分野を中心に勉強するべきであると思う			
	そう思う	9.65	13.95	5.42
	どちらかといえばそう思う	28.36	23.84	33.13
	どちらともいえない	23.98	25.00	22.29
	どちらかといえばそう思わない	17.25	16.28	18.07
	そう思わない	9.36	10.47	8.43
	該当しない	8.77	7.56	10.24
	NA	2.63	2.91	2.41
q09_7	学問的な専門性:大学では自分の専門を極めるよりもいろいろな分野の学問に触れるべきであると思う			
	そう思う	16.37	16.86	15.06
	どちらかといえばそう思う	42.98	40.12	46.39
	どちらともいえない	19.88	21.51	18.07
	どちらかといえばそう思わない	8.19	9.30	7.23
	そう思わない	2.05	2.33	1.81
	該当しない	7.60	6.40	9.04
	NA	2.92	3.49	2.41
q10	前セメスターの受講コマ数		40.26	36.49
q11_1	前セメスターの普段の学習活動:レポートや課題はただこなしていた			
	そう思う	19.01	22.67	15.06
	どちらかといえばそう思う	30.12	30.81	29.52
	どちらともいえない	6.14	6.98	5.42
	どちらかといえばそう思わない	8.19	6.40	10.24
	そう思わない	3.51	4.07	3.01
	該当しない	28.65	25.00	32.53
	NA	4.39	4.07	4.22
q11_2	前セメスターの普段の学習活動:レポートや課題は最小限の努力で取り組んでいた			
	そう思う	15.50	19.19	11.45
	どちらかといえばそう思う	24.27	27.33	21.08
	どちらともいえない	8.77	6.98	10.84
	どちらかといえばそう思わない	14.04	13.37	15.06
	そう思わない	4.39	4.65	4.22
	該当しない	28.65	24.42	33.13
	NA	4.39	4.07	4.22
q11_3	前セメスターの普段の学習活動:授業には意欲的に参加していた			
	そう思う	14.33	13.37	15.66
	どちらかといえばそう思う	26.90	29.07	24.10
	どちらともいえない	11.40	10.47	12.65
	どちらかといえばそう思わない	8.48	12.21	4.82
	そう思わない	5.85	6.98	4.82
	該当しない	28.36	23.84	33.13
	NA	4.68	4.07	4.82
q11_4	前セメスターの普段の学習活動:単位さえ取ればよいと考えて授業に参加していた			

	そう思う	10.23	14.53	6.02
	どちらかといえばそう思う	20.47	19.19	21.69
	どちらともいえない	11.40	13.37	9.64
	どちらかといえばそう思わない	16.08	16.86	15.06
	そう思わない	7.60	7.56	7.83
	該当しない	29.53	24.42	34.94
	NA	4.68	4.07	4.82
q11_5	前セメスターの普段の学習活動:授業を熱心に聞いていた			
	そう思う	7.89	6.98	9.04
	どちらかといえばそう思う	30.70	33.72	27.71
	どちらともいえない	14.04	15.12	13.25
	どちらかといえばそう思わない	9.36	10.47	7.83
	そう思わない	5.26	5.81	4.82
	該当しない	28.07	23.84	32.53
	NA	4.68	4.07	4.82
q11_6	前セメスターの普段の学習活動:自分は学習意欲が高い方だと思う			
	そう思う	7.60	8.14	7.23
	どちらかといえばそう思う	22.22	26.16	18.67
	どちらともいえない	16.96	16.28	18.07
	どちらかといえばそう思わない	14.04	15.12	12.05
	そう思わない	5.85	5.23	6.63
	該当しない	28.65	25.00	32.53
	NA	4.68	4.07	4.82
q11_7	前セメスターの普段の学習活動:実際に自分は積極的に学習していたと思う			
	そう思う	8.48	9.30	7.83
	どちらかといえばそう思う	19.59	20.93	18.67
	どちらともいえない	14.62	14.53	15.06
	どちらかといえばそう思わない	15.50	16.86	13.25
	そう思わない	7.89	8.72	7.23
	該当しない	29.53	25.58	33.73
	NA	4.39	4.07	4.22
q11_8	前セメスターの普段の学習活動:勉強が好きである			
	そう思う	8.77	8.72	9.04
	どちらかといえばそう思う	22.81	23.84	21.69
	どちらともいえない	19.88	21.51	18.67
	どちらかといえばそう思わない	10.23	12.79	7.23
	そう思わない	5.85	5.23	6.63
	該当しない	27.78	23.26	32.53
	NA	4.68	4.65	4.22
q11_9	前セメスターの普段の学習活動:自分は大学の勉強についていけていたと思う			
	そう思う	10.82	12.21	9.64
	どちらかといえばそう思う	30.12	35.47	24.70
	どちらともいえない	12.57	11.63	13.25
	どちらかといえばそう思わない	8.77	7.56	10.24
	そう思わない	4.97	5.23	4.82
	該当しない	28.36	23.84	33.13
	NA	4.39	4.07	4.22
q12	前セメスターの成績の中のA評価以上の割合			
	3割未満	9.36	12.21	6.63

	3割以上5割未満	8.77	11.63	5.42
	5割以上7割未満	11.99	11.63	12.05
	7割以上9割未満	17.54	15.12	20.48
	9割以上	18.13	20.93	15.66
	学年の関係などで該当しない	27.78	24.42	31.33
	NA	6.43	4.07	8.43
q13	前セメスターの1限目の授業出席率			
	3割未満	3.22	4.65	1.81
	3割以上5割未満	4.39	5.81	3.01
	5割以上7割未満	5.56	8.14	3.01
	7割以上9割未満	8.19	7.56	9.04
	9割以上	43.57	44.19	43.37
	学年の関係などで該当しない	29.53	25.00	33.73
	NA	5.56	4.65	6.02
q14	前セメスターの2限目以降の授業全体の出席率			
	3割未満	1.46	2.91	0.00
	3割以上5割未満	1.75	2.33	1.20
	5割以上7割未満	4.97	5.23	4.82
	7割以上9割未満	9.06	10.47	7.83
	9割以上	49.71	50.58	49.40
	学年の関係などで該当しない	28.36	25.00	31.33
	NA	4.68	3.49	5.42
q15	前のセメスターでの大学へ通学する手段(複数選択可)			
	徒歩	38.01	38.37	37.95
	自転車	40.35	49.42	31.33
	バイク(自動二輪車・原付き)	2.63	4.65	0.00
	車	1.75	0.58	3.01
	バス	7.02	4.65	9.64
	地下鉄	23.98	19.77	27.71
	在来線	2.92	2.91	3.01
	新幹線	1.17	0.58	1.20
	学年の関係などで該当しない	26.90	23.84	30.12
	その他	0.00	0.00	0.00
	NA	5.26	3.49	6.63
q16	前のセメスターで通学によるストレスをどのくらい感じていたか			
	通学によるストレスは感じなかった	33.92	44.77	23.49
	通学によるストレスは感じたが、授業には集中できた	30.41	24.42	36.75
	通学によるストレスで授業に集中できなかった	4.68	4.65	4.22
q17	このアンケートが依頼された授業の形式			
	リアルタイム授業	17.84	20.93	15.06
	オンデマンド授業	81.87	79.07	84.34
q18	この(アンケートが依頼された)授業を履修した理由			
	必修だったから	61.29	63.37	59.39
	内容に興味があったから	59.60	57.56	55.76
	将来役に立つと思ったから	28.65	32.56	24.70
	教員が好ましいと思ったから	6.73	8.14	5.42
	評価方法が好ましいと思ったから	5.26	5.81	4.82
	授業形式(リアルタイム授業やオンデマンド授業)が好ましいと思ったから	7.02	5.81	7.83
	友達が受けているから	4.68	4.65	4.82

	あてはまるものはない	1.17	1.74	0.60
	その他	1.17	0.58	1.81
	NA	0.29	0.00	0.60
q19	この(アンケートが依頼された)授業の評価			
q19_1	総合的に満足している			
	そう思う	34.38	31.43	37.65
	どちらかといえばそう思う	47.28	45.71	48.82
	どちらともいえない	9.74	13.14	6.47
	どちらかといえばそう思わない	4.87	5.14	4.12
	そう思わない	2.87	4.57	1.18
	この授業には該当しない	0.29	0.00	0.59
	NA	0.57	0.00	1.18
q19_2	課題の返却・事後指導が適切に行われている			
	そう思う	26.07	25.71	25.88
	どちらかといえばそう思う	21.20	23.43	19.41
	どちらともいえない	23.78	24.00	23.53
	どちらかといえばそう思わない	8.02	7.43	8.82
	そう思わない	6.59	8.00	4.71
	この授業には該当しない	13.75	11.43	16.47
	NA	0.57	0.00	1.18
q19_3	授業の内容をよく理解できている			
	そう思う	22.35	16.57	27.65
	どちらかといえばそう思う	46.99	48.57	46.47
	どちらともいえない	20.06	22.29	17.65
	どちらかといえばそう思わない	6.30	7.43	4.71
	そう思わない	2.87	4.00	1.76
	この授業には該当しない	0.57	0.57	0.59
	NA	0.86	0.57	1.18
q19_4	さらに学習したいと思う			
	そう思う	27.49	22.09	33.13
	どちらかといえばそう思う	41.81	43.60	39.76
	どちらともいえない	19.59	22.67	16.87
	どちらかといえばそう思わない	7.60	6.98	7.83
	そう思わない	2.34	3.49	1.20
	この授業には該当しない	0.58	1.16	0.00
	NA	0.58	0.00	1.20
q19_5	学生に発言させるように努力している			
	そう思う	8.60	8.57	8.24
	どちらかといえばそう思う	10.60	13.71	7.65
	どちらともいえない	21.49	21.71	21.18
	どちらかといえばそう思わない	16.91	16.00	18.24
	そう思わない	15.19	16.00	14.71
	この授業には該当しない	26.65	24.00	28.82
	NA	0.57	0.00	1.18
q19_6	授業を進めるペースが適切である			
	そう思う	34.80	30.23	39.76
	どちらかといえばそう思う	42.98	41.86	45.18
	どちらともいえない	12.28	18.02	6.63
	どちらかといえばそう思わない	4.09	3.49	3.61

	そう思わない	1.17	1.16	0.60
	この授業には該当しない	4.09	5.23	3.01
	NA	0.58	0.00	1.20
q19_7	授業の何度は適切である			
	そう思う	35.38	31.98	39.16
	どちらかといえばそう思う	42.98	43.02	43.98
	どちらともいえない	13.16	15.70	10.24
	どちらかといえばそう思わない	4.09	4.07	4.22
	そう思わない	1.17	1.74	1.20
	この授業には該当しない	2.63	3.49	1.20
	NA	0.58	0.00	0.00
q19_8	小テストや課題を適宜取り入れている			
	そう思う	35.82	38.86	31.76
	どちらかといえばそう思う	29.80	29.14	31.18
	どちらともいえない	11.75	13.71	10.00
	どちらかといえばそう思わない	7.16	4.57	9.41
	そう思わない	6.02	5.71	6.47
	この授業には該当しない	8.88	8.00	10.00
	NA	0.57	0.00	1.18
q19_9	教員の熱意が感じられる			
	そう思う	40.64	40.70	39.76
	どちらかといえばそう思う	37.72	31.40	44.58
	どちらともいえない	13.74	18.02	9.64
	どちらかといえばそう思わない	3.80	4.07	3.61
	そう思わない	1.75	2.91	0.60
	この授業には該当しない	1.75	2.91	0.60
	NA	0.58	0.00	1.20
q19_10	教材・資料は適切である			
	そう思う	45.03	43.02	46.99
	どちらかといえばそう思う	43.27	43.60	42.77
	どちらともいえない	8.19	10.47	6.02
	どちらかといえばそう思わない	2.05	1.74	2.41
	そう思わない	0.58	0.58	0.60
	この授業には該当しない	0.29	0.58	0.00
	NA	0.58	0.00	1.20
q19_11	教員の声は明瞭で聞き取りやすい			
	そう思う	42.41	39.43	44.71
	どちらかといえばそう思う	25.21	21.71	29.41
	どちらともいえない	13.18	14.86	11.76
	どちらかといえばそう思わない	2.58	4.00	1.18
	そう思わない	1.72	3.43	0.00
	この授業には該当しない	13.75	16.00	11.18
	NA	1.15	0.57	1.76
q20	前セメスターの月の平均アルバイト収入額			
	なし	38.30	39.53	36.75
	1万円未満	2.92	4.07	1.81
	1万円以上3万円未満	18.42	19.19	17.47
	3万円以上5万円未満	17.54	15.70	19.88
	5万円以上7万円未満	7.31	8.72	6.02

	7万円以上9万円未満	3.80	4.65	3.01
	9万円以上	1.17	1.16	1.20
	NA	10.53	6.98	13.86
q21	前セメスターの月の平均アルバイト時間			
	なし	35.09	35.47	34.34
	10時間未満	5.26	5.81	4.82
	10時間以上30時間未満	15.79	16.86	14.46
	30時間以上50時間未満	15.20	13.37	17.47
	50時間以上70時間未満	9.65	10.47	9.04
	70時間以上90時間未満	4.68	5.23	4.22
	90時間以上	0.58	1.16	0.00
	NA	13.74	11.63	15.66
q22	前セメスターの月の平均仕送り額			
	なし	35.09	29.07	40.96
	1万円未満	2.34	2.91	1.81
	1万円以上3万円未満	9.06	13.37	4.82
	3万円以上5万円未満	18.71	19.19	18.67
	5万円以上7万円未満	14.04	18.02	9.64
	7万円以上9万円未満	3.22	4.07	2.41
	9万円以上	2.34	1.74	3.01
	NA	15.20	11.63	18.67
q23	前のセメスターに生活費はアルバイト代から月平均いくら出していたか			
	なし	48.54	47.09	50.60
	1万円未満	7.02	8.72	5.42
	1万円以上3万円未満	17.54	20.93	13.86
	3万円以上5万円未満	10.23	8.72	12.05
	5万円以上7万円未満	0.88	1.16	0.60
	7万円以上9万円未満	0.58	1.16	0.00
	9万円以上	0.29	0.58	0.00
	NA	14.91	11.63	17.47
q24	今年4月のアルバイト収入額			
	なし	69.01	71.51	66.27
	1万円未満	6.43	6.40	6.02
	1万円以上3万円未満	11.99	12.21	12.05
	3万円以上5万円未満	6.14	5.23	7.23
	5万円以上7万円未満	2.63	2.91	2.41
	7万円以上9万円未満	1.17	0.58	1.81
	9万円以上	0.88	1.16	0.60
	NA	1.75	0.00	3.61
q25	今年4月のアルバイト時間			
	なし	71.93	75.00	68.67
	10時間未満	10.53	9.30	11.45
	10時間以上30時間未満	8.19	8.14	8.43
	30時間以上50時間未満	3.22	3.49	3.01
	50時間以上70時間未満	2.34	2.33	2.41
	70時間以上90時間未満	1.46	1.16	1.81
	90時間以上	0.58	0.58	0.60
	NA	1.75	0.00	3.61
q26	今年4月の仕送り額			

	なし	42.69	36.63	47.59
	1万円未満	2.05	1.74	2.41
	1万円以上3万円未満	12.57	18.02	7.23
	3万円以上5万円未満	16.67	18.02	15.66
	5万円以上7万円未満	16.08	18.02	14.46
	7万円以上9万円未満	3.51	3.49	3.61
	9万円以上	3.22	3.49	3.01
	NA	3.22	0.58	6.02
q27	今年4月の奨学金受給額			
	なし	70.47	73.26	67.47
	3万円未満	4.68	2.33	7.23
	3万円以上5万円未満	7.02	7.56	6.63
	5万円以上8万円未満	10.53	12.21	9.04
	8万円以上	4.97	4.07	5.42
	NA	2.34	0.58	4.22
q28_1	今年4月の学費の支出元(複数選択可)			
	家庭	88.01	89.53	86.75
	アルバイト	14.04	17.44	10.84
	奨学金	19.01	20.35	18.07
	その他	1.75	1.74	1.81
	NA	2.92	1.74	3.61
q29	今年4月に生活費はアルバイト代から月平均いくら出していたか			
	なし	70.18	66.86	74.10
	1万円未満	9.94	11.63	8.43
	1万円以上3万円未満	10.53	14.53	6.02
	3万円以上5万円未満	5.26	4.65	6.02
	5万円以上7万円未満	0.88	1.74	0.00
	7万円以上9万円未満	0.00	0.00	0.00
	9万円以上	0.00	0.00	0.00
	NA	3.22	0.58	5.42
q30	今年4月の生活費以外の出費の月平均			
	なし	26.90	26.74	26.51
	5千円未満	25.44	22.67	28.31
	5千円以上1万円未満	24.85	27.91	22.29
	1万円以上2万円未満	11.70	14.53	9.04
	2万円以上3万円未満	4.39	3.49	5.42
	3万円以上	3.22	4.07	2.41
	NA	3.51	0.58	6.02
q31	普段利用しているSNS(複数選択可)			
	Twitter	77.19	73.84	80.12
	LINE	97.95	96.51	99.40
	Instagram	60.23	51.16	69.88
	Facebook	15.50	16.28	15.06
	SNSは利用していない	0.29	0.58	0.00
	その他	0.00	0.00	0.00
	NA	0.29	0.58	0.00
q32	SNSに投稿する頻度			
	ほぼ毎日	18.13	18.02	17.47
	1週間に4～5日程度	6.14	5.81	6.63

	1週間に2～3日程度	9.94	8.72	11.45
	1週間に1日程度	7.31	8.14	6.63
	2週間に1日程度	10.53	9.30	11.45
	それ未満	47.66	49.42	46.39
	NA	0.29	0.58	0.00
q33	今セメスターに平均で1日どのくらいSNSでメッセージのやり取りをしているか			
	全くしていない	6.02	6.29	5.88
	5分未満	16.04	16.58	14.70
	5～15分未満	20.92	23.43	18.82
	15～30分未満	18.05	18.29	18.24
	30分～1時間未満	21.78	20.00	24.12
	1時間～2時間未満	10.03	9.71	10.00
	2時間以上	7.16	5.71	8.24
	NA	0.00	0.00	0.00
q34	今セメスターに友人とのSNSでのメッセージのやり取りで多い会話の内容			
	事務連絡	21.49	22.86	20.59
	遊びや飲み会の約束	4.87	9.14	0.59
	愚痴や悩みごとの相談	9.74	10.86	7.65
	近況報告	50.14	39.40	61.18
	その他	7.16	10.85	3.53
	NA	6.59	6.85	6.47
q35	前セメスターに平均で1日どのくらいSNSでメッセージのやり取りをしていたか			
	全くしていない	8.88	9.14	8.24
	5分未満	8.60	9.71	7.06
	5～15分未満	16.90	20.57	13.53
	15～30分未満	20.06	20.00	20.59
	30分～1時間未満	17.48	15.43	20.00
	1時間～2時間未満	7.45	7.43	7.65
	2時間以上	4.01	2.86	5.29
	NA	16.62	14.86	17.65
q36	前セメスターに友人とのSNSでのメッセージのやり取りで多い会話の内容			
	事務連絡	23.21	25.71	20.59
	遊びや飲み会の約束	20.63	21.71	20.00
	愚痴や悩みごとの相談	9.46	9.14	10.00
	近況報告	16.62	13.14	20.59
	その他	2.00	3.43	0.59
	NA	28.08	26.86	28.23
q37_1	SNSを見ていると、他人が自分よりも幸せそうだと感じる			
	あてはまる	18.05	14.86	20.59
	どちらかといえばあてはまる	24.36	23.43	25.29
	どちらともいえない	18.05	19.43	16.47
	どちらかといえばあてはまらない	11.46	10.29	12.94
	あてはまらない	27.79	31.43	24.71
	NA	0.29	0.57	0.00
q37_2	何か良いことを投稿しなければと、無理に背伸びをしてしまう			
	あてはまる	2.29	2.86	1.76
	どちらかといえばあてはまる	14.04	9.71	18.24
	どちらともいえない	9.46	10.86	7.65
	どちらかといえばあてはまらない	16.33	18.29	14.71

	あてはまらない	57.59	57.71	57.65
	NA	0.29	0.57	0.00
q37_3	スマホをしている最中に話しかけられると、イラッとすることがある			
	あてはまる	2.87	3.43	2.35
	どちらかといえばあてはまる	8.02	8.57	7.65
	どちらともいえない	13.47	14.23	11.76
	どちらかといえばあてはまらない	19.20	18.86	20.00
	あてはまらない	55.87	54.29	57.65
	NA	0.57	0.57	0.59
q37_4	現実から逃避するためにスマホを使うことがある			
	あてはまる	21.78	19.43	22.94
	どちらかといえばあてはまる	33.52	28.00	40.00
	どちらともいえない	10.32	10.86	9.41
	どちらかといえばあてはまらない	11.46	13.14	10.00
	あてはまらない	22.35	28.00	17.06
	NA	0.57	0.57	0.59
q37_5	他にしなければならないことがあるのに、スマホをしてしまうことがある			
	あてはまる	34.10	33.14	34.12
	どちらかといえばあてはまる	41.83	38.29	46.48
	どちらともいえない	8.02	8.57	7.06
	どちらかといえばあてはまらない	8.03	10.29	5.90
	あてはまらない	7.45	8.57	6.50
	NA	0.57	1.14	0.00
q37_6	スマホのせいで、夜更かしをしてしまったり、寝不足になったりすることがある			
	あてはまる	25.50	24.60	25.90
	どちらかといえばあてはまる	31.20	27.40	35.90
	どちらともいえない	8.60	10.30	6.50
	どちらかといえばあてはまらない	16.90	18.30	15.90
	あてはまらない	17.20	18.30	15.90
	NA	0.60	1.10	0.00
q38	前セメスターの普段の睡眠時間			
	5時間未満	4.00	4.60	3.50
	5～6時間未満	16.90	13.10	21.20
	6～7時間未満	33.80	34.90	32.90
	7～8時間未満	21.80	23.40	19.40
	8～9時間未満	3.20	5.10	1.20
	9時間以上	0.90	1.10	0.60
	NA	19.50	17.70	21.20
q39	前セメスターの普段の片道通学時間			
	10分未満	8.60	13.70	3.50
	10～20分未満	31.50	34.30	29.40
	20～30分未満	16.00	16.00	15.90
	30～40分未満	6.30	5.10	7.10
	40～50分未満	4.60	5.10	4.10
	50～60分未満	2.30	1.10	3.50
	60分以上	5.20	3.40	7.10
	NA	25.20	21.10	29.40
q40	前セメスターの普段の学友会・部活動・サークル活動の時間			
	なし	18.90	20.00	17.60

	5時間未満	18.90	21.10	16.50
	5～10時間未満	11.70	12.60	11.20
	10～15時間未満	9.20	8.00	10.60
	15～20時間未満	8.00	6.90	8.80
	20～25時間未満	4.30	5.70	2.90
	25～30時間未満	1.70	2.90	0.60
	30時間以上	2.90	2.90	2.90
	NA	24.40	20.00	28.80
q41	前セメスターの普段の授業外学習時間(週あたり)			
	1時間未満	11.20	13.70	8.80
	1～3時間未満	15.50	17.10	13.50
	3～5時間未満	19.80	20.00	19.40
	5～7時間未満	12.00	10.90	13.50
	7～9時間未満	6.60	7.40	5.90
	9～11時間未満	3.20	2.30	4.10
	11時間以上	4.30	6.30	2.40
	NA	27.50	22.30	32.40
q42	前セメスターの普段の自主学習時間(週あたり)			
	1時間未満	35.00	37.70	32.90
	1～3時間未満	18.00	16.60	19.40
	3～5時間未満	7.40	6.30	8.80
	5～7時間未満	6.00	6.30	5.90
	7～9時間未満	0.60	1.10	0.00
	9～11時間未満	0.60	1.10	0.00
	11時間以上	4.30	7.40	1.20
	NA	27.80	23.40	31.80
q43	今年4月の普段の睡眠時間			
	5時間未満	0.60	0.60	0.60
	5～6時間未満	9.70	10.30	9.40
	6～7時間未満	26.10	30.30	21.80
	7～8時間未満	38.10	37.10	38.80
	8～9時間未満	16.30	12.00	20.60
	9時間以上	8.00	8.60	7.60
	NA	1.10	1.10	1.20
q44	今年4月の普段の学友会・部活動・サークル活動の時間			
	なし	75.10	75.40	74.70
	5時間未満	14.60	16.60	12.40
	5～10時間未満	4.90	2.90	6.50
	10～15時間未満	1.70	1.10	2.40
	15～20時間未満	1.10	2.30	0.00
	20～25時間未満	0.30	0.60	0.00
	25～30時間未満	0.00	0.00	0.00
	30時間以上	0.60	0.60	0.60
	NA	2.00	0.60	3.50
q45	今年4月のセメスターの普段の授業外学習時間(週あたり)			
	1時間未満	14.00	16.60	11.80
	1～3時間未満	18.10	20.60	15.90
	3～5時間未満	18.60	19.40	17.60
	5～7時間未満	16.90	11.40	22.90

	7～9時間未満	10.30	10.30	10.00
	9～11時間未満	7.40	9.10	5.30
	11時間以上	13.50	12.80	14.70
	NA	1.10	0.00	1.80
q46	今年4月の普段の自主学習時間(週あたり)			
	1時間未満	41.80	38.30	46.50
	1～3時間未満	23.20	22.90	23.50
	3～5時間未満	10.60	10.30	10.60
	5～7時間未満	9.20	10.90	7.60
	7～9時間未満	4.90	5.70	4.10
	9～11時間未満	1.40	1.10	1.20
	11時間以上	7.70	10.30	5.30
	NA	1.10	0.60	1.20
q47	現在の日本の政治に対する関心			
	とても関心がある	10.90	16.00	5.30
	関心がある	49.30	44.60	54.10
	どちらともいえない	15.40	13.70	17.60
	あまり関心がない	19.80	19.40	20.00
	全く関心がない	4.60	6.30	2.90
	NA	0.00	0.00	0.00
q48	現在支持している政党や政治家の有無			
	ある	16.00	22.90	8.80
	ない	83.70	77.10	90.60
q49	現在の日本の政治について具体的に自分の考えを言うことができるか			
	言える	29.50	37.10	21.80
	言えない	70.20	62.30	78.20
q50	第25回参議院選挙(2019年7月21日)で投票したか			
	投票した	34.70	33.10	36.50
	選挙権を有していたが投票しなかった	42.70	45.10	40.60
	選挙権を有していなかったため投票していない	22.60	21.70	22.90
q51_1	政治問題や政治にまつわることについて、友人や家族など周囲の人と会話・意見交換する			
	あてはまる	12.60	14.90	10.60
	どちらかといえばあてはまる	29.50	26.90	32.40
	どちらともいえない	12.00	13.10	11.20
	どちらかといえばあてはまらない	22.30	20.60	24.10
	あてはまらない	22.90	23.40	21.80
	NA	0.60	1.10	0.00
q51_2	自分と同じくらいの年齢の人に比べて、自分は政治に関する知識が豊かであると思う			
	あてはまる	4.60	9.10	0.00
	どちらかといえばあてはまる	17.80	24.60	11.20
	どちらともいえない	25.80	24.60	27.10
	どちらかといえばあてはまらない	25.20	22.30	27.60
	あてはまらない	25.80	17.10	34.10
	NA	0.90	1.71	0.00
q51_3	選挙でだれが当選しても結局のところ今の政治の在り方は変わることは無い			
	あてはまる	12.30	16.00	8.20
	どちらかといえばあてはまる	28.70	27.40	30.60
	どちらともいえない	24.40	24.60	24.70
	どちらかといえばあてはまらない	20.60	16.60	24.10

	あてはまらない	13.50	14.30	12.40
	NA	0.60	1.10	0.00
q51_4	皆が積極的に意見を出し合っていけば、やがて暮らしやすい世の中になる			
	あてはまる	12.00	15.40	7.60
	どちらかといえばあてはまる	39.30	37.70	41.20
	どちらともいえない	24.90	23.40	26.50
	どちらかといえばあてはまらない	17.80	15.40	20.60
	あてはまらない	5.40	6.90	4.10
	NA	0.60	1.10	0.00
q51_5	どの政党が政権を担っても、自分には関係ない			
	あてはまる	2.90	4.60	1.20
	どちらかといえばあてはまる	10.60	10.90	10.00
	どちらともいえない	18.10	18.30	17.10
	どちらかといえばあてはまらない	37.80	34.90	41.20
	あてはまらない	30.10	30.30	30.60
	NA	0.60	1.10	0.00
q51_6	政治の問題を扱う番組や、インターネット・新聞の記事を見る・読むのが好きだ			
	あてはまる	7.20	10.30	4.10
	どちらかといえばあてはまる	26.60	27.40	25.30
	どちらともいえない	22.6	24.60	20.60
	どちらかといえばあてはまらない	26.90	22.30	32.40
	あてはまらない	16.00	14.30	17.60
	NA	0.60	1.10	0.00
q52	日本の経済全般に対する関心			
	とても関心がある	14.30	21.10	7.60
	関心がある	38.70	37.10	41.20
	どちらともいえない	19.80	17.70	22.40
	あまり関心がない	22.10	18.30	25.30
	全く関心がない	4.30	4.60	3.50
	NA	0.90	1.10	0.00
q53	「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考えに対する賛否			
	賛成	2.90	4.60	1.20
	どちらかといえば賛成	10.60	19.40	1.80
	どちらかといえば反対	39.00	38.30	38.80
	反対	47.00	36.60	58.20
	NA	0.60	1.10	0.00
q54	将来結婚したいかどうか			
	したい	79.90	79.40	80.60
	したくない	18.30	18.30	18.80
	すでに結婚している	0.60	0.60	0.60
q55	女性の結婚後の仕事についての考え方			
	結婚を機にやめたい(やめてほしい)	1.10	2.30	0.00
	出産を機にやめたい(やめてほしい)	4.90	7.40	2.40
	やめずに仕事を続けたい(続けてほしい)	52.10	43.40	61.20
	結婚・出産を機にいったんやめ、後で再就職したい(してほしい)	24.40	16.00	33.50
	その他	14.90	25.70	2.90
	NA	2.60	5.10	0.00
q56	結婚後の家事の分担希望			
	1(すべて自分でやる)	0.90	1.10	0.60

	2	2.90	2.90	2.90
	3	23.80	16.60	30.60
	4	56.20	53.10	59.40
	5	11.50	18.90	4.10
	6	2.30	4.60	0.00
	7(すべてパートナーに任せる)	0.90	0.60	1.20
	NA	1.70	2.30	1.20
q57	子どもができたときの育児の分担希望			
	1(すべて自分でやる)	0.30	0.60	0.00
	2	4.30	3.50	4.70
	3	22.00	9.90	33.50
	4	54.50	55.00	55.30
	5	15.40	25.70	4.70
	6	2.90	4.70	1.20
	7(すべてパートナーに任せる)	0.60	0.60	0.60
	NA	0.00	0.00	0.00
q58	現在の生活形態			
	両親と一緒に生活している	35.00	29.10	40.60
	両親以外の家族(きょうだいや親戚など)と一緒に生活している	2.60	1.70	3.50
	学校などの寮で生活している	8.30	6.90	9.40
	アパート・マンションを借りて一人で生活している	50.70	58.90	42.90
	その他	3.20	2.90	3.50
	NA	0.30	0.60	0.00
q59_1	自分が注目されていないと、つい人の気を引きたくなる			
	あてはまる	2.30	1.10	2.90
	どちらかといえばあてはまる	23.50	23.40	23.50
	どちらともいえない	19.50	18.90	20.60
	どちらかといえばあてはまらない	28.40	28.60	28.80
	あてはまらない	26.10	27.40	24.10
	NA	0.30	0.60	0.00
q59_2	皆から注目され愛される有名人になりたいと思うことがある			
	あてはまる	7.40	6.30	8.20
	どちらかといえばあてはまる	27.50	25.10	29.40
	どちらともいえない	17.80	20.00	15.90
	どちらかといえばあてはまらない	22.60	22.30	23.50
	あてはまらない	24.40	25.70	22.90
	NA	0.30	0.60	0.00
q59_3	小さなことでもイライラしてしまう			
	あてはまる	9.20	10.90	7.10
	どちらかといえばあてはまる	30.90	29.10	32.40
	どちらともいえない	19.20	18.30	20.00
	どちらかといえばあてはまらない	23.80	25.70	22.40
	あてはまらない	16.60	15.40	18.20
	NA	0.30	0.60	0.00
q59_4	なにごとにもやる気が出ない日がある			
	あてはまる	43.00	37.70	47.60
	どちらかといえばあてはまる	36.70	40.60	33.50
	どちらともいえない	6.00	8.00	4.10
	どちらかといえばあてはまらない	9.50	10.30	8.20

	あてはまらない	4.90	2.90	6.50
	NA	0.30	0.60	0.00
q59_5	疲れを感じるが多い			
	あてはまる	24.90	25.10	24.10
	どちらかといえばあてはまる	36.70	37.10	35.90
	どちらともいえない	17.50	16.60	18.80
	どちらかといえばあてはまらない	14.00	11.40	17.10
	あてはまらない	6.30	8.60	4.10
	NA	0.60	1.10	0.00
q60_1	普段、友人と積極的にコミュニケーションをとっているか			
	あてはまる	24.40	18.30	30.60
	どちらかといえばあてはまる	34.40	40.00	29.40
	どちらともいえない	14.90	14.30	15.30
	どちらかといえばあてはまらない	18.10	15.40	20.60
	あてはまらない	7.70	10.90	4.10
	NA	0.60	1.10	0.00
q60_2	普段、家族と積極的にコミュニケーションをとっているか			
	あてはまる	29.80	21.10	38.80
	どちらかといえばあてはまる	31.80	32.00	31.80
	どちらともいえない	15.20	15.40	15.30
	どちらかといえばあてはまらない	17.80	24.60	10.60
	あてはまらない	4.90	5.70	3.50
	NA	0.60	1.10	0.00
q61_1	周りから目立った行動はできればたくない			
	あてはまる	20.30	20.60	20.00
	どちらかといえばあてはまる	40.40	40.00	41.80
	どちらともいえない	20.90	24.60	16.50
	どちらかといえばあてはまらない	15.50	12.00	18.80
	あてはまらない	2.60	2.30	2.90
	NA	0.30	0.60	0.00
q61_2	自分に対して自信を持っている			
	あてはまる	8.00	8.60	7.60
	どちらかといえばあてはまる	26.40	30.30	21.80
	どちらともいえない	20.90	18.30	24.10
	どちらかといえばあてはまらない	28.70	27.40	30.00
	あてはまらない	1.50	14.90	15.90
	NA	0.60	0.60	0.60
q61_3	一人で履修する授業を決める			
	あてはまる	47.60	50.30	43.50
	どちらかといえばあてはまる	24.60	24.60	25.30
	どちらともいえない	9.50	8.00	11.20
	どちらかといえばあてはまらない	12.00	12.60	11.80
	あてはまらない	6.00	4.00	8.20
	NA	0.30	0.60	0.00
q61_4	一人で昼食をとる			
	あてはまる	31.20	33.10	28.80
	どちらかといえばあてはまる	24.90	25.70	23.50
	どちらともいえない	16.90	19.40	14.70
	どちらかといえばあてはまらない	16.00	13.70	18.80

	あてはまらない	10.00	6.90	13.50
	NA	0.90	1.10	0.60
q61_5	空き時間を一人で過ごす			
	あてはまる	35.50	39.40	30.60
	どちらかといえばあてはまる	31.20	30.90	31.80
	どちらともいえない	16.90	16.00	18.20
	どちらかといえばあてはまらない	11.20	9.10	13.50
	あてはまらない	3.40	2.90	4.10
	NA	1.70	1.70	1.80
q61_6	お互いに信頼し、心を打ち明けることのできる相手がいる			
	あてはまる	46.10	38.30	55.30
	どちらかといえばあてはまる	30.40	35.40	24.70
	どちらともいえない	11.50	10.90	11.20
	どちらかといえばあてはまらない	7.20	7.40	7.10
	あてはまらない	4.30	6.90	1.80
	NA	0.60	1.10	0.00
q61_7	自分が困った時に相談できて、相手が困った時に相談に乗れる人間関係がある			
	あてはまる	41.50	32.00	52.40
	どちらかといえばあてはまる	33.50	38.90	27.60
	どちらともいえない	13.20	13.70	12.40
	どちらかといえばあてはまらない	6.30	6.90	5.90
	あてはまらない	5.20	8.00	1.80
	NA	0.30	0.60	0.00
q61_8	自分を支えてくれる相手がいいて、自分も必要な時に相手の支えになることができる			
	あてはまる	39.50	31.40	48.20
	どちらかといえばあてはまる	31.20	33.10	28.20
	どちらともいえない	17.80	20.00	15.90
	どちらかといえばあてはまらない	6.00	6.90	5.30
	あてはまらない	5.20	8.00	2.30
	NA	0.30	0.60	0.00
q61_9	人と同じ行動はしたくない			
	あてはまる	7.70	8.00	7.60
	どちらかといえばあてはまる	25.80	25.10	25.30
	どちらともいえない	30.70	31.40	30.00
	どちらかといえばあてはまらない	23.80	25.10	22.90
	あてはまらない	11.50	9.10	14.10
	NA	0.60	1.10	0.00
q62_1	今の自分の友人関係に満足している			
	あてはまる	35.20	34.30	35.90
	どちらかといえばあてはまる	35.20	37.10	34.10
	どちらともいえない	16.00	15.40	17.10
	どちらかといえばあてはまらない	9.70	9.70	10.00
	あてはまらない	3.20	2.30	2.90
	NA	0.60	1.10	0.00
q62_2	今の友人関係は、自分が望んでいるものと違うと思う			
	あてはまる	5.70	6.90	4.10
	どちらかといえばあてはまる	14.30	17.10	11.20
	どちらともいえない	18.30	20.00	17.10
	どちらかといえばあてはまらない	39.00	33.70	44.80

	あてはまらない	22.10	21.10	22.90
	NA	0.60	1.10	0.00
q62_3	今の友人付き合いが本当はつらい時がある			
	あてはまる	4.30	2.90	5.30
	どちらかといえばあてはまる	15.20	9.70	20.00
	どちらともいえない	16.60	19.40	14.10
	どちらかといえばあてはまらない	29.50	32.00	27.10
	あてはまらない	33.80	34.90	33.50
	NA	0.60	1.10	0.00
q63	現在の生活に満足しているか			
	満足している	17.80	14.90	21.20
	まあまあ満足している	51.30	54.90	48.20
	どちらともいえない	13.50	10.30	16.50
	少し不満である	13.20	12.60	12.90
	多いに不満である	4.00	6.90	1.20
	NA	0.30	0.60	0.00
q64	現在不安に感じていること			
q64_1	経済状況に対する不安	30.10	26.90	34.10
q64_2	学習に対する不安	64.20	60.00	68.80
q64_3	生活への不安	30.90	30.90	30.90
q64_4	健康への不安	20.60	19.40	21.80
q64_5	人間関係への不安	33.80	30.30	36.50
q64_6	就職活動への不安	69.30	65.70	72.40
q64_7	あてはまるものはない	4.90	8.60	1.20
q64_8	その他	1.10	1.70	0.60
q64_s	NA	0.00	0.00	0.00
q65	1週間に何日くらい朝食を食べるか			
	ほとんど毎日食べる	57.60	53.70	61.80
	だいたい毎日食べる(1週間に4~5日くらい)	12.90	14.30	11.20
	ときどき食べる(1週間に2~3日くらい)	16.30	16.00	17.10
	たいてい食べない	12.60	14.90	10.00
	NA	0.60	1.10	0.00
q66	普段の起床時間			
	~5:59	4.90	4.60	4.70
	6:00~6:59	13.20	11.40	14.70
	7:00~7:59	22.30	23.40	21.80
	8:00~8:59	30.70	28.60	33.50
	9:00~9:59	16.60	18.30	14.70
	10:00~	11.50	11.50	10.00
	NA	0.90	0.90	0.60
q67_1	東北大学を受験する際に重視したこと:就職に有利であること			
	あてはまる	16.90	20.00	13.50
	どちらかといえばあてはまる	35.20	29.10	41.80
	どちらともいえない	11.50	12.60	10.60
	どちらかといえばあてはまらない	14.30	13.10	15.90
	あてはまらない	21.20	23.40	18.20
	NA	0.90	1.80	0.00
q67_2	東北大学を受験する際に重視したこと:就職後、多くの収入・給与を得られること			
	あてはまる	13.50	14.90	11.80

	どちらかといえばあてはまる	32.70	29.10	36.50
	どちらともいえない	12.90	13.10	12.90
	どちらかといえばあてはまらない	15.50	14.30	17.10
	あてはまらない	24.60	26.90	21.80
	NA	0.90	1.70	0.00
q67_3	東北大学を受験する際に重視したこと:高い社会的地位を得ること			
	あてはまる	14.30	17.70	10.60
	どちらかといえばあてはまる	37.20	33.10	41.80
	どちらともいえない	13.50	14.30	12.90
	どちらかといえばあてはまらない	15.20	12.60	18.20
	あてはまらない	19.20	21.10	16.50
	NA	0.60	1.10	0.00
q68_1	現在までの大学生活への評価:周りに溶け込んでいると感じる			
	あてはまる	8.00	5.10	11.20
	どちらかといえばあてはまる	29.20	28.00	30.60
	どちらともいえない	25.80	27.40	24.70
	どちらかといえばあてはまらない	19.20	18.30	20.00
	あてはまらない	16.00	18.90	12.40
	NA	1.70	2.30	1.20
q68_2	現在までの大学生活への評価:周りから頼られていると感じる			
	あてはまる	5.16	5.70	4.70
	どちらかといえばあてはまる	18.30	14.90	21.80
	どちらともいえない	31.20	33.10	30.00
	どちらかといえばあてはまらない	19.50	18.90	20.60
	あてはまらない	23.80	25.10	21.20
	NA	2.00	2.30	1.80
q68_3	現在までの大学生活への評価:周りに迷惑をかけていると感じる			
	あてはまる	6.30	6.30	5.30
	どちらかといえばあてはまる	12.90	10.90	15.30
	どちらともいえない	31.20	34.90	28.20
	どちらかといえばあてはまらない	26.10	20.60	31.80
	あてはまらない	22.10	25.10	18.80
	NA	1.40	2.30	0.60
q68_4	現在までの大学生活への評価:将来役立つことが学べる			
	あてはまる	23.20	22.30	24.70
	どちらかといえばあてはまる	44.70	40.00	49.40
	どちらともいえない	20.60	25.10	15.90
	どちらかといえばあてはまらない	7.20	6.90	7.60
	あてはまらない	2.90	3.40	1.80
	NA	1.40	2.30	0.60
q69	課外活動を含めた総合的な面で大学生活に満足しているか			
	あてはまる	18.10	16.00	20.60
	どちらかといえばあてはまる	41.00	43.40	38.80
	どちらともいえない	21.80	22.90	20.00
	どちらかといえばあてはまらない	7.20	6.30	8.20
	あてはまらない	9.50	9.10	9.40
	NA	2.60	2.30	2.90
q70	現在、学友会、サークル、アルバイトなどの所属・活動の有無			
	所属・活動している	68.50	70.30	66.50

	所属・活動していない	30.90	29.10	32.90
q71	所属・活動している団体			
	学友会	46.60	47.50	45.10
	サークル	54.80	58.70	50.40
	アルバイト	54.60	56.30	52.90
	ボランティア活動	21.00	21.20	21.10
	あてはまるものはない	2.70	3.70	1.80
	その他	2.70	0.00	5.10
	NA	0.00	0.00	0.00
q72	所属している団体の前セメスターの1週間の活動時間(平均)	374.50	330.70	423.00
q73	所属している団体の活動に意欲的に取り組んでいるか			
	そう思う	26.90	25.70	28.20
	どちらかといえばそう思う	26.40	29.10	24.10
	どちらともいえない	5.40	5.10	5.30
	どちらかといえばそう思わない	4.30	3.40	5.30
	そう思わない	4.00	5.10	2.40